

0700迄 (2145件)

- 601年 00:00|イギリス| |||<死去>ビ°外王「Gartnaidh mac Domhnaill (Gartnait2世)」
- 601年 00:00|イギリス| |||<即位>ビ°外王「Nechtan mac Canainn」(~612年死去)
- 601年2月8日-08:00|中国| ||高昌・建昌41年|<即位>高昌国王「高昌王麴伯雅」(~613年)
- 601年2月8日-08:00|中国| ||隋・仁壽1年|山キョウが乱を起こした/文帝は、衛尉少卿の衛文昇を資州刺史として鎮撫させた
- 601年2月8日-08:00|中国| ||隋・仁壽1年|潮、成等五州のヨウが造反/文帝は、江、嶺から兵を徴発し、馮央の指揮下につけてヨウを討伐させた
- 601年2月8日-08:00|中国| ||東突厥・啓民15年;隋・仁壽1年|突厥の歩迦可汗が辺境を荒らし、代州総管韓弘を敗った
- 601年2月8日-08:00|中国| ||隋・仁壽1年|隋の文帝楊堅が仁寿(-604年)と改元
- 601年5月10日-09:00|日本| ||推古9年4月3日|蘇我馬子大臣就任
- 601年6月6日-08:00|モンゴル/中国| ||隋・仁壽1年5月|突厥の男女九万人が隋へ降伏
- 601年12月-01:00|スペイン| |||<死去>西ゴ°ト王「レカト°1世」
- 601年12月-01:00|スペイン| |||<即位>西ゴ°ト王国国王「リウガ°ア2世」(~603. 6)
- 602年-07:00|ベトナム| |||<死去>前李朝国王「後李南帝李仏子」
- 602年-01:00|イタリヤ| |||<死去>スレ°レート公「アリウフ」
- 602年-01:00|イタリヤ| |||<即位>スレ°レート公「テオ°ラッフ°」(~652年死去)
- 602年1月29日-09:00|日本|長野県飯田市|推古10年|元善光寺創建
- 602年1月29日-08:00|中国| ||高昌・延和1年|高昌のか伯雅が延和(-613年)と改元
- 602年1月29日-08:00|中国/モンゴル| ||隋・仁壽2年;東突厥・啓民16年|突厥の思力俟斤等が黄河を渡って、啓民可汗を襲撃/楊素は追撃し大勝利
- 602年1月29日-08:00|中国/ベトナム| ||隋・仁壽2年|隋軍がベ°トナム北部を占領し前李朝は滅ぼされた/交州総管府を設置
- 602年8月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真平王23年;百濟・武王3年8月|百濟の法王が新羅の阿莫山城(全羅北道南原市)を包囲したが新羅真平王の派遣した騎兵隊の前に大敗
- 602年10月21日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||百濟・武王3年;推古10年10月|百濟僧觀勒が渡来し曆・天文地理・遁甲方術の書を伝来
- 602年11月22日-02:00|トルコ| |||<退位>東ローマ帝国皇帝(ユスティニアヌス朝)「マリキウス」兵の反乱により逃亡、捕らえられる
- 602年11月23日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝「フォカス」ト°ナ川国境に駐屯する百人隊長(~06101005死去)
- 602年11月27日-02:00|トルコ| |||<死去>前東ローマ帝国皇帝(ユスティニアヌス朝)マリキウス処刑される(ユスティニアヌス朝の血統断絶)
- 603年-08:00|中国| |||<死去>西面可汗第2代可汗「達頭可汗(テノ°厥、歩迦可汗、トル°ウカ°ン)」
- 603年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア国王「ゴ°ストゥン」(~605年)
- 603年2月16日-08:00|中国| ||西突厥・處羅1年|<死去>西突厥第2代可汗「泥利可汗(ニリカ°ン)」戦死
- 603年2月16日-08:00|中国| ||西突厥・處羅1年|<即位>西突厥第3代可汗「泥ケ°処羅可汗(達漫、曷薩那可汗)」泥利可汗の子(~611. 12.退位)
- 603年2月16日-08:00|中国/モンゴル| ||東突厥・啓民17年|歩迦可汗の所部が大いに乱れ鉄勒の僕骨等十余部が歩迦可汗から離れて啓民可汗へ降伏
- 603年3月21日-09:00|日本|福岡県|推古11年2月4日|<死去>来目皇子(不明)用明天皇の皇子. 新羅征討の途中、筑紫で病死
- 603年6月-01:00|スペイン| |||<死去>西ゴ°ト王国国王「リウガ°ア2世」
- 603年6月-01:00|スペイン| |||<即位>西ゴ°ト王国国王「ウイテリク」(~610. 4.死去)
- 603年8月18日-09:00|日本| ||推古11年7月6日|<死去>舍人皇女(不明)欽明天皇の皇女
- 603年9月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真平王24年;高句麗・嬰陽14年8月|高句麗が北漢山城に侵入した際には親征して高句麗を撃退
- 603年11月11日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|推古11年10月3日|飛鳥の小墾田に都を移す
- 603年12月9日-09:00|日本|京都府京都市右京区|推古11年11月1日|帰化人系の豪族秦河勝が聖徳太子より仏像を受け、蜂岡寺(広隆寺)創建<真言宗御室派>
- 604年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド°上王「アエド°ウアリド°ナハ」(~612年)
- 604年 00:00|イギリス| |||<即位>エッセクス王「サベルト°スレグ」の息子(~616年)
- 604年1月11日-09:00|日本| ||推古11年12月5日|聖徳太子が大徳・小徳・大仁・小仁・大礼・小礼・大信・小信・大義・小義・大智・小智の冠位12階の制度を制定/階毎に色が決まっていた
- 604年2月6日-09:00|日本| ||推古12年1月1日|初めて曆(宗の元嘉曆)を採用
- 604年3月12日-01:00|パチン| |||<死去>第64代ローマ教皇「グレゴ°リウス1世」/64歳(誕生540年)
- 604年5月6日-09:00|日本| ||推古12年4月3日|聖徳太子が「憲法十七条」を制定
- 604年8月13日-08:00|中国| ||隋・仁壽4年7月13日|<死去>隋初代皇帝「文帝(楊堅)」/63歳(誕生541年)
- 604年8月21日-08:00|中国| ||隋・仁壽4年7月21日|<即位>隋第2代皇帝「煬帝(楊広)」(~618年4月11日)文帝の子
- 604年8月31日-08:00|中国| ||隋・仁壽4年8月|漢王が決起/楊素は、漢王・楊諒を攻撃して、大いに敗り、蕭摩訶を捕らえた/漢王が降伏/余党も全て平定された/漢王諒の乱は終わった
- 604年9月13日-01:00|パチン| |||<就任>第65代ローマ教皇「サビ°ニアヌス」(~06060222死去)
- 604年9月29日-09:00|日本| ||推古12年9月|朝廷での礼法を改正/「宮門」へ入る時には両手を地面につけ膝まづき、そのままの姿勢で敷居を超えてから立ち上がり歩くようにされた

0700迄 (2145件)

- 605年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルツバン「スムバト4世バゲラトゥーニ」(~611年)
- 605年1月25日-08:00|中国| ||隋・大業1年|この年、通済渠を開く
- 605年1月25日-08:00|中国/モンゴル| ||西突厥・處羅3年|處羅可汗は鉄勒の諸部を攻撃/鉄勒は団結し契必の俟利發侯斤を立てて莫何可汗とし處羅可汗と戦い勝利を収めた
- 605年1月25日-08:00|中国/ベトナム| ||隋・大業1年1月|劉方は林邑王梵志を撃破、梵志軍は逃げ出した/林邑は大敗
- 605年1月25日-08:00|中国| ||隋・大業1年1月1日|隋の煬帝楊広が大業(-618年)と改元
- 605年8月20日-09:00|日本| ||推古13年閏7月1日|聖徳太子、諸王・諸臣に褶を着用させる
- 605年11月17日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|推古13年10月|斑鳩宮完成、聖徳太子、斑鳩宮に遷る
- 605年11月17日-08:00|中国| ||隋・大業1年10月|隋は右翊衛將軍薛世雄を行軍將軍として伊吾を攻撃させた/伊吾は恐れて降伏
- 606年-05:30|インド| |||<即位>グアルタナ朝君主「ハルシャ・グアルタナ」(~647年死去)
- 606年 00:00|イギリス| |||<死去>マーシア王「ビュバ・Creodan sunu」
- 606年 00:00|イギリス| |||<即位>マーシア王「チェル」(~626年死去)
- 606年2月13日-09:00|日本|滋賀県東近江市|推古10年|聖徳太子、百済寺創建<天台宗>
- 606年2月22日-01:00|パチン| |||<死去>第65代ローマ教皇「シベニアス」
- 606年8月21日-09:00|日本| ||推古14年7月13日|(~16日)宮中で初めてのお盆行事(お中元の起源)
- 607年-07:00|オース| |||タイ族が雲南からオース北部へ移動を開始
- 607年2月2日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|推古15年|聖徳太子、斑鳩寺(法隆寺)創建<聖徳宗総本山>【世界一古い木造建築物】
- 607年2月2日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高句麗・嬰陽王18年|この年、高句麗が突厥の啓民可汗に遣使
- 607年2月2日-08:00|中国| ||隋・大業3年|裴矩は西域図記三巻を作成し、献上/四十四国の風俗が記載されていた/別に地図を作った
- 607年2月19日-01:00|パチン| |||<就任>第66代ローマ教皇「ホニアティウス3世」(~6071112死去)
- 607年5月2日-08:00|中国| ||隋・大業3年4月|大業律令が施行された
- 607年5月15日-08:00|中国| ||隋・大業3年4月14日|壬辰、州を改めて郡とし、測量の単位を改めた/上柱国以下の官位を大夫と改称、殿内省を設置/謁者台、司隸台を増設/太府寺を分けて少府監を設置
- 607年7月30日-08:00|中国| ||隋・大業3年7月|長城を築く
- 607年8月1日-08:00|中国/日本| ||推古15年7月3日|遣隋使として小野妹子らを隋に送る(600以来第2次の遣隋使)
- 607年11月12日-01:00|パチン| |||<死去>第66代ローマ教皇「ホニアティウス3世」
- 608年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Sangha Tissa2世」Aggabodhi2世の兄弟⇒「Moggallana3世」(~614年)
- 608年-04:00|アルメニア| |||<即位>ゴガレネ公(ミヘラント朝)「ヴァラム・アルシュヤ5世」(~627年)
- 608年1月23日-08:00|中国| ||隋・大業4年1月|永済渠を築く(黄河~夕郡)
- 608年5月20日-09:00|日本| ||推古16年4月|小野妹子、隋の答礼使、裴世清を伴い帰国
- 608年8月17日-08:00|中国| ||隋・大業4年|吐谷渾・伏允12年7月|裴矩は鉄勒をそそのかして吐谷渾を攻撃させ、大勝利/吐谷渾の伏允可汗は東へ逃げ、西平へ入った
- 608年8月25日-01:00|パチン| |||<就任>第67代ローマ教皇「ホニアティウス4世」(~6150508死去)
- 608年9月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・嬰陽王19年;新羅・真平王29年8月|高句麗の侵入により牛鳴山城を陥落させられた
- 608年10月25日-09:00|日本| ||推古16年9月11日|第3回遣隋使として小野妹子が高向玄理・南淵請安らと再度隋に行く
- 608年11月13日-08:00|中国/インドネシア| ||隋・大業4年10月|赤土(マトラ島東部・パレバン付近)が隋に入貢
- 608年11月13日-08:00|中国| ||隋・大業4年10月|隋は右翊衛將軍・薛世雄に伊吾を攻撃させた/伊吾は降伏
- 609年2月10日-08:00|中国| ||東突厥・始畢1年|<死去>東突厥初代可汗「啓民可汗(染干)」
- 609年2月10日-08:00|中国| ||東突厥・始畢1年|<即位>東突厥第2代可汗「始畢可汗(咄吉世)」(~619年)啓民可汗の長男、隋に攻め入り朝貢を停止する
- 609年3月11日-08:00|中国| ||隋・大業5年|吐谷渾・伏允13年2月|李淵軍が吐谷渾軍を撃破、楊玄感率いる2万の隋軍が伏允を後背から攻め込み伏允は逃亡し吐谷渾軍は大敗
- 609年4月17日 00:00|イギリス| |||<死去>ダリア王「Aedan mac Garbain」
- 609年4月17日 00:00|イギリス| |||<即位>ダリア王「Connadh cerr mac Conaill」(~629年死去)
- 609年5月16日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|推古17年4月8日|仏師・鞍作止利により飛鳥大仏建立<日本最古の鑄造大仏/法興寺>
- 609年7月7日-08:00|中国| ||隋・大業5年|吐谷渾・伏允13年6月|左光禄大夫梁默が伏允軍に敗北/衛尉卿の劉權が伊吾道から進軍して吐谷渾を攻撃、伏俟城まで至った
- 609年7月24日-08:00|中国| ||隋・大業5年6月18日|癸丑、西海、河源、セソソ、且末等の郡を設置
- 609年10月4日-09:00|日本| ||推古17年9月|遣隋使小野妹子らが帰国
- 610年-05:30|インド| |||<即位>チャルキア朝国王「フラーン2世」(~642年)
- 610年-03:00|サウジアラビア| |||モハメドがイスラム教を唱える唯一神アラーを信ずる。聖地はメッカ
- 610年-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<死去>ハイルン公「タッロ1世」
- 610年-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<即位>ハイルン公「ガリヴァルト2世」(~630年死去)

0700迄 (2145件)

- 610年 00:00|イギリス| |||<即位>ホーイス王「Selyf ap Cynan」(~616年死去)
- 610年1月30日-08:00|中国| ||隋・大業6年|隨の煬帝、大運河完成
- 610年1月30日-08:00|中国/日本|沖縄県|隋・大業6年|煬帝は虎賁郎将陳稜、朝請大夫張鎮周へ一万余の兵を与え、討伐隊として琉球国へ到着/琉球王渴刺兜は、迎撃軍を派遣したが、屢々敗北、隋軍は渴刺兜を斬る
- 610年1月30日-09:00|日本| ||推古18年;隋・大業6年1月|第4回遣隋使を派遣
- 610年3月30日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||推古18年3月|高句麗から彩色、紙、墨などの製法が伝わる
- 610年4月-01:00|スペイン| |||<死去>西哥ート王国国王「ウイリック」
- 610年4月-01:00|スペイン| |||<即位>西哥ート王国国王「グンデマル」(~612.2死去)
- 610年10月5日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝「フォカス」反乱軍に処刑される
- 610年10月5日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(ヘラクレイオス朝)「ヘラクレイオス」アルメニア貴族の加パゴ 総督大ヘラクレイオスの息子(~06410211死去)
- 611年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルツパン「シャランペット」(~613年)
- 611年-01:00|イタリヤ| |||<死去>フリウリ領主「ギスル2世」
- 611年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ領主「タツ」ギスル2世の子(~617年死去)、「カッコ」タツの兄弟(~617年死去)
- 611年 00:00|イギリス| |||<死去>ゲウセ王「チウォルフ・Cuthwulfes sunu」
- 611年 00:00|イギリス| |||<即位>ゲウセ王「Cwichelm」(~636年死去)、「キネイルス」(~643年死去)
- 611年2月18日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||百済・法王13年;隋・大業7年|百済が隋に遣使し、高句麗を牽制
- 611年11月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・武王12年;新羅・真平王32年10月|百済が新羅・岑城を奪う
- 612年-08:00|インドネシア| |||<即位>ガラ王国マハラジャ「Wretikandayun」(~702年)
- 612年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)アウストラシア王テウゲベルト2世→アウストラシアはブルグント王テウゲリク2世に渡る
- 612年 00:00|イギリス| |||<死去>ヒト外王「Nechtan mac Canainn」
- 612年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「マルコハ・マック・アイト」(~615年没)
- 612年 00:00|イギリス| |||<即位>ヒト外王「Cinaedh mac Lugthreine (Kenneth1世)」(~631年死去)
- 612年1月9日-08:00|中国| ||西突厥・射櫃1年12月|<即位>西突厥第4代可汗「射匱可汗」達頭可汗の孫、泥ケツ処羅可汗の叔父(~618年死去)
- 612年1月9日-08:00|中国| ||西突厥・射櫃1年12月|<退位>西突厥第3代可汗「泥ケツ処羅可汗(達漫、曷薩那可汗)」
- 612年1月9日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||隋・大業7年12月|長白山の王薄・劉霸道・竇建徳・孫安祖・高士達・張金稱の拳兵
- 612年2月-01:00|スペイン| |||<死去>西哥ート王国国王「グンデマル」
- 612年2月-01:00|スペイン| |||<即位>西哥ート王国国王「シゴト」(~621.2死去)
- 612年2月7日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||隋・大業8年;高句麗・嬰陽王23年1月|隋の煬帝が高句麗に大軍を派遣し、第1次高句麗遠征を開始
- 612年4月6日-08:00|中国/朝鮮| ||隋・大業8年;高句麗・嬰陽王23年3月|隋軍は平壤から六十里の所で高句麗軍と戦って大勝利/来護児は高句麗軍を破り城内へ雪崩れ込むと、兵卒達は略奪へ走り、隊列は大いに乱れた/伏兵が突撃してきたので隋軍は大敗
- 612年7月4日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・嬰陽王23年;隋・大業8年6月|右翊衛大將軍来護児が、江、淮の水軍を率いて高麗軍と戦って大勝利を収めた/平壤城内へ雪崩れ込むが隋軍は大敗
- 612年8月2日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・嬰陽王23年;隋・大業8年7月|隋は遼東地方を占領し、遼東郡と通定鎮を設置
- 613年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルツパン「パルメナス・ダット」ホラ2世によって指名されたイラン貴族(~616年)
- 613年-03:30|イラン/サウジアラビア| |||アラブのガッサン王国がペルシアの属領となる
- 613年-02:00|シリア・アラブ/イラン| |||東ローマ領のシリアがサーサーン朝帝国によって占領された(~628年)
- 613年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)アウストラシア王・ブルグント王テウゲリク2世→<即位>シギベルト2世
- 613年1月27日-08:00|中国| ||高昌・延和12年|<即位>高昌国王「高昌イ-和王」(~620年)政変により登位
- 613年1月27日-08:00|中国| ||高昌・延和12年|<退位>高昌国王「高昌王麴伯雅」
- 613年2月25日-08:00|中国| ||隋・大業9年2月|濟陰の孟海公の乱
- 613年3月27日-08:00|中国| ||隋・大業9年3月|齊郡丞の張須陀が、郡兵を率いて王簿を攻撃し大勝利/王簿は敗残兵を集めて黄河を渡ったが、張須陀は追撃して更に破った/王簿は、赫孝徳、孫宣雅と連合して十万の兵力で章丘を攻撃したが、張須陀は2万の兵力でこれを撃破
- 613年4月25日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・嬰陽王24年;隋・大業9年4月|隋が第2次高句麗遠征をおこすが再び失敗
- 613年6月23日-08:00|中国| ||隋・大業9年6月|隋で楊玄惑が反乱をおこし、農民反乱が全国に拡大
- 613年7月23日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||隋・大業9年7月|餘杭の住民の劉元進が起兵して楊玄惑に呼応/梁郡の住民韓相国が拳兵してこれに応じた/楊玄惑は弘農城を攻撃したが落ちなかったので、兵を退いた
- 613年8月21日-08:00|中国| ||隋・大業9年8月|反乱した楊玄惑は董杜原へ陣を布いたが諸軍がこれを攻撃し楊玄惑は大敗/楊積善は楊玄惑を殺した/朱燮と管崇は劉元進を迎え入れて盟主として推戴し呉郡に據って、天子を称する
- 613年10月10日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||フランク王国(メロヴィング朝)ネストリア王カタル2世がアウストラシア・ブルグントを統合しフランク王国再統合(~06291018)
- 613年11月2日-09:00|日本| ||推古21年9月15日|聖徳太子が「維摩経義疏」を著す

0700迄 (2145件)

- 613年11月18日-08:00|中国| ||隋・大業9年10月|賊帥の呂明星が東都を包囲したが、虎賁郎将・費青奴が、これを撃破/劉元進は丹陽へ進攻し吐万緒がこれを撃破大敗
- 613年11月18日-08:00|中国| ||隋・大業9年10月|煬帝は、江都丞の王世充へ反乱に荷担した劉元進を討つよう命じ、王世充は連戦連勝/劉元進も朱燮も戦死
- 613年12月18日-09:00|日本| ||推古21年11月|難波から飛鳥までの大道(竹内街道)をつくる
- 613年12月18日-08:00|中国| ||隋・大業9年11月|右候衛将軍・馮孝慈が張金称を攻撃したが、敗れて戦死
- 614年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Silameghavanna」(~623年)
- 614年-02:00|ヨルダン| ||<即位>ガッサン王「アル=ムンテ=イル4世化=ン=ヤハ=ラー」⇒「シャヒル=ヒン=ヤハ=ラー」(~618年)
- 614年-02:00|エジプト/イラン/イスラエル/シリア=アラブ| ||ササン朝のホロ=2世、ダマスカス=エルサレムを攻略、シリアとエジプトを占領し、聖十字架を持ち帰る
- 614年-01:00|フランス| ||フランク王カール2世がパリ勅令を發布
- 614年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスカイト王「Riderch Hael」
- 614年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスカイト王「Neithon」(~621年死去)
- 614年1月16日-08:00|中国| ||隋・大業9年12月|宋子賢、彌勒の出世と称して挙兵
- 614年2月15日-08:00|中国| ||高昌・義和1年|高昌で義和(-619年)と改元
- 614年2月15日-08:00|中国| ||隋・大業10年|扶風の賊帥・唐弼が李弘芝を天子に立て、唐王と名乗った
- 614年5月-02:00|イスラエル/イラン| ||イスラエルはササン朝(ササン朝)帝国により占領される(~628年)
- 614年5月14日-08:00|中国| ||隋・大業10年4月|榆林太守董純が彭城の賊帥張大虎と戦い大勝利/延安の賊帥劉迦論が皇帝を潜称/屈突通が討伐し、劉迦論を斬る
- 614年7月24日-09:00|日本| ||推古22年6月13日|最後の遣隋使として犬上御田鎌らを隋に派遣(第五次遣隋使)
- 614年8月11日-08:00|中国/朝鮮| ||隋・大業10年;高句麗・嬰陽25年7月|隋の第3次高句麗遠征、来護児が、畢奢城を攻撃し高句麗軍が迎撃したが来護児はこれを撃破し平壤まで進軍/高句麗が形式的に降伏し終結
- 614年12月7日-08:00|中国| ||隋・大業10年11月|離石の胡人・劉苗王が造反/天子と潜称した/将軍・潘長文が討伐したが、勝てなかった
- 615年-07:00|カホゾア| ||<即位>扶南王「ンテラクトウ アルマン1世」(~627年)
- 615年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「スイブネ=マン=マック=フィアケイ」(~628年没)
- 615年1月5日-08:00|中国| ||隋・大業10年12月|王世充は、賊軍の怠惰につけ込み出撃して大勝利、孟讓は数十騎で逃げ去った
- 615年3月5日-08:00|中国/朝鮮| ||隋・大業11年2月|上谷の賊帥・王須拔が漫天王と自称し、国号を燕とした/賊帥の魏刀児は歴山飛と自称/北方の突厥と連合し、南の燕、趙で掠奪
- 615年4月4日-08:00|中国/朝鮮| ||隋・大業11年3月|将軍の来整が杜伏威を襲撃して、これを撃破/来整は、李子通も攻撃し、これも撃破
- 615年4月4日-08:00|中国/朝鮮| ||隋・大業11年3月|潘陽の賊帥・綽師乞が元興王と自称して、元号まで創った/豫章郡を攻略/煬帝は治書侍御史劉子翊へ追討を命じ綽師乞は流れ矢に当たって戦死、林士弘がその部下を率いて劉子翊と決戦し劉子翊は戦死
- 615年5月8日-01:00|バチカン| ||<死去>第67代ローマ教皇「ホ=ニファティウス4世」
- 615年9月11日-08:00|中国| ||東突厥・始畢7年;隋・大業11年8月13日|癸酉、突厥が雁門を包囲/東突厥は、猛攻を加えた/雁門郡には四十一の城があったが、そのうち三十九が陥落
- 615年9月28日-09:00|日本| ||推古23年9月|犬上御田鎌らが帰国
- 615年9月28日-08:00|中国| ||東突厥・始畢7年;隋・大業11年9月|始畢可汗は包囲を解いて去った
- 615年11月13日-01:00|バチカン| ||<就任>第68代ローマ教皇「ア=オ=トウス1世」(~06181108死去)
- 615年12月-01:00|イタリア| ||<就任>ランゴバルド 摂政「テト=リンダ」(~620年)
- 615年12月-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア王=ランゴバルド 王「ア=ロアルド」バ=イルン公女テ=リンダとア=ジールフォの子(~626年 薨位)
- 616年-07:00|カホゾア| ||<即位>チェンラ王「イナウ アルマン1世」(~635年)
- 616年-04:00|アルメニア| ||<就任>アルメニアのマルツァン「ナムダル=グ=シュナフ」ホスロウ2世によって指名されたイラン貴族(~619年)
- 616年 00:00|イギリス| ||<死去>イスタングリア王「Tytila」
- 616年 00:00|イギリス| ||<死去>エックス王「Saerberht Sleddan sunu」
- 616年 00:00|イギリス| ||<死去>グ=ウイット 王「Iago ap Beli」
- 616年 00:00|イギリス| ||<死去>テ=イ王「Athelfrith Athelrices sunu」戦死
- 616年 00:00|イギリス| ||<死去>ホ=イ王「Selyf ap Cynan」
- 616年 00:00|イギリス| ||<即位>イスタングリア王「レ=ワルト」(~624年死去)
- 616年 00:00|イギリス| ||<即位>エックス王「Seaxraed Saerberhtes sunu」(~617年死去)、「Saeward Saerberhtes sunu」(~617年死去)
- 616年 00:00|イギリス| ||<即位>グ=ウイット 王「Gadfan ap Iago」(~625年死去)
- 616年 00:00|イギリス| ||<即位>テ=イ王「エド=ウイン=Allan sunu」(~06331014死去)
- 616年 00:00|イギリス| ||<即位>ホ=イ王「Manwgan ap Selyf」(~同年)⇒「Eiludd ap Cynan」(~642年戦死)
- 616年1月24日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・武王17年;新羅・真平王37年|新羅・母山城に攻め入った
- 616年1月24日-08:00|中国| ||隋・大業12年1月|張金称が平恩を落としたり/また、武安、鉅鹿、清河の諸県も落とした
- 616年2月24日 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「エ=ル=バ=ルト1世」
- 616年2月24日 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Eadbald Athelberhtes sunu」(~06400120死去)、「Athelwald Athe

Iberhtes]

- 616年2月24日 00:00|イ`リス| ||イ`ストアング`リア王レド`ワルト`がノ`サング`リア王国を破り覇権確立(-627年)
- 616年4月22日-08:00|中国| ||隋・大業12年4月|歴山飛は大軍で太原を攻撃し將軍潘長文を敗死
- 616年5月21日-08:00|中国| ||隋・大業12年5月|皆既日食が起こった
- 616年8月16日-08:00|中国| ||隋・大業12年6月29日|癸丑、李淵は決起し晋陽を出発
- 616年8月18日-09:00|韓国/日本| ||推古13年10月|新羅外交使節、来朝/新羅から竹世士が来朝し、仏像を朝廷に献上
- 616年8月28日-08:00|中国| ||隋・大業12年7月11日|乙丑、張綸が離石に勝ち、太守の楊子崇を殺した/李淵軍に宋老生軍は大敗、霍邑城を落とした/李淵軍は更に絳郡通守陳叔達を撃破
- 616年9月17日-08:00|中国| ||隋・大業12年8月|呉郡の朱燮と、晋陵の管崇が衆人をかき集めて江左で略奪して回った/劉元進を迎え入れて盟主として推戴し呉郡に據って天子を称する
- 616年11月15日-08:00|中国| ||隋・大業12年10月|張須陁は兵を率いて?讓を攻撃/李密と?讓は、徐世積、王伯當らと合流して攻めまくった/ついに張須陁は戦死
- 616年11月15日-08:00|中国| ||隋・大業12年10月|煬帝は、左屯衛大將軍吐万緒と光祿大夫魚俱羅へ討伐を命じた/劉元進は丹陽へ進攻し吐万緒が揚子江を渡ってこれを撃破/吐万緒は曲阿へ進屯し劉元進が大敗/朱燮と管崇の陣も吐万緒は勝ちに乗じて撃破
- 617年-02:00|トルコ| ||ア`ヴァール人のヒ`ザンツ領攻撃
- 617年-01:00|イ`タリ`ア| ||<死去>フ`リウ`リ領主「タツリ」、「カッコ」
- 617年-01:00|イ`タリ`ア| ||<就任>フ`リウ`リ領主「グ`ラヌル2世(フ`リウ`リ公)」ギ`スル2世の兄弟(~651年)
- 617年 00:00|イ`リス| ||<死去>エ`セックス王「Seaxraed Saeberhtes sunu」、「Saeward Saeberhtes sunu」
- 617年 00:00|イ`リス| ||<即位>エ`セックス王「シ`ゲ`ベルト1世(シ`ゲ`ベルト小王)」(~653年死去)
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|王世充が煬帝の命令を受けて討伐に出向き、河間の賊帥・格謙を斬った
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|王辯・楊善會・楊義臣ら、張金稱らを討つ
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|高開道は、北平を占拠し、次いで漁陽郡を落とす/燕王と自称し、始興と改元
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|楊義臣、高士達を討つ・竇建徳自立
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|羅藝自立する
- 617年1月13日-08:00|中国| ||隋・大業12年12月|林士弘は皇帝を潜称し、国号を楚と定めた/林士弘は、更に九江、臨川、南康、宜春等の郡を奪取/北は九江から南は番禺まで、彼が領有
- 617年2月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年|魯郡の賊徐圓朗が東平を攻め落とし、各地を攻略/琅邪以西、北は東平へ至るまで、全て彼の領有となる
- 617年2月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年1月|右禦衛將軍陳稜が、杜伏威討伐を命じられたが、陳稜は杜伏威の伏兵にあって大敗/杜伏威は、勝ちに乗じて高郵を撃破
- 617年2月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年1月|王世充は河南から淮北を基盤とすると無上王と自称する廬明月と南陽で戦い大勝利を収めて斬った
- 617年2月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年1月|竇建徳、長樂王と称し、丁丑と改元
- 617年3月13日-08:00|中国| ||隋・大業13年2月|鷹揚郎將の梁師都自立、突厥に連なる/劉武周拳兵、突厥に近く
- 617年3月31日-08:00|中国| ||隋・大業13年2月19日|李密が鞏(河南)にて魏公に即位し永平元年を称える
- 617年4月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年3月|左翊衛郭子和、永樂王を称し丑平と改元・突厥に連なる/薛舉拳兵、西秦の霸王と称し、秦興と改元
- 617年4月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年3月|唐の営州総管嵩が、高開道を攻撃して、破った
- 617年4月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年3月|劉武周は樓煩郡を攻略し汾陽宮を落とした/劉武周は定襄まで攻め落とした/劉武周は皇帝を名乗り年号を天興と改元
- 617年4月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年3月|梁師都が離陰、弘化、延安等の諸郡を攻略し、遂に皇帝を名乗り、国号を「梁」と定め、永隆と改元
- 617年5月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年4月|李密、東都を攻め、裴仁基父子・秦叔寶・程知節らが降る
- 617年5月11日-08:00|中国| ||隋・大業13年4月|薛舉は、西秦霸王と自称し、秦興と改元/將軍皇甫綰を薛舉は襲撃撃破
- 617年6月9日-08:00|中国| ||隋・大業13年5月|唐公李淵が太原で挙兵
- 617年6月15日-08:00|中国| ||隋・大業13年5月7日|丙辰、劉武周は并州を包囲したが李元吉が撃退
- 617年7月9日-08:00|中国| ||隋・大業13年6月|反乱した李密は東都の平楽園にて大決戦を挑み、東都軍は大敗/武陽郡丞元寶蔵が、郡ごと李密へ降伏
- 617年7月15日-08:00|中国| ||隋・大業13年6月7日|丙戌、劉武周は、汾州の平遙県を落とした
- 617年8月5日-08:00|中国| ||隋・大業13年6月28日|丁未、劉武周は介州へ進軍して落とした
- 617年8月7日-08:00|中国| ||隋・大業13年7月|劉武周は宋金剛に晋州を攻撃させ抜く/宋金剛は、更に絳州へ迫り龍門を落とす
- 617年8月7日-08:00|中国| ||隋・大業13年7月|竇建徳、薛世雄を破り薛世雄死去
- 617年8月7日-08:00|中国| ||隋・大業13年7月|薛舉、秦帝を称し、河西五郡を有す/薛舉は、麾下の將常仲興へ李軌を攻撃させたが李軌の將李贇と戦って敗北
- 617年8月24日-08:00|中国| ||隋・大業13年7月18日|隋の鷹揚府司馬の李軌が武威に起ち、大涼王を号した
- 617年9月6日-08:00|中国| ||隋・大業13年8月|元寶蔵・魏徽、李密に降る/馮慈明、李密に捕らわれ勿讓に殺され

0700迄 (2145件)

る/張季珣、李密と戦い三ヶ月の籠城の末殺される

- 617年9月8日-08:00|中国| ||隋・大業13年8月3日|李建成・李世民が宋老生を霍邑で破った
- 617年9月13日-08:00|中国| ||隋・大業13年8月8日|李淵軍が臨汾郡を下した
- 617年9月18日-08:00|中国| ||隋・大業13年8月13日|李淵軍が絳郡で勝利
- 617年10月6日-08:00|中国| ||隋・大業13年9月|王世充は自ら精鋭を率いて洛北へ向かう/李密は迎撃したが大敗/李密が洛南から黒石を襲撃、王世充と戦い大勝利
- 617年11月4日-08:00|中国| ||隋・大業13年10月|夏鼎の民、呂崇茂は、民をかき集めて魏王と自称し、龍武周へ呼応/裴寂は、これを討伐したが、敗北
- 617年11月4日-08:00|中国| ||隋・大業13年10月|宋金剛は會州を攻撃して落とした
- 617年11月4日-08:00|中国| ||隋・大業13年10月|賊帥の呂明星が東都を包囲したが、虎賁郎将費青奴が、これを撃破
- 617年11月22日-08:00|中国| ||隋・大業13年10月19日|蕭銑は祭壇を築いて梁王と自称し、鳴鳳と改元
- 617年12月12日-08:00|中国| ||隋・義寧1年11月9日|李淵(のちの唐・高祖)が長安城を平定
- 617年12月18日-08:00|中国| ||隋・義寧1年11月15日|<即位>隋第3代皇帝「恭帝侑(楊侑)」(~618年6月12日)煬帝の孫/李淵に擁立される/義寧と改元
- 617年12月18日-08:00|中国| ||隋・義寧1年11月15日|<廃位>隋第2代皇帝「煬帝(楊広)」
- 617年12月20日-08:00|中国| ||隋・義寧1年11月17日|隋帝は高祖に仮黄鉞・使持節・大都督内外諸軍事・大丞相・録尚書事を授け、唐王に進封
- 618年1月2日-08:00|中国| ||隋・義寧1年12月|王世充が襲撃し李密と戦ったが王世充軍は大敗
- 618年1月2日-08:00|中国| ||隋・義寧1年12月|河地太守蕭うら、唐に降る/屈突通、唐に降る
- 618年1月2日-08:00|中国| ||隋・義寧1年12月|方與の賊帥張善安が、廬江郡を襲撃して落とした
- 618年1月2日-08:00|中国| ||隋・義寧1年12月|劉文静ら、弘農郡・新安以西を平定/李孝恭、朱珣を破り巴蜀に勢力拡大
- 618年2月1日-09:00|韓国| ||百済・武王19年;新羅・真平王39年|新羅北漢山州の軍主・辺品が百済に出兵しが、岾城を奪い返す
- 618年2月1日-08:00|中国| ||西突厥・射櫃8年|<死去>西突厥可汗「射匱可汗」
- 618年2月1日-08:00|中国| ||隋・義寧2年|<即位>吐蕃ツェンポ「ナリ・ツツェン(囊日論贊)」建国(~629年死去)
- 618年2月1日-08:00|中国| ||隋・義寧2年|この年、高開道が漁陽を陥落させ、燕王を号した
- 618年2月12日-08:00|中国| ||隋・義寧2年1月12日|唐軍に周冏が降った
- 618年3月5日-08:00|中国| ||隋・義寧2年2月4日|太常卿の鄭元ヅが樊・鄧を平定
- 618年4月11日-08:00|中国| ||隋・義寧2年3月11日|<死去>隋第2代皇帝「煬帝(楊広)」宇文化及・宇文智及兄弟や裴虔通らによって末子の趙王楊杲(13歳)と共に50歳にして殺害された
- 618年4月11日-08:00|中国| ||隋・義寧2年3月11日|<即位>隋皇帝「秦王楊浩」煬帝の弟の秦孝王楊俊の子。宇文化及に擁立される(~皇泰元年(618年)9月)実権は宇文化及が握っていた
- 618年4月30日-08:00|中国| ||隋・義寧2年4月|唐王の軍が東都へ攻めてきて、段達が戦い敗北
- 618年4月30日-08:00|中国| ||隋・義寧2年4月|梁の末裔である蕭銑は皇帝位へ即いた/宋王楊道生が南郡を攻略したので、江陵へ遷都
- 618年5月4日-08:00|中国| ||隋・義寧2年4月5日|己卯、唐に張長ヅが降った
- 618年5月30日-08:00|中国| ||唐・武徳1年5月|朱粲は冠軍にて唐・山南撫慰使馬元規に撃ち破られた
- 618年6月8日-08:00|中国| ||唐・武徳1年5月10日|李密は徐世勣に王徳仁を討伐させ、王徳仁は敗北
- 618年6月12日-08:00|中国| ||唐・武徳1年5月14日|<退位>隋第3代皇帝「恭帝侑(楊侑)」禪譲
- 618年6月18日-08:00|中国| ||唐・武徳1年5月20日|<即位>唐皇帝「高祖李淵」(~626年9月4日)武徳(~626年)と改元
- 618年6月22日-08:00|中国| ||隋・皇泰1年5月24日|<即位>隋第4代皇帝「恭帝㮮(楊㮮)」(~619年5月23日)煬帝の孫、楊侑の兄/王世充に擁立される/皇泰(-619年)と改元
- 618年7月28日-08:00|中国| ||唐・武徳1年7月|薛挙は唐軍の背後へ廻って襲撃、唐軍は大敗/李世民は長安へ引き上げ、薛挙は高庶を抜いた
- 618年7月29日-08:00|中国| ||唐・武徳1年7月2日|朱粲は唐・宣州(安徽宣城)刺史周超に撃ち破られた/王世充に使を遣わし降る
- 618年8月5日-08:00|中国| ||唐・武徳1年7月9日|劉文静と薛挙が涇州で戦い、劉文静が敗れた
- 618年8月8日-08:00|中国| ||唐・武徳1年7月12日|唐軍が郭子和が降った
- 618年8月26日-09:00|朝鮮/日本| ||高句麗・嬰陽王29年8月|高句麗が倭に方物を貢進し、隋の滅亡を伝える
- 618年8月26日-08:00|中国| ||唐・武徳1年8月|王世充は一大決戦を挑み、李密は大敗北
- 618年8月26日-08:00|中国| ||唐・武徳1年8月|薛挙は薛仁果へ寧州を攻撃させたが、寧州刺史の胡演がこれを撃退
- 618年9月3日-08:00|中国| ||唐・武徳1年8月9日|薛挙が亡くなった
- 618年9月4日-08:00|中国| ||唐・武徳1年8月10日|唐に李軌が降った
- 618年9月6日-08:00|中国| ||唐・武徳1年8月12日|巖州刺史の王徳仁が招慰使の宇文明達を殺してそむいた
- 618年9月25日-09:00|朝鮮| ||高句麗・嬰陽王29年9月|<死去>高句麗王「嬰陽王」
- 618年9月25日-09:00|朝鮮| ||高句麗・榮留王1年9月|<即位>高句麗王「榮留王」(~642年)
- 618年9月25日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月|梁の蕭銑はその将楊道生へ、峽州を攻撃させたが唐・峽州刺史許紹が撃破

0700迄 (2145件)

618年9月27日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月3日|唐が始めて軍府を置いた
618年10月1日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月7日|己酉、秦の薛仁果は唐に降伏
618年10月5日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月11日|銀莢符を改めて銅魚符とした
618年10月6日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月12日|秦州総管の竇軌が薛仁果と戦い、敗れた
618年10月23日-08:00|中国| ||唐・武徳1年9月29日|<廃位>隋皇帝「秦王楊浩」皇帝位禪譲⇒<即位>許皇帝「宇文化及」(~天寿2年(619年))、天寿と改元/廃帝となった楊浩は宇文化及の命によって毒殺された
618年10月24日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月1日|朔、日食があった
618年10月31日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月8日|李密が唐に降る
618年11月1日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月9日|洺州(河南洺)刺史の呂子臧は所部数千人を率いて馬元規と与に力を併せ可達寒賊を撃破
618年11月3日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月11日|朱粲が鄧州を陥落させ、刺史の呂子臧が死んだ
618年11月6日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月14日|邵江海が唐に降った
618年11月8日-01:00|パキスタン| ||<死去>第68代ローマ教皇「アデラド1世」
618年11月17日-08:00|中国| ||唐・武徳1年10月25日|朱粲が浙州(河南南陽西南)に寇する
618年11月23日-08:00|中国| ||唐・武徳1年11月|夏の竇建徳は、五鳳と改元
618年11月23日-08:00|中国| ||唐・武徳1年11月|竇建徳が王須拔を幽州で破り、王須拔は突厥に亡命
618年11月26日-08:00|中国| ||唐・武徳1年11月4日|<即位>涼第1代皇帝「李軌」皇帝を称して国号を涼とし、安樂と改元(~619年)
618年11月30日-08:00|中国| ||唐・武徳1年11月8日|唐・李世民、薛仁果の秦国を平定
618年12月4日-08:00|中国| ||唐・武徳1年11月12日|行軍総管の趙慈景が蒲州を攻め、隋の刺史の堯君素が抵抗して戦い、趙慈景を捕らえた
618年12月22日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月|王世充は三万の兵で穀州を包囲したが、刺史の任瓌が撃退
618年12月27日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月6日|蒲州の人が堯君素を殺し、その将の王行本を立てた
618年12月31日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月10日|庚辰、安興貴は、李軌を捕らえ河西は全て平定
619年-08:00|中国| ||<死去>高昌国王矞(名不明)[出身不詳]
619年-08:00|中国| ||<死去>西突厥第4代可汗「射匱可汗」
619年-08:00|中国| ||<即位>西突厥第5代可汗「統葉護可汗(トクヤブクガクン)」(~628年)射匱可汗の弟
619年-04:00|アルメニア| ||<就任>アルメニアのマルツパン「シハラフ・ラン」叔ラウ2世によって指名されたイラン貴族(~624年)
619年-02:00|エジプト/イラン| ||ササン朝ペルシアがエジプトを征服
619年1月1日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月11日|唐・太常卿の鄭元壽が朱粲を商州(陝西商)に於いて撃ち、これを破る
619年1月3日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月13日|唐は趙郡公の李孝恭を遣わして山南を招撫させ朱粲の軍に進撃して、これを破る
619年1月20日-08:00|中国| ||唐・武徳1年12月30日|光祿卿の李密がそむき、処刑された
619年1月21日-09:00|日本|滋賀県近江八幡市|推古27年|聖徳太子、長命寺創建<天台宗>
619年1月21日-08:00|中国| ||西突厥・統葉護1年|<即位>西突厥可汗「統葉護可汗(トクヤブクガクン)」射匱可汗の弟(~628年死去)
619年2月14日-08:00|中国| ||唐・武徳2年1月25日|王世充は、兄の子の王君廓に陟州を攻撃させたが、李育徳はこれを撃退
619年2月15日-08:00|中国| ||唐・武徳2年1月26日|張善相が唐に降った
619年2月15日-08:00|中国| ||唐・武徳2年1月26日|楊士林と田杓が兵を率いて以て朱粲に背く/諸州も響應し、相聚って朱粲を攻め淮源において大戦、朱粲は敗れ菊潭県に奔る
619年2月16日-08:00|中国| ||唐・武徳2年1月27日|王世充は獲嘉を攻撃し、城は落ちた
619年2月18日-08:00|中国| ||唐・武徳2年1月29日|楊士林が唐に降った
619年2月20日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・嬰陽王30年:唐・武徳2年2月|高句麗、唐に遣使
619年2月20日-08:00|中国| ||東突厥・處羅1年2月|<死去>東突厥第2代可汗「始畢可汗(咄吉世)」
619年2月20日-08:00|中国| ||東突厥・處羅1年2月|<即位>東突厥第3代可汗「処羅可汗(俟利弗設)」(~620年)啓民可汗の次男
619年2月27日-08:00|中国| ||唐・武徳2年2月8日|戊寅、蒲反の王行本が城門を開いて將軍秦武通に降伏
619年3月6日-08:00|中国| ||唐・武徳2年2月15日|乙酉、唐で租、庸、調の税法を定める/成丁一人につき、租二石、絹二匹、綿三両
619年3月22日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月|竇建徳がケ州を陥落させ、総管の陳君賓を捕らえた
619年3月22日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月1日|<死去>許皇帝「宇文化及」子の宇文承基・宇文承趾とともに襄国に運ばれて斬首された
619年3月22日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月1日|朱粲は唐に使を遣わし降ることを請う
619年3月26日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月5日|劉武周が長子と壺関を陥とし、再び路州へ来寇したが行敏が撃破
619年4月15日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月25日|劉武周が、その将の張萬歳を浩州へ来寇させたが李仲文が撃退
619年4月17日-08:00|中国| ||唐・武徳2年閏2月27日|王世充が殷州を陥落させ、陟州刺史の李育徳が死んだ
619年4月20日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月|梁師都是靈州へ来寇したが、唐の長史楊則が撃退
619年4月24日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月5日|王薄が唐に降った

0700迄 (2145件)

619年4月30日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月11日| 蔣弘度・徐師順が唐に降った
619年5月2日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月13日| 秦王世民は晋州から軍を率いてやってきて夏県を攻撃し屠る
619年5月4日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月15日| 行軍副総管張綸が浩州にて劉武周を敗る
619年5月7日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月18日| 竇建徳が趙州を陥落させた
619年5月11日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月22日| 劉武周が并州へ来寇
619年5月17日-08:00|中国| ||唐・武徳2年3月28日| 李義満が唐に降った
619年5月20日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月2日| 并州総管・齊王の李元吉と劉武周が榆次で戦い、李元吉は敗れた
619年5月21日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月3日| 朱粲が段確を殺してそむいた
619年5月23日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月5日| <即位>鄭皇帝「王世充」(~621年唐に降伏)開明と改元
619年5月23日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月5日| <廃位>隋第4代皇帝「恭帝(楊侗)」王世充に禅譲
619年5月27日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月9日| 金剛は敗走し、秦王世民は、これを追撃、呂州まで尋相を追撃し破った、雀鼠谷まで、金剛を追い詰め、一日に八回戦って全てこれを破り、数万人を捕斬
619年6月5日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月18日| 金剛は西門から出て、城を背にして布陣、世民は総管の李世勣へ攻撃させた/金剛は大敗/尉遲徳と尋相は、介休と永安を挙げて降伏
619年6月12日-08:00|中国| ||唐・武徳2年4月25日| 唐が伊州を陥落させ、総管の張善相を捕らえた
619年6月18日-08:00|中国| ||唐・武徳2年5月| 鄭の王世充は義州を落とし、西濟州へ攻め込んだ
619年6月29日-08:00|中国| ||唐・武徳2年5月13日| 涼州の将の安修仁が李軌を捕らえて唐に降った
619年7月19日-08:00|中国| ||唐・武徳2年6月3日| 夏の竇建徳は倉州を落とした
619年7月26日-08:00|中国| ||唐・武徳2年6月10日| 劉武周が介州を陥落させた
619年8月11日-08:00|中国| ||唐・武徳2年6月26日| 離石胡の劉季真が叛き、石州を陥落させ、刺史の王儉が死んだ
619年8月16日-08:00|中国| ||唐・武徳2年7月| 夏の竇建徳は名州を陥した
619年8月16日-08:00|中国| ||西突厥・統葉護1年;高昌・義和6年;唐・武徳2年7月| 西突厥の統葉護可汗と、高昌王麴拍雅が、各々使者を派遣して入貢
619年8月20日-08:00|中国| ||唐・武徳2年7月6日| 徐円朗が唐に降った
619年10月11日-08:00|中国| ||唐・武徳2年8月28日| 竇建徳が岷州を陥落させ、総管の袁子幹を捕らえた
619年10月18日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月6日| <即位>吳皇帝「李子通」(~明政3年(621年))、明政と改元
619年10月24日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月12日| 杜伏威が唐に降った
619年10月24日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月12日| 裴寂と劉武周が介州で戦い、裴寂が敗れ右武衛大將軍の姜宝誼が死んだ
619年10月27日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月15日| 夏の竇建徳は相州を落とし、刺史の呂珉を殺した
619年10月28日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月16日| 劉武周が并州を陥落させた
619年11月6日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月25日| 竇建徳が趙州を陥落させ、総管の張志昂を捕らえた
619年11月11日-08:00|中国| ||唐・武徳2年9月30日| 梁師都は再び延州へ来寇、段徳操がこれを撃退
619年11月15日-08:00|中国| ||唐・武徳2年10月4日| 羅芸が唐に降った
619年11月17日-08:00|中国| ||唐・武徳2年10月6日| 燕郡王羅芸は夏の竇建徳を衡水にて撃破
619年12月8日-08:00|中国| ||唐・武徳2年10月27日| 劉武周が晋州を寇すると、永安王李孝基および工部尚書の独孤懷恩・陝州総管の于阇・内史侍郎の唐儉がこれを討った
619年12月22日-08:00|中国| ||唐・武徳2年11月11日| 竇建徳が黎州を陥落させ、淮安王李神通と総管の李世勣を捕らえた
619年12月23日-01:00|パチカ| ||<就任>第69代ローマ教皇「ホニファティウス5世」(~06251025死去)
620年-05:30|インド| ||<即位>パチカ朝君主「Maravarman Avani Culamani」(~645年)
620年1月11日-08:00|中国| ||唐・武徳2年12月1日| 永安王李孝基が劉武周と下ケで戦い、敗れた
620年2月9日-08:00|中国| ||東突厥・處羅2年| <死去>東突厥第3代可汗「処羅可汗(俟利弗設)」
620年2月9日-08:00|中国| ||東突厥・頡利1年| <即位>東突厥第4代可汗「頡利可汗(イリケカフ、咄比ツ)」(~630年)啓民可汗の三男
620年2月9日-08:00|中国| ||唐・武徳3年| <即位>ホチカ王「尉遲屈密」(~641年)
620年2月9日-08:00|中国| ||高昌・重光1年| <復位>高昌国王「高昌王麴伯雅」(~623年)重光(~623年)と改元
620年2月9日-08:00|中国| ||唐・武徳3年| 吳の李子通が沈法興を攻撃し、京口を取った/丹陽、毘陵羅の郡は、全て子通へ降伏/李子通は杜伏威に攻められ太湖へ東走し吳郡の沈法興を攻撃滅亡させた
620年2月9日-08:00|中国| ||高昌・重光1年| 高昌のか伯雅が重光(-623年)と改元
620年2月22日-08:00|中国| ||唐・武徳3年1月14日| 王行本が唐に降った
620年3月10日-08:00|中国| ||唐・武徳3年2月| 夏の竇建徳は李商胡を攻撃し殺した
620年3月13日-09:00|日本| ||推古28年2月5日| 聖徳太子が蘇我馬子らとともに「天皇記」「国記」を編纂
620年3月29日-08:00|中国| ||唐・武徳3年2月20日| 独孤懷恩が反乱を計画し、処刑された
620年4月5日-08:00|中国| ||唐・武徳3年2月27日| 檢校隴州総管の劉師善が反乱を計画し、処刑された
620年4月14日-08:00|中国| ||唐・武徳3年3月7日| 納言を改めて侍中とし、内史令を中書令とした
620年4月29日-08:00|中国| ||唐・武徳3年3月22日| 劉季真が唐に降った
620年5月8日-08:00|中国| ||唐・武徳3年4月| 庚申、懷州総管黃君漢が、西濟州にて鄭の王世充の太子玄應を攻撃して大勝利/熊州行軍総管史萬寶が、九曲にて襲撃しまたこれを破る
620年5月28日-08:00|中国| ||唐・武徳3年4月21日| 秦王李世民が宋金剛と雀鼠谷で戦い破った

0700迄 (2145件)

- 620年6月4日-08:00|中国| ||唐・武徳3年4月28日|王世充が鄧州を陥落させ、総管の雷四郎が死んだ
- 620年6月5日-08:00|中国| ||唐・武徳3年4月29日|秦王李世民が劉武周とメイ州で戦い、破り、劉武周は突厥に亡命、并州に勝利
- 620年6月6日-08:00|中国| ||唐・武徳3年5月|夏の竇建徳は、高士興を幽州へ派遣して、李芸を攻撃させたが、李芸は大勝利
- 620年6月6日-08:00|中国| ||唐・武徳3年5月1日|突厥が、密かに王世充へ使者を派遣/路州総管李襲誉が、これを攻撃して敗った
- 620年6月25日-08:00|中国| ||唐・武徳3年5月20日|秦王李世民が夏県を屠った
- 620年7月17日-08:00|中国| ||唐・武徳3年6月13日|黄君道が校尉張夜叉へ水軍で迴洛城を襲撃させ勝った
- 620年7月27日-08:00|中国| ||唐・武徳3年6月23日|顛州長史の田贇が行台尚書令の楊士林を殺し、叛いて王世充についた
- 620年8月4日-08:00|中国| ||唐・武徳3年7月1日|秦王李世民が王世充を討った
- 620年8月28日-08:00|中国| ||唐・武徳3年7月25日|梁師都が突厥・稽胡を導いて辺境を寇したので、行軍総管の段徳操がこれを破った
- 620年9月15日-08:00|中国| ||唐・武徳3年8月14日|時徳叡が唐に降った
- 620年10月2日-08:00|中国| ||唐・武徳3年9月|雲州総管郭子和は突厥や梁師都と提携し、師都の寧朔城を攻撃して勝った
- 620年10月2日-08:00|中国| ||唐・武徳3年9月|突厥の莫賀咄設が涼州へ来寇/総管の楊恭仁がこれを攻撃し敗北
- 620年10月14日-08:00|中国| ||唐・武徳3年9月13日|王世充の顛州総管田贇が所領二十五州を率いて来降
- 620年10月18日-08:00|中国| ||唐・武徳3年9月17日|秦王李世民が右武衛將軍王君廓を派遣して環轅を攻撃し、これを抜いた/鄭の王世充はその將魏隱羅へ君廓を攻撃させたが君廓は敵を大いに破った
- 620年11月1日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月|夏の竇建徳は再び幽州を攻撃、李芸軍を大いに破った
- 620年11月4日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月5日|鄭の王世充の大將軍張鎮周が来降
- 620年11月13日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月14日|峽州刺史許紹が梁の蕭銑の荊門鎮を攻撃し抜いた
- 620年11月14日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月15日|行軍総管羅士信が王世充のキョウ石堡を襲撃して抜いた
- 620年11月18日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月19日|高開道が唐に降った
- 620年11月19日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月20日|楊仲達が唐に降った
- 620年11月29日-08:00|中国| ||唐・武徳3年10月30日|隕石が東都に落ちた
- 621年-05:45|ネパール| ||<即位>リッヂャビ 朝国王「Udayadeva」
- 621年-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||西ゴート王国スウィンティラ王のもとベリア半島のほぼ全土を支配
- 621年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスカイト 王「Neithon」
- 621年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスカイト 王「Bel i map Neithon」(~642年死去)
- 621年1月1日-08:00|中国| ||唐・武徳3年12月4日|燕郡王李芸が籠火城にて、再び夏の竇建徳軍を攻撃して破った
- 621年1月18日-08:00|中国| ||唐・武徳3年12月21日|瓜州刺史の賀拔行威がそむいた
- 621年1月28日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|推古29年|聖徳太子、学問修行の道場として熊凝精舎創建(→額安寺)
- 621年1月28日-08:00|中国| ||唐・武徳4年1月|行台僕射屈突通と賛皇公竇軌が鄭の王世充軍と遭遇、秦王李世民が黒甲を率いて救援に駆けつけ、世充は大敗
- 621年2月-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<死去>西ゴート王国国王「シグト」
- 621年2月-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<即位>西ゴート王国国王「カレド2世」(~3月死去)
- 621年2月19日-08:00|中国| ||唐・武徳4年1月23日|皇太子が稽胡を討った
- 621年2月22日-08:00|中国| ||唐・武徳4年1月26日|杜伏威は梁を攻撃して勝つ
- 621年2月24日-08:00|中国| ||唐・武徳4年1月28日|黔州刺史田世康が、梁の蕭銑の五州四鎮を攻撃し、全て勝った
- 621年2月27日-08:00|中国| ||唐・武徳4年2月|夏の竇建徳が周橋に勝ち、孟海公を捕虜にした
- 621年2月27日-08:00|中国| ||唐・武徳4年2月|鄭の王世充の太子玄應が兵糧を虎牢から洛陽へ運び入れようとしたが秦王世民は將軍李君羨を派遣してこれを襲撃撃破
- 621年2月27日-08:00|中国| ||唐・武徳4年2月1日|車騎將軍の董阿興が隴州でそむき、処刑された
- 621年3月-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<死去>西ゴート王国国王「カレド2世」
- 621年3月-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<即位>西ゴート王国国王「スウィンティラ」(~6310326廃位)
- 621年3月15日-08:00|中国| ||唐・武徳4年2月17日|太常少卿の李仲文が反乱を計画し、処刑された
- 621年3月29日-08:00|中国| ||唐・武徳4年3月|行軍総管劉世讓が夏の竇建徳の黄州を攻撃して抜いた
- 621年4月21日-08:00|中国| ||唐・武徳4年3月24日|突厥が石州へ来寇したが、刺史の王集が撃退
- 621年4月24日-08:00|中国| ||唐・武徳4年3月27日|夏の竇建徳が管州を陥して刺史の郭士安を殺す/栄陽県、陽擢県等を陥す
- 621年5月8日-08:00|中国| ||唐・武徳4年4月12日|突厥の頡利可汗が雁門へ来寇したが、代州総管李大恩がこれを撃退
- 621年5月11日-08:00|中国| ||唐・武徳4年4月15日|齊王李元吉が王世充と東都で戦い、敗れ、行軍総管の盧君諤が死んだ
- 621年5月17日-08:00|中国| ||唐・武徳4年4月21日|突厥が并州へ来寇、處羅可汗と劉武周が表裏一体となって并州へ来寇し、漢陽郡王李・太常卿の鄭元・左驍騎衛大將軍の長孫順徳を捕らえた/處羅は発病して死んだ

0700迄 (2145件)

621年5月26日-08:00|中国| ||唐・武徳4年4月30日|左武衛將軍の王君廓が張青特を破り、これを捕らえた
621年5月31日-08:00|中国| ||唐・武徳4年5月5日|鄭の王世充を救援に来た夏の竇建徳が李世民に敗北し捕らえられた/趙季卿が、城ごと降伏
621年6月5日-08:00|中国| ||唐・武徳4年5月10日|<退位>鄭皇帝「王世充」唐・秦王李世民に降伏
621年6月6日-08:00|中国| ||唐・武徳4年5月11日|李世民が洛陽の宮城に入り、王世充の党で罪の尤大なる者など朱粲ら10余人を、洛水の上にて斬った
621年6月8日-08:00|中国| ||唐・武徳4年5月13日|周法明が降った
621年6月17日-08:00|中国| ||唐・武徳4年5月22日|李大恩は苑君璋を攻撃して破った
621年7月6日-08:00|中国| ||唐・武徳4年6月12日|蔣善合が降った
621年7月8日-08:00|中国| ||唐・武徳4年6月14日|営州の人の石世則がその総管の晋文衍を捕らえて、叛いて鞞鞞についた
621年7月23日-08:00|中国| ||唐・武徳4年6月29日|臧君相が降った
621年7月24日-08:00|中国| ||唐・武徳4年7月|開元通宝が、始めて造られた
621年8月3日-08:00|中国| ||唐・武徳4年7月11日|竇建徳が処刑された
621年8月11日-08:00|中国| ||唐・武徳4年7月19日|劉黒闥が貝州でそむいた
621年8月14日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・武徳4年;高句麗・栄留王4年7月22日|高句麗、使臣を唐へ遣わす
621年8月18日-08:00|中国| ||唐・武徳4年7月26日|戴州刺史の孟加鬼がそむき、処刑された
621年8月18日-08:00|中国| ||唐・武徳4年7月26日|褒州道安撫使郭行方が梁の蕭銑の若州を攻撃して抜いた
621年8月23日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月1日|朔、日食があった
621年8月24日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月2日|皇太子が北境を安撫
621年9月3日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月12日|劉黒闥が愉県を落とし、魏州刺史の權威と貝州刺史の戴元祥が死んだ
621年9月9日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月18日|突厥が代州へ来寇/総管李大恩は、行軍総管王孝基を派遣して拒戦させたが全滅/突厥は一ヶ月余りで退却
621年9月13日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月22日|劉黒闥が歴亭を陥落させ、屯衛將軍の王行敏が死んだ
621年9月17日-08:00|中国| ||唐・武徳4年8月26日|深州の人の崔元遜がその刺史の裴晞を殺し、叛いて劉黒闥についた/徐円朗がそむいた
621年9月21日-08:00|中国| ||唐・武徳4年9月|盧祖尚が降った
621年9月21日-08:00|中国| ||唐・武徳4年9月1日|淳于難が降った
621年9月24日-08:00|中国| ||唐・武徳4年9月4日|突厥は原州へ来寇/行軍総管尉遲敬徳を派遣して撃退
621年9月30日-08:00|中国| ||唐・武徳4年9月10日|汪華が降った
621年10月20日-08:00|中国| ||唐・武徳4年9月30日|靈州総管楊師道が突厥を攻撃し破った
621年10月21日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福38年;唐・武徳4年10月|新羅王、使臣を唐へ遣わし方物を貢す/唐使の文素を同行して帰国
621年10月21日-09:00|韓国/中国| ||百濟・武王22年;唐・武徳4年10月|百濟、使臣を唐に遣わし、果下馬を献上
621年10月26日-08:00|中国| ||唐・武徳4年10月6日|劉黒闥が瀛州を陥落させ、刺史の盧士叟を捕らえ、また觀州を陥落させた
621年11月8日-08:00|中国| ||唐・武徳4年10月19日|毛州の人の董燈明がその刺史の趙元愷を殺した
621年11月10日-08:00|中国| ||唐・武徳4年10月21日|趙郡王李孝恭が蕭銑を荊州で破り、これを捕らえた
621年12月25日-08:00|中国| ||唐・武徳4年11月7日|<降伏>吳皇帝「李子通」杜伏威の將王雄誕に攻撃され吳は滅亡
621年12月31日-08:00|中国| ||唐・武徳4年11月13日|李子通が反乱を計画し、処刑された
622年-03:00|イラク/トルコ| ||ビザンティンのヘラクリス帝がイッスでペルシア軍を破る
622年1月6日-08:00|中国| ||唐・武徳4年11月19日|劉黒闥が定州を陥落させ、総管の李玄通が死んだ
622年1月14日-08:00|中国| ||唐・武徳4年11月27日|周文举が刺史の王孝矩を殺し、叛いて劉黒闥についた
622年1月18日-09:00|韓国/中国| ||百濟・武王22年;新羅・眞平王42年;唐・武徳4年12月|百濟、新羅が唐に遣使
622年1月19日-08:00|中国| ||唐・武徳4年12月3日|劉黒闥が冀州を落とし、刺史の麴稜を殺した
622年1月28日-08:00|中国| ||唐・武徳4年12月12日|左武侯將軍の李世勣が劉黒闥と宋州で戦い敗れた/旬日後、相州を攻撃し抜く
622年2月2日-08:00|中国| ||唐・武徳4年12月17日|劉黒闥が邢州と趙州を落とした
622年2月3日-08:00|中国| ||唐・武徳4年12月18日|魏州を陥落させ、総管の潘道毅が死んだ
622年2月7日-09:00|日本| ||推古29年12月21日|<死去>穴穗部間人皇女(不明)用明天皇の皇后
622年2月16日-09:00|日本| ||推古30年|太子妃橘大郎女「天寿国繡帳」を作る
622年2月16日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月|劉黒闥は漢東王と自称して天造と改元、名州を都に定めた
622年2月18日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月3日|劉黒闥が相州を陥落させ、刺史の房晃がここに死んだ
622年2月19日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月4日|殷恭遂が唐に降った
622年2月20日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月5日|濟州別駕の劉伯通がその刺史の竇務本を捕らえて、叛いて徐円朗についた
622年2月23日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月8日|東塩州治中の王才芸がその刺史の田華を殺して、叛いて劉黒闥についた
622年3月1日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月14日|唐・世民は再び相州を取った
622年3月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月27日|楊世略・劉元進が唐に降った

0700迄 (2145件)

622年3月17日-08:00|中国| ||唐・武徳5年1月30日|両軍は徐河で戦った/十善・君立は大敗し、八千の兵を失った
622年3月18日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月|王要漢が唐に降った
622年3月28日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月11日|劉黒闥は列人まで進軍する/秦王世民は秦叔寶へ攻撃させ、これを破った
622年4月3日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月17日|秦王世民が再び刑を取った
622年4月5日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月19日|井州の住民馮伯讓が城を以て唐へ来降した
622年4月7日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|推古30年2月21日|<死去>膳部菩岐々美郎女(不明)聖徳太子の妃
622年4月8日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|推古30年2月22日|<死去>聖徳太子が斑鳩宮で/49歳(誕生: (敏達)3(574))
622年4月10日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月24日|李藝が劉黒闥の定、欒、廉、趙の四州を取った/黒闥の尚書劉希道を捕らえた
622年4月11日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月25日|劉黒闥がメイ水城を陥落させ、総管の羅士信がここに死んだ
622年4月12日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月26日|ベトナム総管王要漢が徐圓朗の杞州を攻撃して抜いた
622年4月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月28日|庚辰、延州道行軍総管段徳操が梁師都の石堡城を攻撃し大いに破る
622年4月15日-08:00|中国| ||唐・武徳5年2月29日|秦王世民がメイ水を抜いた
622年5月8日-08:00|中国/ベトナム| ||唐・武徳5年3月23日|唐が越南に交州大総管府を設置
622年5月11日-08:00|中国| ||唐・武徳5年3月26日|蔚州総管の高開道がそむき、易州を寇し、刺史の慕容孝幹がここに死んだ
622年5月11日-08:00|中国| ||唐・武徳5年3月26日|劉黒闥は兵を率いてメイ水攻撃、列人まで進軍/秦王世民は秦叔寶へ攻撃させ破った/黒闥は突厥へ亡命、山東は平定
622年5月16日-08:00|中国| ||唐・武徳5年4月|冉安昌が唐に降った
622年5月23日-08:00|中国| ||唐・武徳5年4月8日|甯長真が唐に降った
622年6月5日-08:00|中国| ||唐・武徳5年4月21日|突厥の攻撃で大恩軍は潰滅し大恩は戦死
622年6月9日-08:00|中国| ||唐・武徳5年4月25日|行台民部尚書史萬寶が徐圓朗の陳衆を攻撃して抜いた
622年6月11日-08:00|中国| ||唐・武徳5年4月27日|鄧文進が唐に降った
622年6月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年5月|田留安が唐に降った
622年6月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年5月|突厥が忻州へ来寇したが、李高遷が撃破
622年6月23日-08:00|中国| ||唐・武徳5年5月10日|瓜州の人の王幹が賀拔行威を殺して唐に降った
622年7月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年6月1日|劉黒闥が突厥を率いて山東へ来寇
622年7月16日-08:00|中国| ||唐・武徳5年6月3日|吐谷渾が洮州、旭、暈の三州へ来寇/岷州総管李長卿がこれを撃破
622年7月30日-08:00|中国| ||唐・武徳5年6月17日|劉黒闥が突厥を率いて定州へ来寇
622年8月16日-08:00|中国| ||唐・武徳5年7月5日|秦王世民は徐圓朗を攻撃して十余城を下した
622年8月26日-08:00|中国| ||唐・武徳5年7月15日|貝州の人の董該が定州をもって叛いて劉黒闥についた
622年8月28日-08:00|中国| ||唐・武徳5年7月17日|遷州の人の鄧士政がそむき、その刺史の李敬昂を捕らえた
622年8月29日-08:00|中国| ||唐・武徳5年7月18日|馮杳が唐に降った
622年9月15日-08:00|中国| ||唐・武徳5年8月5日|吐谷渾が岷州を寇し、益州道行台左僕射の竇軌がこれを破った
622年9月16日-08:00|中国| ||唐・武徳5年8月6日|突厥が辺境を寇した
622年9月22日-03:00|サウジアラビア| ||マホメット、メッカよりメジナへ移住(ヒッラ)。イスラム歴元年
622年9月30日-08:00|中国| ||唐・武徳5年8月20日|并州大総管襄邑王神符が汾東で突厥を撃破/汾州刺史蕭豈も突厥を破り、五千余級を斬首
622年10月5日-08:00|中国| ||唐・武徳5年8月25日|吐谷渾が岷州へ来寇し、総管の李長卿を破る
622年10月9日-08:00|中国| ||唐・武徳5年8月29日|突厥が大震閼を陥落させた
622年10月24日-08:00|中国| ||唐・武徳5年9月15日|交州刺史権士通、弘州総管宇文音、靈州総管楊師道が三観山で突厥を破る
622年10月27日-08:00|中国| ||唐・武徳5年9月18日|洪州総管の宇文音が崇崗鎮にて突厥と戦い、大勝利
622年11月2日-08:00|中国| ||唐・武徳5年9月24日|定州総管の雙士洛と驃騎將軍の魏道仁がまた恒山の南で突厥を破った
622年11月6日-08:00|中国| ||唐・武徳5年9月28日|東塩州の人の馬君徳がその州をもって叛いて劉黒闥についた
622年11月6日-08:00|中国| ||唐・武徳5年9月28日|領軍將軍の安興貴がまた甘州で突厥を破った/劉黒闥が瀛州を陥落させ、刺史の馬匡武がここに死んだ
622年11月13日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月5日|貝州刺史許善護が黒闥の弟の十善とユ県にて戦い、善護軍は全滅
622年11月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月6日|右武候將軍桑頭和が晏城にて黒闥を攻撃し破る
622年11月14日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月6日|観州刺史の劉君会が叛いて劉黒闥についた
622年11月25日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月17日|行軍総管淮陽壯王道玄が劉黒闥と下博で戦い敗北/道玄は黒闥に殺された
622年11月29日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月21日|林士弘が唐に降った
622年12月5日-08:00|中国| ||唐・武徳5年10月27日|黒闥は進軍して名州を占拠

- 622年12月8日-08:00|中国| ||唐・武徳5年11月|劉黒闥は魏州の南の元城を攻撃し落とすと魏州へ戻ってきて攻撃
- 622年12月10日-08:00|中国| ||唐・武徳5年11月3日|劉黒闥が滄州を陥落させた
- 623年-08:00|中国| |||<死去>高昌国王「クハ伯雅」
- 623年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi3世」Silimeghavannaの息子⇒「Jettha Tissa3世」Sangha Tissa王の息子(~624年)
- 623年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||フランク王国(メロヴィング朝)クロール2世領土分割→<即位>アウストラシア王ダゴベルト1世[フランク王クロール2世の息子]
- 623年1月17日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月11日|劉黒闥は恒州を落とし、刺史の王公政を殺した
- 623年1月22日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月16日|幽州大総管李藝が、廉、定二州を恢復
- 623年1月23日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月17日|田留安が劉黒闥を撃って破る
- 623年1月24日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月18日|并州刺史成仁重が范願を撃ち、これを破る
- 623年1月31日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月25日|皇太子が劉黒闥と魏州で戦い、これを破った
- 623年2月2日-08:00|中国| ||唐・武徳5年12月27日|皇太子がまた毛州で劉黒闥を破った
- 623年2月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真平王44年|新羅が任那を討つ
- 623年2月5日-08:00|中国/ベトナム| ||唐・武徳6年|林邑(ベトナム)王梵志が、使者を派遣して入貢
- 623年2月7日-08:00|中国| ||唐・武徳6年1月3日|劉黒闥の饒州刺史諸葛徳威が黒闥を捕らえ城を挙げて降伏
- 623年2月10日-08:00|中国| ||唐・武徳6年1月6日|ス州の人の王摩娑がそむき、驃騎將軍の衛彦がこれを討った
- 623年2月18日-08:00|中国| ||唐・武徳6年1月14日|徐円朗が泗州を陥落させた
- 623年3月26日-08:00|中国| ||唐・武徳6年2月20日|行軍総管李世勣が徐円朗を破り、これを捕らえた
- 623年4月6日-08:00|中国| ||唐・武徳6年3月|苗海潮・梅知巖・左難当が唐に降った
- 623年4月12日-08:00|中国| ||唐・武徳6年3月7日|高開道が文安、魯城を掠めた/驃騎將軍平善政がこれを攻撃して破った
- 623年5月4日-08:00|中国| ||唐・武徳6年3月29日|洪州総管の張善安がそむいた
- 623年5月8日-08:00|中国| ||唐・武徳6年4月4日|吐蕃が芳州を陥落させた
- 623年5月20日-08:00|中国| ||唐・武徳6年4月16日|張善安が孫州を陥落させ、総管の王戎を捕らえた
- 623年5月26日-08:00|中国| ||唐・武徳6年4月22日|南州刺史龍孝恭、南越州の住民甯道明、高州首領馮暄が造反/南越州を落とし、姜州へ進攻
- 623年6月18日-08:00|中国| ||唐・武徳6年5月15日|吐谷渾と党項が河州へ来寇、刺史の盧士良がこれを撃破
- 623年6月26日-08:00|中国| ||唐・武徳6年5月23日|苑君璋の将高滿政が代州へ来寇したが、驃騎將軍林寶言が撃退
- 623年7月1日-08:00|中国| ||唐・武徳6年5月28日|癸卯、高開道が奚の騎兵を率いて幽州へ来寇/長史の王先がこれを撃破
- 623年7月25日-08:00|中国| ||唐・武徳6年6月23日|苑君璋と突厥の吐屯設が馬邑へ来寇/高滿政がこれと戦い、破った
- 623年7月31日-08:00|中国| ||唐・武徳6年6月29日|柴紹が吐谷渾と戦い包囲された/紹は精騎を密かに虜の背後へ廻らせて攻撃し虜軍は大いに潰れた
- 623年8月2日-09:00|日本/韓国| ||推古31年7月|新羅討伐軍数万を派兵
- 623年8月3日-08:00|中国| ||唐・武徳6年7月2日|苑君璋が突厥を率いて馬邑へ来寇/右武侯大將軍李高遷と高滿政が、これを阻んで蟬河にて戦い撃破
- 623年8月3日-08:00|中国| ||唐・武徳6年7月2日|張護と李通は賀若懷廣を殺し、汝州別駕竇伏明を盟主に推戴して瓜州へ進軍/長史の趙孝倫が撃退
- 623年8月4日-08:00|中国| ||唐・武徳6年7月3日|岡州刺史馮士羽が新會に據って造反/廣州刺史劉感が討伐し、士羽が降伏
- 623年8月10日-08:00|中国| ||唐・武徳6年7月9日|突厥が原州へ来寇
- 623年8月12日-08:00|中国| ||唐・武徳6年7月11日|突厥が朔州へ来寇し李高遷は敗北
- 623年8月31日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月|高開道が奚を率いて幽州へ侵略したが、州兵がこれを撃退
- 623年9月8日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月9日|輔公婁は、丹陽にて帝と称し、国号を「宋」とした
- 623年9月12日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月13日|突厥が真州と馬邑へ来寇
- 623年9月15日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月16日|突厥が原州へ来寇
- 623年9月27日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月28日|突厥が原州の善和鎮を落とす
- 623年9月29日-08:00|中国| ||唐・武徳6年8月30日|突厥が渭州へ来寇
- 623年9月30日-08:00|中国| ||高昌・重光4年9月|<死去>高昌国王「高昌王麴伯雅」
- 623年9月30日-08:00|中国| ||高昌・重光4年9月|<即位>高昌国王「高昌光武王」(~640年病死)
- 623年10月16日-08:00|中国| ||唐・武徳6年9月17日|突厥が幽州へ来寇
- 623年10月22日-08:00|中国| ||唐・武徳6年9月23日|渝州の人の張大智がそむいた
- 623年10月29日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福40年10月|新羅真平王、使臣を唐へ遣わす
- 623年10月29日-09:00|韓国| ||百濟・法王25年10月|百濟が新羅の勒弩県を襲う
- 623年11月14日-08:00|中国| ||唐・武徳6年10月17日|張大智が倍へ侵入/刺史の田世康等がこれを討つと、大智は衆を率いて降伏
- 623年11月17日-08:00|中国| ||唐・武徳6年10月20日|右虞候率の杜士遠が高滿政を殺し、朔州をもってそむいた
- 623年11月22日-08:00|中国| ||唐・武徳6年10月25日|突厥は再び和親を請うて、馬邑を唐へ返した

0700迄 (2145件)

623年12月7日-08:00|中国| ||唐・武徳6年11月10日|張善安が黄州総管の周法明を襲って殺した
623年12月9日-08:00|中国| ||唐・武徳6年11月12日|舒州総管張鎮周等が、輔公婁の將陳當世を猷州の黄沙にて
攻撃し大いに破った
623年12月27日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・栄留王6年12月|高句麗、使臣を唐へ遣わす
623年12月27日-08:00|中国| ||唐・武徳6年12月1日|朔、日食があった
623年12月28日-08:00|中国| ||唐・武徳6年12月2日|張善安が降った
624年-05:45|パール| ||<即位>リッチャビ朝国王「Dhruvadeva」(~625年)
624年-05:30|インド| ||<即位>東チャールキヤ朝君主「Kubja-ga-issuv-alkana」建国(~641年)
624年-05:30|スリランカ| ||<復位>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi 3世」(~640年)
624年-04:00|アルメニア| ||<就任>アルメニアのマルチン「ロシュベハン」叔父2世によって指名されたイラン貴族(~627年)
624年-01:00|ジブラルタル/スペイン/フランス| ||ジブラルタルは西ゴート王国の一部(~711年)
624年 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「レドワルト」
624年 00:00|イギリス| ||<即位>イーストアングリア王「Eorpwald Raedwaldes sunu」(~06271004Ricberhtに暗殺される)
624年1月23日-08:00|中国| ||唐・武徳6年12月28日|突厥が定州へ来寇したが、州兵が撃退した
624年1月26日-08:00|中国| ||高昌・延寿1年|高昌国王「高昌光武王」が延寿(-640年)と改元
624年1月26日-09:00|韓国/中国| ||百済・法王26年1月|百済の武王、大臣を唐に派遣し、朝貢
624年2月5日-08:00|中国| ||唐・武徳7年1月11日|趙郡王孝恭が輔公石の別將を樅陽にて撃破
624年2月13日-08:00|中国| ||唐・武徳7年1月19日|鄆州の人の鄧同穎がその刺史の李士衡を殺した
624年3月6日-08:00|中国| ||唐・武徳7年2月12日|行軍副総管権文誕が輔公婁の党を猷州にて破りその枚回等四
鎮を抜いた
624年3月13日-08:00|中国| ||唐・武徳7年2月19日|漁陽の部將の張金樹が高開道を殺して降った
624年3月17日-03:00|サウジアラビア| ||パドルの戦いでマホメットがメッカのクライシュ族軍を破る
624年4月9日-08:00|中国| ||唐・武徳7年3月16日|趙郡王孝恭が蕪湖にて輔公婁を破り、梁山など三鎮を抜いた
624年4月14日-08:00|中国| ||唐・武徳7年3月21日|安撫使任瓌が揚子城を抜いた/廣陵城主龍龕が降伏
624年4月20日-08:00|中国| ||唐・武徳7年3月27日|突厥が原州へ来寇
624年4月21日-08:00|中国| ||唐・武徳7年3月28日|趙郡王李孝恭がそむいた淮南道行台左僕射の輔公婁を破り、
これを捕らえた
624年4月23日-08:00|中国| ||唐・武徳7年4月|唐が新律令(武徳律)を發布し、均田制・租庸調制を定める
624年5月24日-08:00|中国| ||唐・武徳7年5月2日|突厥が朔州へ来寇
624年5月27日-08:00|中国| ||唐・武徳7年5月5日|キョウと吐谷渾が連合して松州へ来寇/益州行台左僕射竇軌、扶
州刺史蔣善合を派遣してこれを撃たせる
624年6月21日-08:00|中国| ||唐・武徳7年6月|突厥が代州の武周城へ来寇したが、州兵が撃破
624年7月8日-08:00|中国| ||唐・武徳7年6月18日|吐谷渾が扶州へ来寇したが、蔣善合が撃退
624年7月14日-08:00|中国| ||唐・武徳7年6月24日|慶州都督の楊文幹がそむいた
624年7月21日-09:00|韓国/中国| ||百済・法王26年7月|百済、使臣を唐に遣わして朝貢
624年7月21日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月|吐谷渾が岷州へ来寇
624年7月21日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月1日|苑君璋が突厥を率いて朔州へ来寇、総管の秦武通が撃退
624年7月25日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月5日|造反した慶州都督楊文幹が麾下から殺された
624年7月30日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月10日|突厥が原州へ来寇
624年8月1日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月12日|突厥が隴州へ来寇し護軍尉遲敬徳へ迎撃させる
624年8月2日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月13日|吐谷渾と党項が松州へ来寇
624年8月4日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月15日|突厥が陰盤へ来寇
624年8月5日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月16日|蔣善合が松州の赤磨鎮にて吐谷渾を撃ち破った
624年8月10日-08:00|中国| ||唐・武徳7年7月21日|突厥の吐利設と苑君璋が、并州へ来寇
624年9月18日-08:00|中国| ||唐・武徳7年8月|突厥が大挙して押し寄せ、長安にて戒嚴令が布かれたが、李世民
が撃退
624年9月18日-08:00|中国| ||唐・武徳7年8月1日|突厥が原州へ来寇
624年9月19日-08:00|中国| ||唐・武徳7年8月2日|吐谷渾がセン州へ来寇
624年9月28日-08:00|中国| ||唐・武徳7年8月11日|突厥が綏州へ来寇、刺史の劉大俱がこれを撃退
624年10月10日-08:00|中国| ||唐・武徳7年8月23日|岐州刺史柴紹が杜陽谷にて突厥を破った
624年10月23日-08:00|中国| ||唐・武徳7年9月6日|突厥が綏州へ来寇し都督劉大俱がこれを破る
624年10月23日-08:00|中国| ||唐・武徳7年9月6日|癸卯、日南の住民姜子路が造反/交州都督王志遠がこれを撃
破
624年11月16日-09:00|韓国| ||百済・法王26年10月|百済、新羅の6城を攻めとる/この際、新羅の訥催戦死
624年11月16日-08:00|中国| ||唐・武徳7年10月|吐谷渾及びキョウが豊州へ来寇して、合川を落とした
624年11月18日-08:00|中国| ||唐・武徳7年10月3日|突厥が甘州へ来寇
625年-01:00|イリア| ||<就任>カトリク「アトリウス」(~638年死去)
625年 00:00|イギリス| ||<死去>ガウイット王「Cadfan ap Iago」
625年 00:00|イギリス| ||<即位>ガウイット王「Cadwallon ap Cadfan」(~634年死去)
625年 00:00|イギリス| ||<即位>カウイット王「Nowy Hen」
625年1月14日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・栄留王7年12月|高句麗、使臣を唐へ遣わす
625年2月13日-08:00|中国| ||唐・武徳8年1月|吐谷渾が豊州へ来寇

0700迄 (2145件)

625年3月23日-03:00|サウジアラビア| ||メデイ北方でイスラム軍とメッカ軍が交戦し、マホメットが負傷
625年7月1日-08:00|中国| ||唐・武徳8年5月21日|涼州胡の陸伽陀が突厥を率いて都督府を襲撃し子城へ入った
/長史の劉君傑がこれを撃破
625年8月2日-08:00|中国| ||唐・武徳8年6月24日|突厥の頡利可汗が靈州へ来寇
625年8月25日-08:00|中国| ||唐・武徳8年7月17日|突厥の頡利可汗が相州へ来寇
625年9月7日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月|左武侯大將軍安修仁が、且渠川にて陸伽陀を撃破
625年9月7日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月1日|突厥が石嶺を越えて并州へ来寇
625年9月8日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月2日|突厥が靈州へ来寇
625年9月12日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月6日|突厥が丁卯、口、沁、韓三州へ来寇
625年9月17日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月11日|并州道行軍總管張瑾が突厥と太谷にて戦い、全滅
625年9月25日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月19日|突厥が靈武へ来寇
625年9月29日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月23日|任城郡王李道宗が突厥と靈州で戦い、これを破った
625年10月1日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月25日|突厥が綏州へ来寇
625年10月2日-08:00|中国| ||唐・武徳8年8月26日|頡利可汗が使者を派遣して、講和を請い退却
625年10月8日-08:00|中国| ||唐・武徳8年9月2日|突厥の没賀咄設が并州の一県を落とした
625年10月11日-08:00|中国| ||唐・武徳8年9月5日|代州都督蘭が突厥の没賀咄設を撃破
625年10月21日-08:00|中国| ||唐・武徳8年9月15日|右領軍將軍王君廓が幽州にて突厥を破り、二千余人を捕斬
625年10月25日-01:00|パチン| ||<死去>第69代ローマ教皇「ホノリアティウス5世」
625年10月27日-01:00|パチン| ||<就任>第70代ローマ教皇「ホルクス1世」(~06381012死去)
625年11月16日-08:00|中国| ||唐・武徳8年10月11日|吐谷渾が豊州へ来寇/扶州刺史蔣善合がこれを救う
625年11月22日-08:00|中国| ||唐・武徳8年10月17日|突厥がセソ州へ来寇
625年12月5日-09:00|韓国/中国| ||百濟、使臣を唐に遣わして朝貢
625年12月12日-08:00|中国| ||唐・武徳8年11月8日|突厥が彭州へ来寇
625年12月20日-08:00|中国| ||唐・武徳8年11月16日|吐谷渾が岷へ来寇
626年-05:00|カザフスタン/トルコ| ||ハクレイクス帝と突厥可汗、同盟を結ぶ。突厥・ハザール軍、裏コーカサスに侵入する
626年-02:00|トルコ| ||アヴァール人とスラブ人、コンスタンティノブル攻撃
626年-02:00|トルコ| ||ヘルニア軍、コンスタンティノブル付近に迫り、ビザンツ反撃
626年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「アリオルト」諸公爵の一人。アタロルトの妹グンベルグの夫として即位(~636年)
626年-01:00|イタリヤ| ||<廃位>イタリヤ王・ランゴバルド王「アタロルト」
626年 00:00|イタリヤ| ||<死去>マシア王「チェル」
626年 00:00|イタリヤ| ||<即位>マシア王「ベンダ・Pybban sunu」(~06551115戦死)
626年2月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||百濟・武王27年;高句麗・栄留王9年|百濟が高句麗と和親を結ぶ
626年3月31日-08:00|中国| ||唐・武徳9年2月28日|突厥が原州へ来寇
626年4月6日-08:00|中国| ||唐・武徳9年3月5日|吐谷渾、党項が岷州へ来寇
626年4月15日-08:00|中国| ||唐・武徳9年3月14日|梁師都が辺域へ来寇し静難鎮を陥す
626年4月24日-08:00|中国| ||唐・武徳9年3月23日|突厥が靈州へ来寇
626年4月30日-08:00|中国| ||唐・武徳9年3月29日|突厥が涼州へ来寇し、都督の長樂王幼良が、これを撃退
626年5月10日-08:00|中国| ||唐・武徳9年4月9日|突厥が朔州へ来寇
626年5月16日-08:00|中国| ||唐・武徳9年4月15日|突厥がケ州へ来寇
626年5月21日-08:00|中国| ||唐・武徳9年4月20日|安州大都督李靖が、突厥の頡利可汗と、靈州の夾石にて戦い、
突厥は退却
626年5月24日-08:00|中国| ||唐・武徳9年4月23日|浮屠(仏陀)・老子の法を廃した
626年5月26日-08:00|中国| ||唐・武徳9年4月25日|突厥が西倉州へ来寇
626年5月31日-08:00|中国| ||唐・武徳9年5月|突厥が蘭州へ来寇
626年6月10日-08:00|中国| ||唐・武徳9年5月11日|突厥が秦州へ来寇
626年6月18日-08:00|中国| ||唐・武徳9年5月19日|吐谷渾と党項が河州へ来寇
626年6月19日-09:00|日本| ||推古34年5月20日|<死去>大臣「蘇我馬子」76歳(誕生:(欽明)12(551))息子の蘇我
蝦夷大臣就任
626年6月29日-08:00|中国| ||唐・武徳9年6月|吐谷渾が岷州へ来寇
626年7月2日-08:00|中国| ||唐・武徳9年6月4日|唐を創始した李淵の次男の李世民が、兄の建武と弟の元吉を殺
す(玄武門の変)
626年7月2日-08:00|中国| ||唐・武徳9年6月4日|浮屠・老子の法を復した
626年7月22日-08:00|中国| ||唐・武徳9年6月24日|幽州都督・廬江郡王の李瑒がそむき、処刑された
626年7月31日-08:00|中国| ||唐・武徳9年7月3日|柴紹が秦州にて突厥を破った
626年8月27日-09:00|韓国| ||百濟・法王28年8月|百濟、新羅の主在城を攻める/主在城主の東所、捕らえられ殺
害される
626年9月4日-08:00|中国| ||唐・武徳9年8月9日|<即位>唐第2代皇帝「太宗李世民」(~貞観23年5月26日(649年7月
10日)死去)
626年9月4日-08:00|中国| ||唐・武徳9年8月9日|<退位>唐初代皇帝「高祖李淵」讓位
626年9月21日-08:00|中国| ||唐・武徳9年8月26日|ケ陽にて、ケ州道行軍總管尉遲敬徳が突厥と戦い、大いに破
った/頡利がやって来て和平を請うたので、詔してこれを許した

0700迄 (2145件)

- 626年9月23日-08:00|中国| ||唐・武徳9年8月28日|突厥が便橋を寇した
626年9月25日-08:00|中国| ||唐・武徳9年8月30日|突厥の頡利可汗と便橋で会盟した
626年10月26日-08:00|中国| ||唐・武徳9年10月1日|朔、日食があった
627年-05:30|インド| |||テカンのチャルキア朝が北インドのハルシャ軍を撃破
627年-04:00|ジョージア| |||<就任>イベリア公「アタルネ1世」(~637年)
627年-04:00|ジョージア/トルコ| |||突厥軍・ビザンツ軍、トビリスを包囲する
627年-04:00|アルメニア/トルコ| |||アルメニアの大部分はビザンツ支配に戻った(~628年)
627年1月23日-08:00|中国/インドネシア| ||唐・貞観1年|訶陵(古代ジャワ島にあった仏教国)唐に最初の朝貢
627年1月23日-08:00|中国| ||唐・貞観1年1月2日|唐・太宗が貞観(-649年)と改元
627年2月8日-08:00|中国| ||唐・貞観1年1月18日|燕郡王李芸が涇州でそむいたので、処刑した
627年4月-03:00|サウジアラビア| |||ハンダクの戦いで、メッカ軍がメッカを包囲
627年4月21日-08:00|中国| ||唐・貞観1年閏3月1日|朔、日食があった
627年6月19日-08:00|中国| ||唐・貞観1年5月|苑君璋が突厥を引き入れて馬邑を陥し、高満政を殺して、恒安まで退却してここを保ったが、降伏
627年7月19日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福44年6月|新羅真平王、使臣を唐へ遣わす
627年8月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||百済・武王28年7月|百済・武王が沙乞將軍に命じて新羅の西部2城を攻撃させ、陥落させる
627年10月4日 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Eorpwald Raedwaldes sunu」Riçberhtに暗殺される
627年10月4日 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Riçberht」(~630年死去)
627年10月15日-08:00|中国| ||唐・貞観1年9月1日|朔、日食があった
627年12月12日-03:30|イラン/イラク/トルコ| |||ニネヴェの戦い/ビザンツ帝国皇帝ヘラクレイオス1世が、ニネヴェでササン朝ペルシャ軍を破る
627年12月13日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福44年11月|新羅真平王、使臣を唐へ遣わす
628年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルツァン「ヴァラス・ティロツ2世バグ・ラトゥーニ」カグ・アド2世によって指名
628年-04:00|オマーン/サウジアラビア| |||オマーンはイスラム教カリフの一部(~661年)
628年-04:00|アゼルバイジャン/ジョージア| |||トビリス、占領され、アルメニア(現在のアゼルバイジャン)、征服される
628年-02:00|ヨルダン| |||<即位>ガッサン王「アムル4世ヒッソ・ヤハラ」⇒「ヤハラ5世ヒッソ・アル＝ハリス」(~632年)
628年-02:00|エジプト/アルメニア/シリア・アラブ/トルコ| |||エジプト、シリア、アルメニアが再びビザンツ領となる
628年-01:00|アルメニア| |||<即位>ミフラー朝(アルメニア)大公「Varaz Grigor」(~638年死去)
628年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「ドムネイル・マック・アイト」(~642年没)
628年2月8日 06:00|ホンジュラス| |||<即位>コロン王「煙イミシュ」(~06950618)
628年2月10日-08:00|中国| ||西突厥・肆葉護1年|<死去>西突厥第5代可汗「統葉護可汗(トキヤブグ・カガン)」伯父(諸父)の莫賀咄(ハガテウル)に殺される
628年2月10日-08:00|中国| ||西突厥・肆葉護1年|<即位>西突厥可汗「乙毘沙鉢羅肆葉護可汗(啞力特勤)」統葉護可汗の子(~632年秋死去)
628年2月10日-08:00|中国| ||西突厥・肆葉護1年|<即位>西突厥第6代可汗「莫賀咄侯屈利俟可汗」統葉護可汗の伯父(~630年泥孰に殺された)
628年2月10日-08:00|中国| ||唐・貞観1年12月30日|利州都督の李孝常と右武衛將軍の劉徳裕が反乱を計画し、処刑した
628年2月11日-09:00|日本| ||推古36年|<死去>泊瀬王(不明)聖徳太子の皇子
628年2月11日-09:00|日本|東京都台東区|推古36年|土師中知、浅草寺(浅草観音)創建<聖観音宗総本山>
628年2月11日-08:00|モンゴル| ||唐・貞観2年|<即位>薛延陀可汗「真珠可汗」建国(~645. 9死去)
628年2月15日-08:00|中国| ||唐・貞観2年1月5日|吐谷渾が岷州へ来寇、都督の李道彦がこれを撃退
628年2月25日-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ササン朝第31代シャハンシャー「カワード2世」(~9. 6死去)
628年2月25日-03:30|イラン/イラク| |||<廃位>ササン朝第29代シャハンシャー「ホルロ2世」長子に背かれ(~2. 28暗殺される)
628年3月-03:00|サウジアラビア| |||マホメットとメッカ市民がフタビヤの和議
628年3月11日-09:00|韓国| ||百済・法王30年2月|百済、新羅のがんや城を攻める
628年4月10日-08:00|中国| ||唐・貞観2年3月|唐・李世民(太宗)が東突厥を破り全中国の統一が成る
628年4月10日-08:00|中国/日本| ||唐・貞観2年|推古36年3月1日|朔、日食があった
628年4月15日-09:00|日本| ||推古36年3月7日|<死去>第33代「推古天皇」/75歳(誕生:(欽明)15(554))女帝
628年6月3日-08:00|中国| ||唐・貞観2年4月26日|朔方の人の梁洛仁が梁師都を殺して降った
628年9月6日-03:30|イラン/イラク| |||<死去>ササン朝第31代シャハンシャー「カワード2世」
628年9月6日-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ササン朝第32代シャハンシャー「アルダシール3世」(~06300427死去)
628年10月3日-09:00|日本| ||推古36年9月|境部摩理勢(不明)豪族。蘇我蝦夷に攻められ、殺害された
628年10月4日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・栄留王11年9月|高句麗、唐が東突厥の頡利可汗を捕らえたことを賀する使を派遣
629年-07:00|ベトナム| |||<死去>チャンパ王「范梵志」
629年-07:00|ベトナム| |||<即位>チャンパ王「范頭黎」(~640年死去)
629年-01:00|フランス| |||<即位>アキタニア王(メロヴィング朝)カリベルト2世(~632年)
629年 00:00|イギリス| |||<死去>ダールリア王「Connadh cerr mac Conaill」
629年 00:00|イギリス| |||<即位>ダールリア王「Eochaidh buidhe mac Aedhain」(~同年死去)⇒「Domhnall brecc mac Echdhaigh」(~642. 12死去)

0700迄 (2145件)

- 629年1月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真平王50年|高句麗と娘臂城で戦い陥落させる
- 629年1月30日-09:00|日本|奈良県奈良市|舒明1年|高句麗の僧・慧灌、般若寺創建
- 629年1月30日-08:00|中国| ||唐・貞観3年|<死去>吐蕃ツェンポ「ナリ・ソツェン(囊日論贊)」
- 629年1月30日-08:00|中国| ||唐・貞観3年|<即位>吐蕃ツェンポ「ソツェン・ガソポ(松贊干布)」(~641年退位)
- 629年2月2日-09:00|日本| ||舒明1年1月4日|<即位>第34代「舒明天皇」(~06411009)
- 629年4月28日-09:00|日本| ||舒明1年4月1日|大和朝廷から田部連を掖玖(屋久島)に派遣
- 629年8月24日-09:00|朝鮮/韓国| ||新羅・建福46年8月|新羅、高句麗の娘臂城を破る
- 629年8月24日-08:00|中国| ||唐・貞観3年8月|玄奘が仏典を求めてインドへ出発(~645)
- 629年8月24日-08:00|中国| ||唐・貞観3年8月1日|朔、日食があった
- 629年9月-03:30|イラン/トルコ| ||ヘラクレイオス帝、ケソフンで和議
- 629年9月23日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・栄留王12年9月|高句麗、使臣を唐へ遣わす
- 629年9月23日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福46年9月|新羅、使臣を唐へ遣わす
- 629年9月23日-09:00|韓国/中国| ||百済・法王31年9月|百済、使臣を唐へ遣わす
- 629年10月18日-01:00|フランス| ||<死去>アキナア王(メロウ・イング朝)「クタル2世」
- 629年10月18日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<死去>ネストリア・ブルグンデア王クタル2世→アウストラリア王ダゴベルト1世が領土継承(~06390119)
- 629年10月18日-01:00|フランス| ||<即位>アキナア王(メロウ・イング朝)「カリハルト2世」(~6320408死去)
- 629年11月24日-08:00|中国| ||唐・貞観3年11月4日|突厥が河西へ来寇/肅州刺史公孫武達と甘州刺史成仁重がこれと戦って、撃破
- 629年12月18日-08:00|中国| ||唐・貞観3年11月28日|任城王道宗が靈州にて突厥を攻撃し、破った
- 630年-08:00|中国| ||<即位>西突厥第7代可汗「肆葉護可汗(啞力特勤)」(~632年)統葉護可汗の子
- 630年-05:30|インド| ||<即位>ハローヴァ朝君主「ナリシハヴァアルマン1世」(~668年)
- 630年-05:30|インド| ||チャールキア朝がウイシュンクンテイン朝を滅ぼす
- 630年-04:00|アルメニア| ||<就任>アルメニアのマルツパン「ミジグ2世」ニヒザンチン皇帝ヘラクレイオスによってアルメニア総督に任命されたアルメニアの貴族(~635年)
- 630年-01:00|オーストリア/ドイツ| ||<死去>ハイルン公「ガリヴァルト2世」
- 630年-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<即位>ハイルン公「セトア1世」(~680年)
- 630年 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「Richterht」
- 630年 00:00|イギリス| ||<即位>イーストアングリア王「Sigeberht」(~634年退位)、「Ecgric」(~06361029戦死)
- 630年 00:00|イギリス| ||<即位>ケレディン王「クリトック1世」(~665年)
- 630年1月11日-03:00|サウジアラビア| ||マホメット、メッカを無血占領(帰還)
- 630年2月18日-08:00|中国| ||西突厥・肆葉護3年|<死去>西突厥第6代可汗「莫賀咄侯屈利俟吐可汗」泥孰に殺された
- 630年2月18日-08:00|中国| ||唐・貞観4年1月|李靖が驍騎三千を率いて白邑から悪陽嶺へ進軍、定襄を夜襲しこれを破る/康蘇密が、隋の蕭后と煬帝の孫の政道を連れて来降/李世勣は雲中を出て、白道にて突厥と戦い、大いにこれを破った
- 630年2月18日-08:00|中国| ||唐・貞観4年1月1日|朔、日食があった
- 630年3月27日-08:00|中国| ||唐・貞観4年2月8日|李靖が突厥と陰山で戦い、これを破った
- 630年4月18日-09:00|朝鮮/韓国/中国| ||高句麗・栄留王13年;百済・法王32年3月1日|高句麗大使婁子拔・小使若徳、百済大使恩率素子・小使徳率武徳、ともに朝貢
- 630年4月27日-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ササン朝第32代シャーンシャーン「アルダシール3世」
- 630年4月27日-03:30|イラン/イラク| ||<即位>ササン朝第33代シャーンシャーン「シャフルバラーズ」(~6.9死去)
- 630年5月16日-08:00|中国| ||唐・貞観4年3月29日|<退位>東突厥第4代可汗「頡利可汗(イリクカガン、咄叱)」唐に降伏し、東突厥は一時滅ぶ
- 630年6月9日-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ササン朝第33代シャーンシャーン「シャフルバラーズ」
- 630年6月9日-03:30|イラン/イラク| ||<即位>ササン朝第34代シャーンシャーン「ホスロ3世」(~同年死去)⇒第35代シャーンシャーン「ホローレン(女帝)」⇒第36代シャーンシャーン「シャブール」⇒第37代シャーンシャーン「ペーローズ2世」⇒第38代シャーンシャーン「アザルミートウフト(女帝)」(~631年死去);第39代シャーンシャーン「ファルク・ホルミスト」(~631年死去);第40代シャーンシャーン「ホルミスト6世」(~632年死去);第41代シャーンシャーン「ホスロ4世」(~636年)
- 630年8月14日-08:00|中国| ||唐・貞観4年7月1日|朔、日食があった
- 630年9月16日-08:00|中国/日本| ||舒明2年8月5日|第1回遣唐使として犬上御田鎌・薬師惠日を唐に派遣
- 630年11月11日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|舒明2年10月2日|舒明天皇が岡本宮に遷都
- 631年-05:45|ネパール| ||<即位>リッチャビ朝国王「Bhimar junadeva」(~633年)
- 631年-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ササン朝第38代シャーンシャーン「アザルミートウフト(女帝)」
- 631年-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ササン朝第39代シャーンシャーン「ファルク・ホルミスト」
- 631年-01:00|チェコ/スロバキア| ||フランク商人サモがホヘミアで西南スラブ族のサモ王国を建設
- 631年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒート王「Cinaedh mac Lugthreine(Kenneth1世)」
- 631年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒート王「Gartnaidh mac Foith(Gartnait3世)」(~635年死去)
- 631年1月8日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞観4年12月|肆葉護が兵を率いて莫賀咄を攻撃、莫賀咄は敗北、泥孰設がこれを殺す/肆葉護が大可汗となる
- 631年3月-03:30|イラン/イラク| ||<即位>ササン朝第42代シャーンシャーン「ホスロ5世」(~4月)
- 631年3月9日-09:00|朝鮮| ||高句麗・栄留王14年2月|高句麗、唐に備え長城築造

0700迄 (2145件)

- 631年3月26日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンダル| |||<即位>西ゴート王国国王「シヤント」(~6360312死去)
631年3月26日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンダル| |||<即位>西ゴート王国国王「スウィンティラ」
631年4月7日-09:00|韓国/日本| ||百済・法王33年3月1日|百済王義慈が、王子豊璋を質として貢上し、日本に到る
631年5月19日-08:00|中国| ||唐・貞観5年4月13日|靈州の斛薛が造反し、任城王道宗が追撃してこれを破る
631年6月-03:30|イラン/イラク| |||<復位>サーン朝第43代シャーンシャ「ホーラーン(女帝)」(~632.6死去)
631年6月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真平王52年5月|伊サの汗宿と阿サの石品とが反逆を起こした
631年10月1日-09:00|韓国/中国| ||百済・法王33年9月|百済、使臣を唐へ遣わす
632年-03:30|イラン/イラク| |||<死去>サーン朝第40代シャーンシャ「ホルミスト」6世
632年-02:00|ブルガリア| |||<即位>大ブルガリア「クワラト」建国(~665年死去)
632年-02:00|ヨルダン| |||<即位>ガッサン王「ヤハラ6世ヒン・アル=アハム」(~638年)
632年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリクン公「ラトル1世」(~642年)
632年1月27日-08:00|中国| ||唐・貞観6年|ホータン、中国の威光に服して属国になる
632年1月27日-09:00|韓国| ||新羅・真平王53年1月|<死去>新羅王「真平王」
632年1月27日-09:00|韓国| ||新羅・真平王53年1月|<即位>新羅王「善徳女王」(~647年2月17日(旧暦1月8日)死去)
632年1月27日-08:00|中国| ||唐・貞観6年1月1日|朔、日食があった
632年2月14日-08:00|中国| ||唐・貞観6年1月19日|静州山謀反、右武衛將軍季子和がこれを破った
632年4月8日-01:00|フランス| |||<死去>アキナ7王(メウイング朝)「カリベルト2世」
632年4月8日-01:00|フランス| |||<即位>アキナ7王(メウイング朝)「カリベルト」⇒「ボキス」(~660年)
632年4月11日-08:00|中国| ||唐・貞観6年3月17日|吐谷渾が蘭州へ来寇したが、州兵が撃退
632年6月-03:30|イラン/イラク| |||<死去>サーン朝第43代シャーンシャ「ホーラーン(女帝)」
632年6月8日-03:00|サウジアラビア| |||<死去>イスラム教の祖マホメット/62歳(誕生05700123)
632年6月8日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>イスラム教初代正統カリフ「アブ=ハクル」(~06340822死去)
632年6月16日-03:30|イラン/イラク| |||<即位>サーン朝第44代シャーンシャ「ヤステギルト」3世」(~651年死去)
632年7月23日-09:00|韓国| ||百済・法王34年7月|百済、兵を發して新羅を攻める
632年7月23日-08:00|中国| ||西突厥・肆葉護5年7月|<死去>西突厥第7代可汗「肆葉護可汗(啞力特勤)」肆葉護可汗が出兵して薛延陀を攻撃したが敗北/設卑達官と弩失畢の二部の攻撃で肆葉護は康居へ亡命客死
632年7月23日-08:00|中国| ||西突厥・咄陸1年7月|<即位>西突厥可汗「咄陸可汗(テルク=カッ、泥孰、莫賀設)」莫賀設の子、族人により擁立される(~634年病死)
632年11月21日-09:00|日本| ||舒明4年10月4日|遣唐使犬上御田鍬らが唐使高表仁を伴い帰国
633年-03:00|クウェート/オマーン/カタール/サウジアラビア/UAE| |||初代カリフのアブ=ハクルがアラビア半島を平定
633年-01:00|スペイン/アンダル/ポルトガル| |||西ゴート王国選挙王政の導入
633年1月16日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福49年12月|新羅、使臣を唐へ遣わす
633年8月10日-09:00|韓国/中国| ||新羅・建福50年7月|新羅、使臣を唐へ遣わして朝貢
633年9月9日-09:00|韓国| ||百済・法王35年;新羅・建福50年8月|百済、新羅の西谷城を攻め、陥落させる
633年10月4日-08:00|中国| ||唐・貞観7年8月26日|東西の洞が辺境を寇し、右屯衛大將軍の張士貴がこれを討つた
633年10月14日 00:00|イギリス| |||<死去>デーン王「エドウィン=Allan sunu」戦死
633年10月14日 00:00|イギリス| |||<即位>デーン王「Eanfrith Athelfrithes sunu」(~634年死去)
633年11月-03:00|イラク/サウジアラビア| |||アラブ人によりリムザヤ陥落
633年11月 00:00|イギリス| |||<即位>デーン王「Osrice Alfrices sunu(反乱側)」(~634年死去)
634年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||フランク王国(メウイング朝)国王ダゴバルト1世がオーストラリアを分割-><即位>オーストラリア王「シベル」3世(~06560201)
634年 00:00|イギリス| |||<死去>ゲウイット王「Gadwallon ap Gadfan」
634年 00:00|イギリス| |||<死去>デーン王「Eanfrith Athelfrithes sunu」
634年 00:00|イギリス| |||<死去>デーン王「Osrice Alfrices sunu(反乱側)」
634年 00:00|イギリス| |||<即位>ゲウイット王「Gadfael Cadomedd ap Cynfeddw」(~655年死去)
634年 00:00|イギリス| |||<即位>デーン王「オスワルト=Athelfrithes sunu」(~06420805マーシア王ペンタに殺される)
634年 00:00|イギリス| |||<退位>イーストアングリア王「Sigeberht」
634年2月-03:00|サウジアラビア/パレスチナ| |||イスラム、シリア=パレスチナの征服を開始/ダティンの戦い:ガザ近郊のダティンでアラブ軍が勝利
634年2月4日-09:00|韓国| ||新羅・仁平1年|新羅・芬皇寺が創建
634年2月4日-08:00|中国| ||西突厥・咄陸3年|<死去>西突厥可汗「咄陸可汗(テルク=カッ、泥孰、莫賀設)」病死
634年2月4日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢1年|<即位>西突厥第9代可汗「沙鉢羅啞利失可汗(同娥設、イェバ=ラティシカッ)」泥孰の弟(~639年死去)
634年2月4日-08:00|中国| ||唐・貞観8年|チベットが唐に帰順し、唐へ遣使・朝貢
634年2月4日-09:00|韓国| ||新羅・仁平1年1月|新羅・第27代善徳女王が仁平(-647年7月)と改元
634年3月3日-08:00|中国| ||唐・貞観8年1月28日|張士貴が?と戦い、これを破った
634年3月5日-09:00|韓国| ||百済・武王35年2月|百済・王興寺が完成
634年6月1日-08:00|中国| ||唐・貞観8年5月1日|朔、日食があった
634年8月-03:00|クウェート/オマーン/カタール/サウジアラビア/UAE| |||アブ=ハクルが死去、ウマル1世が第二代カリフとなる(~644)

0700迄 (2145件)

- 634年8月22日-03:00|サウジアラビア| |||<死去>イスラム教初代正統カリフ「アブー・バクル」
634年8月23日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>イスラム教第2代正統カリフ「ウマル」(~06441103死去)
634年8月29日-09:00|日本| ||舒明6年8月|長星南方に現れる/時の人これを彗星という
634年9月19日-02:00|シリア・アラブ/サウジアラビア| |||アラブがタマスカス征服(637. 10、アレポ), イスラム教アラブ・カリフ国の一部となる(634~661、ラッシュン; 661~750、ウマイヤ朝; 750~909、アッバース朝; 909~1076、ファティマ朝)
634年10月29日-08:00|中国| ||唐・貞観8年10月2日|段志玄が吐谷渾を攻撃し、これを撃破
634年11月-03:00|イラク/サウジアラビア| |||アラブ人によりフワイフ陥落
634年12月16日-08:00|中国| ||唐・貞観8年11月21日|吐谷渾が涼州を寇し、行人で鴻臚丞の趙德楷を捕らえた
635年-05:45|ネパール| |||<即位>リッチャビ朝国王「Visnugupta」
635年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルチン「デビット・サルニ」アルメニアの貴族、ミジ2世を殺害し、自分自身を総督と宣言(~638年)
635年-04:00|アルメニア/トルコ| |||アルメニアは東ローマ(ビザンチン)帝国に編入(~697年)
635年-03:00|サウジアラビア/シリア・アラブ| |||イスラム軍、タマスカス占領
635年 00:00|イギリス| |||<死去>ヒョウト王「Gartnaidh mac Foith(Gartnait3世)」
635年 00:00|イギリス| |||<即位>ヒョウト王「Bruide mac Foith(Bridei2世)」(~641年死去)
635年 00:00|イギリス| |||<即位>マシア王「イオウ・Pybban sunu」共同統治(~06420805戦死)
635年 00:00|イギリス| |||リンデイスファーン島に修道院が建設
635年1月24日-08:00|中国| ||吐谷渾・甘豆1年|<死去>吐谷渾第19代可汗「伏允」
635年1月24日-08:00|中国| ||吐谷渾・甘豆1年|<即位>吐谷渾第20代可汗「クツ故呂烏甘豆可汗(順)」第19代可汗「伏允」の子(~同年死去)
635年1月24日-08:00|中国| ||唐・貞観9年|ネストリウス派キリスト教が中国へ伝播
635年1月24日-09:00|日本| ||舒明7年1月|彗星東に見える
635年1月24日-08:00|中国| ||唐・貞観9年1月|党項羌が叛いて吐谷渾へ帰順
635年4月11日-08:00|中国| ||唐・貞観9年3月19日|高甌生が羌人と戦い、これを破った
635年5月22日-08:00|中国| ||唐・貞観9年閏4月1日|朔、日食があった
635年5月29日-08:00|中国| ||唐・貞観9年閏4月8日|任城王道宗が庫山にて吐谷渾を敗った/吐谷渾可汗の伏允は軽騎で磧へ逃げ込んだ
635年6月13日-08:00|中国| ||唐・貞観9年閏4月23日|靖の部将薛孤児が、曼頭山で吐谷渾を敗りその名王を斬った
635年6月18日-08:00|中国| ||唐・貞観9年閏4月28日|靖等が牛心堆にて吐谷渾を敗り、また、諸赤水源を敗る
635年6月20日-08:00|中国| ||唐・貞観9年5月|伏允を烏海へ追い詰め、これと戦って大いに破り、その名王を捕らえる/薛萬均、薛萬徹もまた、赤海で天柱王を敗る/將軍執失思力は居茹川にて吐谷渾を敗った/伏允は左右に殺され国人は、順を可汗へ立てた
635年6月21日-08:00|中国| ||唐・貞観9年閏5月|癸酉、任城王道宗が庫山にて吐谷渾を敗った/戊子、靖の部将薛孤児が、曼頭山で吐谷渾を敗り、その名王を斬った/癸巳、靖等が牛心堆にて吐谷渾を敗り、諸赤水源を敗る
635年6月25日-08:00|中国| ||唐・貞観9年5月6日|<死去>唐初代唐皇帝「高祖李淵」[0566年生~](享年69)
635年7月7日-08:00|中国| ||唐・貞観9年5月18日|李靖が吐谷渾と戦い、これを破った
635年7月29日-09:00|韓国/中国| ||百濟・法王37年6月10日|百濟使、達率柔ら、朝貢
635年8月24日-08:00|中国| ||唐・貞観9年7月7日|塩沢道行軍副総管の劉徳敏が羌人と戦い、これを破った
635年9月-03:00|サウジアラビア/シリア・アラブ| |||アラブ・イスラム軍がタマスカス市民と和約
636年-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「アリアルド」
636年-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ロウ」諸公爵の一人、アリアルド死後に権力を掌握(~652年)
636年 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Ecgric」戦死
636年 00:00|イギリス| |||<死去>ケウイェ王「Cwichelm」
636年2月12日-08:00|中国| ||吐谷渾・勒豆1年|<死去>吐谷渾第20代可汗「クツ故呂烏甘豆可汗(順)」臣下から殺される
636年2月12日-08:00|中国| ||吐谷渾・勒豆1年|<即位>吐谷渾第21代可汗「烏地也拔勒豆可汗(諾曷鉢)」第20代可汗「クツ故呂烏甘豆可汗(順)」の子(~666年唐へ亡命)
636年3月12日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<死去>西ゴート王国国王「シセナド」
636年3月12日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<即位>西ゴート王国国王「キンティラ」(~6391220死去)
636年3月12日-09:00|韓国/中国| ||百濟・法王38年2月|百濟、使臣を唐へ遣わす
636年4月17日-08:00|中国| ||唐・貞観10年3月7日|吐谷渾王の諾曷鉢が使者を派遣し中国の曆を奉じ年号を使用し子弟を入侍させたいと請うてきた/全て許す
636年6月9日-09:00|韓国| ||新羅・仁平3年;百濟・法王38年5月|百濟が独山城を襲撃しようとして潜んでいたところを角干の閼川を派遣して殲滅させることに成功
636年7月18日-09:00|日本|奈良県橿原市|舒明8年6月10日|岡本宮が火災に遭う/田村宮に遷る
636年8月20日-03:00|サウジアラビア/シリア・アラブ/トルコ| |||イスラム軍と東ローマ軍がヨルダン川の支流のヤムク川で戦い、イスラム軍が勝利(シリアを奪う)
636年9月-03:30|イラン/サウジアラビア| |||カーティシヤの戦いでアラブ軍がササン朝ペルシャ軍を破る
636年10月29日 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Ecgric」戦死
636年10月29日 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Anna (Onna) Enan sunu」(1期目~651年)
636年11月-03:00|イラク/サウジアラビア| |||アラブ人によりバビロン陥落

0700迄 (2145件)

- 636年11月19日-03:00|イラク/サウジアラビア| ||<アル・ガデ・イシヤの戦い>(16日~)ハリド・ビン・アル・ワリド率いるアラブ人がロスタム・ファロザド率いるササン人を破る
- 637年-04:00|ジョージア| ||<就任>イバリア公「ステファン2世」(~650年)
- 637年-03:00|サウジアラビア/パレスチナ| ||イスラム教徒、エルサレムを征服
- 637年-01:00|アルバニア| ||<即位>ミラニ朝(アルバニア)大公「Javanshir」(~6800101死去)
- 637年1月31日-09:00|日本| ||舒明9年|蝦夷が反乱したため上毛野形名を将軍として討たせる
- 637年2月1日-08:00|中国| ||唐・貞観11年|唐で房玄齡らが武貞観律令を選定
- 637年3月-03:00|イラク/サウジアラビア| ||アラブ人によりケシフ陥落/アラブ人によるメソポタミア征服(イスラム教アラブの一部/カリフ制、イラクの州として)
- 637年4月-02:00|イスラエル/サウジアラビア/シリア・アラブ/イラク/チュニジア| ||イスラエルはイスラム教アラブ・カリフ(ラシドゥン637-661、ウマイヤ朝661-750、アッバース朝750-909、ファーティマ朝 909-1099)の一部(~10990715)
- 637年4月1日-08:00|中国| ||唐・貞観11年3月1日|朔、日食があった
- 637年7月27日-08:00|中国| ||唐・貞観11年7月|庚未、大雨が降り洪水、六千余人が溺死
- 638年-03:30|イラン/イラク| ||イラク地方の征服基地としてハスラの町が建設される/イスラム最初の軍営都市
- 638年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ネリリ公「アマトリウス」
- 638年-01:00|アルバニア| ||<死去>ミラニ朝(アルバニア)大公「Varaz Grigor」
- 638年-01:00|フランス| ||<就任>ホワリエ伯「Warinus」(~677年死去)
- 638年1月1日-09:00|韓国/中国| ||百濟・法王39年12月11日|百濟、使臣を唐に遣わし鉄甲と雕斧を献上
- 638年1月21日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|舒明10年|福亮僧正が聖徳太子のために法起寺創建<聖徳宗>
- 638年1月21日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢5年|<即位>西突厥可汗「乙昆咄陸可汗(イェル・テュルク・カガン、欲谷設、ウクシヤト)」(~642年)
- 638年1月21日-08:00|中国| ||唐・貞観12年|この年、景教寺院波斯寺が長安に建立
- 638年1月21日-08:00|中国| ||唐・貞観12年|處月、處密と高昌が、西域・焉耆を攻撃して、五城を抜き、男女千五百人を掠め、その盧舎を焼いて去った
- 638年3月5日-08:00|中国| ||唐・貞観12年2月14日|巫州の山ヨウがそむき、キ州都督の齊善行がこれを破った
- 638年3月21日-08:00|中国| ||唐・貞観12年閏2月1日|朔、日食があった
- 638年10月12日-01:00|パキスタン| ||<死去>第70代ローマ教皇「ホノリウス1世」
- 638年10月18日-08:00|中国| ||唐・貞観12年9月6日|閩水道行軍總管の牛進達(ウシシュン)が吐蕃と松州で戦い、これを破った
- 638年12月1日-08:00|中国| ||唐・貞観12年10月21日|鈞州の山ヨウがそむき、桂州都督の張宝徳がこれを破った
- 638年12月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・仁平5年;高句麗・榮留王21年11月|高句麗が七重城に攻め入ったときには閔川が高句麗兵を撃退
- 639年-07:00|カブチア| ||<即位>チェンラ王「ハウ・アヴァルマン2世」(~657年)
- 639年-03:30|イラン/サウジアラビア| ||ファールスをアラブ・イスラム教が支配(イスラム教カリフ制の一部)
- 639年1月4日-08:00|中国| ||唐・貞観12年11月25日|明州の山ヨウがそむき、交州都督の李道彦がこれを破った
- 639年1月16日-08:00|中国| ||唐・貞観12年12月7日|壁州の山ヨウがそむき、右武侯將軍の上官懐仁がこれを討った
- 639年1月19日-01:00|フランス| ||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)ネストリア・ブルグンデイ王「ダゴベルト1世」
- 639年1月19日-01:00|フランス| ||<即位>フランク王国(メロヴィング朝)ネストリア・ブルグンデイ王「クロウイス2世」(~655年)
- 639年2月9日-09:00|日本|奈良県奈良市|舒明11年|舒明天皇、百濟川のほとりに百濟大寺(→大安寺)【日本最古の官寺】
- 639年2月9日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢6年|<死去>西突厥第9代可汗「沙鉢羅唃利失可汗(同娥設、イェル・テュルク・カガン)」
- 639年2月9日-08:00|中国| ||西突厥・乙屈利1年|<即位>西突厥第10代可汗「乙屈利失乙昆可汗(莫賀咄乙昆可汗、バガテュルク・イェル・カガン)」沙鉢羅唃利失可汗の子(~640年)
- 639年2月9日-09:00|日本| ||舒明11年1月|長星西北に現れる
- 639年5月19日-08:00|中国| ||唐・貞観13年4月11日|中郎將の阿史那結社率がそむき、処刑
- 639年9月3日-08:00|中国| ||唐・貞観13年8月1日|朔、日食があった
- 639年11月1日-09:00|韓国/中国| ||百濟・法王41年10月|百濟、使臣を唐に遣わし金甲と雕斧を献上
- 639年12月12日-02:00|エジプト/イスラエル/サウジアラビア| ||アラブ・イスラム軍がエルサレムから国境を越えてエジプトに侵入
- 639年12月20日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<死去>西哥ート王国国王「キンティラ」
- 639年12月20日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<即位>西哥ート王国国王「トゥルカ」(~6420417死去)
- 639年12月30日-09:00|日本|奈良県奈良市|舒明11年12月|百濟大寺に九重塔が建つ
- 640年-07:00|ベトナム| ||<死去>チャンパ王「范頭黎」
- 640年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパ王「范鎮龍」(~645年臣下のマハ・マントラ・イクルに殺害された)
- 640年-05:45|ネパール| ||<即位>リッチャビ朝国王「Bhimar junadeva」(~641年)
- 640年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Dathopa Tissa1世(Hatthadpatha)」(~652年)
- 640年-03:30|イラン| ||<即位>ダブイト朝「Gil Gavbara」(~660年死去)
- 640年-03:00|クウェート/オマーン/カタール/サウジアラビア/UAE| ||アラブ 戦士への俸給支給のためにマシケに国家財政の記録書「イーワン」が創設される。行政機構の整備が始まる
- 640年-02:00|イスラエル/サウジアラビア| ||東ローマ帝国のカイザリアがイスラム軍によって陥落
- 640年-01:00|フランス| ||<即位>ブルグニオン君主「Alain2世Hir」(~690年)

0700迄 (2145件)

- 640年-01:00|フランス| |||<退位>ブルニ君主「ユテ イエル」
- 640年1月20日 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Eadbald Athelberhtes sunu」
- 640年1月20日 00:00|イギリス| |||<就任>ケント王「Eorcenberht Eadbaldes sunu」(~06640714死去)
- 640年1月29日-08:00|中国| ||高昌・延寿17年|<死去>高昌国王「高昌光武王麴文泰」病死
- 640年1月29日-08:00|中国| ||西突厥・乙屈利2年|<死去>西突厥第10代可汗「乙屈利失乙昆可汗(莫賀咄乙吐可汗)」
- 640年1月29日-08:00|中国| ||西突厥・乙昆沙1年|<即位>西突厥第11代可汗「乙昆沙鉢羅葉護可汗(化ル・イシュハラ・ヤブグ・カクン、薄布特勤、畢賀咄葉護)」啞利失可汗の弟(伽那)の子(~641年)
- 640年1月29日-08:00|中国| ||唐・貞観14年|中郎将辛利兒を前鋒とし都城へ迫らせ、西域・高昌は迎撃したが敗北/智盛は癸酉、開門して降伏/高昌国は滅んだ
- 640年3月28日-08:00|中国| ||唐・貞観14年3月|羅・賈二州のリュウがそむき、広州総管の党仁弘がこれを破った
- 640年4月26日-09:00|日本|奈良県橿原市|舒明12年4月|厩坂宮に遷都
- 640年5月28日-01:00|パチカン| |||<就任>第71代ローマ教皇「セウレリヌ」(~8.2死去)
- 640年8月2日-01:00|パチカン| |||<死去>第71代ローマ教皇「セウレリヌ」
- 640年8月23日-08:00|中国| ||高昌・延寿17年8月|<即位>高昌国王「高昌王麴智盛」麴文泰の子(~同月唐に帰属)
- 640年8月30日-08:00|中国| ||唐・貞観14年;高昌・延寿17年8月8日|<降伏>高昌国王「高昌王麴智盛」唐侯君集に敗れ高昌国は滅びる/唐は西州を置く
- 640年9月21日-08:00|中国| ||唐・貞観14年9月|唐が安西都護府を設置し、西域経営の拠点とする
- 640年10月-02:00|エジプト/サウジアラビア| |||エジプト総主教がイスラム軍に降伏し、イスラム軍がエジプトを制服
- 640年10月21日-09:00|日本|奈良県北葛城郡広陵町|舒明12年10月|百濟宮に遷る
- 640年10月31日-08:00|中国/日本| ||舒明12年10月11日|学問僧南淵請安・学生高向玄理ら唐より帰る
- 640年12月24日-01:00|パチカン| |||<就任>第72代ローマ教皇「ヨハネス4世」(~06421012死去)
- 641年-05:30|インド| |||<即位>東チャルキヤ朝君主「Jayasimha1世」(~673年)
- 641年-03:00|イラク/クウェート/オマーン/カタル/サウジアラビア| |||イスラム軍がヘルシア軍を破る
- 641年-03:00|サウジアラビア| |||カリフのカマル1世が俸給支払いを管轄するディーワーン庁を創設
- 641年-02:00|パレスチナ| |||エルサレムのモネット故地にアル・アサ寺院を建設
- 641年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネチント公「アレキ1世」
- 641年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチント公「アオーネ1世」(~646年死去)
- 641年 00:00|イギリス| |||<死去>ビクト王「Bruide mac Foith(Bridei2世)」
- 641年 00:00|イギリス| |||<即位>ビクト王「Talorc mac Foith(Talorc3世)」(~653年死去)
- 641年2月8日-09:00|朝鮮/中国| |||高句麗王、太子の桓権を唐に遣わして朝貢
- 641年2月11日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝(ヘラクレイオス朝)「ヘラクレイオス」
- 641年2月11日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(ヘラクレイオス朝)「コンスタンティノス3世」ヘラクレイオスの長男(~5.24死去),「ヘラクレイオス」ヘラクレイオスの4人目の子,コンスタンティノス3世の異母弟(~9月)共同統治
- 641年2月16日-08:00|中国| ||西突厥・乙昆沙2年|<死去>西突厥第11代可汗「乙昆沙鉢羅葉護可汗(薄布特勤、畢賀咄葉護、化ル・イシュハラ・ヤブグ・カクン)」
- 641年2月16日-08:00|中国| ||唐・貞観15年|<即位>吐蕃ツェンポ「ゲンツン・ゲンツェン(共日共贊)」(~646年)
- 641年2月16日-08:00|中国| ||唐・貞観15年|<退位>吐蕃ツェンポ「ソツェン・ガンポ(松贊干布)」
- 641年3月6日-08:00|中国| ||唐・貞観15年1月19日|衛士の崔卿・チョウ文懿が反乱を計画し、処刑
- 641年4月-02:00|エジプト/サウジアラビア| |||エジプトのバビロン城が開場
- 641年4月16日-09:00|韓国| ||百濟・武王42年3月|<死去>百濟王「武王」
- 641年4月16日-09:00|韓国| ||百濟・義慈王1年3月|<即位>百濟王「義慈王」(~660年)
- 641年5月24日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレイオス朝)「コンスタンティノス3世」→ヘラクレイオスの単独統治となる(~9月)
- 641年6月-02:00|エジプト/サウジアラビア| |||アラブ・イスラム軍がアレキサンドリアを攻略
- 641年6月10日-08:00|中国| ||唐・貞観15年4月27日|丁巳,果毅都尉席君買が吐谷渾丞相の宣王を襲撃し、これを破って、その兄弟三人を斬る
- 641年9月-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレイオス朝)「コンスタンティノス2世」ゴナトス「コンスタンティノス3世の子」(~06680915死去)
- 641年9月-02:00|トルコ| |||<廃位>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレイオス朝)「ヘラクレイオス」追放
- 641年9月10日-09:00|韓国/中国| ||百濟・義慈王1年8月|百濟王、使臣を唐に遣わして、表文をもって感謝を述べ、あわせて方物を献上
- 641年11月17日-09:00|日本| ||舒明13年10月9日|<死去>第34代「舒明天皇」/49歳(誕生:(推古)1(593))
- 642年-05:30|インド| |||ハルヴァ朝ナシハヴァールマン1世、チャルキヤ朝ラケシ2世を破り、ハータミを占領
- 642年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリンゲン公「ヘン1世」(~687年)
- 642年 00:00|イギリス| |||<死去>ウェセックス王「ケネイルス」
- 642年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラスカイト王「Beli map Neithon」
- 642年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス王「Eiludd ap Cynan」戦死
- 642年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド上王「コネイル・コイル・マック・マエ・コハ」(~654年没),「セラーク・マック・マエ・コハ」(~658年)
- 642年 00:00|イギリス| |||<即位>ウェセックス王「チェンワル」(~645年)
- 642年 00:00|イギリス| |||<即位>ストラスカイト王「Eugein map Beli (Hoan)」⇒「Guret」(~658年死去)

0700迄 (2145件)

- 642年 00:00|イギリス| |||<即位>ホ・イ王「Manwgan ap Selyf」(~655年死去)
642年1月23日-08:00|中国| ||唐・貞観15年12月17日|李世勣が諾真水にて薛延陀を敗った
642年2月5日-08:00|中国| ||唐・貞観16年|<即位>ホ・ウ王「伏闍信」(~23年)
642年2月5日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・栄留王25年1月|高句麗、使臣を唐に遣わして朝貢
642年2月5日-09:00|韓国/中国| ||新羅・仁平9年1月|新羅、使臣を唐に遣わして方物を献上する
642年2月5日-09:00|韓国/中国| ||百濟・義慈王2年1月|百濟、使臣を唐に遣わして朝貢
642年2月19日-09:00|日本| ||皇極1年1月15日|<就任>執政「蘇我入鹿」
642年2月19日-09:00|日本| ||皇極1年1月15日|<即位>第35代「皇極天皇」(~06450614)
642年3月12日-09:00|日本/朝鮮| ||高句麗・栄留王25年; 皇極1年2月6日|高句麗使節が来日
642年4月10日-09:00|日本/韓国| ||皇極1年; 新羅・仁平9年3月6日|新羅の賀騰極使・弔喪使来朝 (15日、帰国)
642年4月17日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<死去>西ゴート王「トゥルク」
642年4月17日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<即位>西ゴート王国国王「キンダ・スウイト」(~6530930死去)
642年5月12日-09:00|日本/韓国| ||皇極1年; 百濟・義慈王2年4月8日|百濟大使翹岐、従者を率いて拝朝
642年8月1日-09:00|韓国| ||百濟・義慈王2年; 新羅・仁平9年7月|百濟の義慈王は単独で新羅に親征し西部の40余城を攻略
642年8月5日 00:00|イギリス| |||<死去>テ・イ王「ア・フルト・Athelfrithes sunu」マ・ソ王「ンダ」に殺される
642年8月5日 00:00|イギリス| |||<死去>マ・ソ王「イウ・Pybban sunu」戦死
642年8月5日 00:00|イギリス| |||<即位>テ・イ王「Oswine Osrices sunu (反乱側)」(~06510820殺害される)
642年8月5日 00:00|イギリス| |||<即位>テ・イ王「ア・ウ・Athelfrithes sunu」(⇒655. 11ノ・ザンブ・ソ王)
642年8月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・仁平9; 高句麗・栄留王25年; 百濟・義慈王2年8月|高句麗と百濟とが連合して新羅の党項城を奪取
642年8月31日-09:00|韓国| ||新羅・仁平9年; 百濟・義慈王2年8月|百濟の將軍允忠、新羅の大耶城を攻め、城主の品釈らを殺害
642年9月-02:00|エジプト/サウジアラビア/トルコ| |||ヒ・サンティン軍がエジプトから撤退し、イスラムがエジプトを征服
642年9月29日-08:00|中国| ||西突厥・乙毘射1年9月|<即位>西突厥第12代可汗「乙毘射匱可汗」莫賀咄乙毘可汗の子(~651年)
642年10月-02:00|エジプト/サウジアラビア| |||アラブ・イスラムがナイル川東岸にファトを建設
642年10月12日-01:00|バチカン| |||<死去>第72代ローマ教皇「ヨハネス4世」
642年10月19日-09:00|日本|新潟県|皇極1年9月21日|越の国の辺境に住む蝦夷数千人が大和政権に帰順
642年10月29日-09:00|朝鮮| ||高句麗・宝蔵王1年10月|<死去>高句麗王「栄留王」大臣、蓋蘇文(ヨンゲ・ソムン)に殺される
642年10月29日-09:00|朝鮮| ||高句麗・宝蔵王1年10月|<即位>高句麗王「宝蔵王」(~668年) 蓋蘇文(ヨンゲ・ソムン)が擁立
642年11月24日-01:00|バチカン| |||<就任>第73代ローマ教皇「テオドルス1世」(~06490514死去)
642年12月-03:30|イラン/サウジアラビア| |||ナハヴァントをアラブ・イスラム教が支配(イスラム教カリフ制の一部)
642年12月 00:00|イギリス| |||<死去>タルリア王「Domhnall brecc mac Echdhaigh」
642年12月 00:00|イギリス| |||<即位>タルリア王「Ferchar mac Connaidh」(~649年死去)
642年12月2日-08:00|中国| ||唐・貞観16年11月5日|高麗東部の大人泉蓋蘇文が、その王の武を弑逆、王の弟の子を立てて王とする
642年12月20日-03:30|イラン/イラク/サウジアラビア| |||イランに進んだムスリム軍がナハヴァントの戦いに勝利しササン朝を壊滅状態に追い込む
643年-05:45|ネパール| |||<即位>リッチャビ朝国王「ナレントラ王」(~679年)
643年-05:30|インド| |||<即位>チャールキヤ朝国王「Adityavarman」(~645年)
643年-04:00|アルメニア| |||<就任>アルメニアのマルツバン「セオド・アルシュトゥニ」(~645年)
643年-03:30|イラン/サウジアラビア| |||ヘルセポリスをアラブ・イスラム教が支配(イスラム教カリフ制の一部)
643年 00:00|イギリス| |||<死去>ゲウイセ王「キニェルス」
643年 00:00|イギリス| |||<即位>ゲウイセ王「Cenwealh Cynegilses sunu」(1期目~645年)
643年1月8日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|皇極1年12月13日|皇極はこの日に豊浦宮から小墾田宮に移る
643年1月26日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・宝蔵王2年1月|高句麗、使臣を唐に遣わして朝貢
643年1月26日-09:00|韓国/中国| ||新羅・仁平10年1月|新羅、使臣を唐に遣わして方物を献上
643年1月26日-09:00|韓国/中国| ||百濟・義慈王3年1月|百濟、使臣を唐に遣わして朝貢
643年2月11日-08:00|中国| ||唐・貞観17年1月17日|代州都督の劉蘭が反乱を計画し、処刑
643年3月31日-08:00|中国| ||唐・貞観17年3月6日|齊王李祐がそむき、李世勣がこれを討った
643年5月14日-09:00|日本/韓国| ||百濟・義慈王3年4月21日|翹岐弟王子、来朝/翹岐弟王子は百濟王王子
643年5月21日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|皇極2年4月28日|皇極天皇が飛鳥板蓋宮に都を移す/新宮完成までの間、小墾田宮を仮宮として利用
643年6月8日-09:00|日本| ||皇極2年5月16日|日本最古の「月食記録」(日本書紀)
643年6月22日-09:00|朝鮮/日本| ||高句麗・宝蔵王2年6月|高麗使が来朝
643年6月22日-08:00|中国| ||唐・貞観17年6月1日|朔、日食があった
643年10月28日-09:00|日本| ||皇極2年9月11日|<死去>吉備嶋皇祖母命(皇極天皇生母)
643年12月16日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|皇極2年11月1日|蘇我入鹿、山背大兄王らを斑鳩宮に襲う
643年12月26日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|皇極2年11月11日|<死去>茨田皇子(65歳)用明天皇の皇子. 蘇我

0700迄 (2145件)

入鹿らに攻められ、山背大兄王らと共に自害

- 643年12月26日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|皇極2年11月11日|<死去>山背大兄王(不明)聖徳太子の皇子。蘇我入鹿らに攻められ斑鳩寺で一族とともに自害
- 644年2月13日-09:00|日本|長野県長野市|皇極3年|皇極天皇、善光寺本堂創建<無宗派>
- 644年2月13日-09:00|韓国/朝鮮/中国| ||百済・義慈王4年;新羅・仁平11年;高句麗・宝蔵王3年1月|新羅・高句麗・百済、使臣を唐に遣わして方物を献上
- 644年8月30日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・貞観18年7月23日;高句麗・宝蔵王3年7月22日|營州都督の張儉が幽州・營州の兵と契丹・奚を率いて高麗を討伐した
- 644年9月17日-08:00|中国| ||唐・貞観18年8月11日|安西都護の郭孝恪が西州道行軍総管となり、焉耆を討伐した
- 644年10月7日-09:00|韓国| ||百済・義慈王4年;新羅・仁平11年9月|新羅王、金玄信を大將軍に任じ、百済の7城を取る
- 644年10月26日-08:00|中国| ||唐・貞観18年9月21日|郭孝恪が焉耆と戦い、これを破った
- 644年11月3日-03:00|サウジアラビア| ||<死去>イスラム教第2代正統カリフウマル・ブン・アル・ハッラフに暗殺される(誕生581年)
- 644年11月5日-08:00|中国| ||唐・貞観18年10月1日|朔、日食があった
- 644年11月7日-03:00|サウジアラビア| ||<就任>イスラム教第3代正統カリフウスマーン(〜06560617死去)
- 644年12月28日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・貞観18年11月24日|唐・太宗が10万の兵を出し高句麗を攻撃(第1次高句麗遠征)
- 645年-07:00|ベトナム| ||<死去>チャンパ王「范鎮龍」臣下のマハ・マントラに殺害された
- 645年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパ王「パド・レーシュガ・アラウ・アルマン」(〜同年廃位)⇒「イヤ・ナウ・アルマン女王」(〜653年)
- 645年-07:00|カンボジア/ベトナム| ||このころ、真臘が扶南を併合
- 645年-05:30|インド| ||<即位>チャールキア朝国王「Abhinavadiitya」(〜646年)
- 645年-05:30|インド| ||<即位>ハーンテヤ朝君主「Jayantavarman」(〜670年)
- 645年-04:00|アルメニア| ||<就任>アルメニアのマルツパン「ウ・アラステイロツ2世バグ・ラトゥーニ」イランの完全な崩壊後、ビザンティンによってアルメニア公に指名された(翌年、正式就任前に亡くなった)
- 645年-01:00|ベルギー| ||<設立>ゴールのベネディクト会修道院(スティフト・コウエル)
- 645年-01:00|イタリヤ| ||ベネント公国サルノを取得
- 645年 00:00|イギリス| ||<即位>サセックス王「Athelwealh」(〜685年死去)
- 645年 00:00|イギリス| ||ゲウイセをマシアが統治(〜648年)
- 645年 00:00|イギリス| ||マシアの介入によってウエセックスからサスサクソン(サセックス)王国分離
- 645年1月21日-08:00|中国| ||唐・貞観18年12月18日|李思摩の部落が叛いた
- 645年2月2日-09:00|日本|奈良県桜井市|皇極3年|安倍倉梯麻呂、安倍文殊院創建<華嚴宗>
- 645年2月2日-09:00|韓国| ||新羅・仁平12年1月|新羅の蔣・金玄信、百済より帰還するも百済の大軍がまた辺境を攻めたので、これを防ぐ
- 645年2月2日-09:00|韓国/中国| ||新羅・仁平12年1月|新羅、唐に使臣を遣わして方物を献上
- 645年2月2日-09:00|韓国/中国| ||百済・義慈王5年1月|百済、太子扶余康信を派遣して朝貢
- 645年2月2日-08:00|中国/韓国| ||新羅・仁平12年1月1日|新羅、唐に遣使朝貢
- 645年2月26日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年1月25日|唐・太宗が再び高句麗攻撃を開始(第2次高句麗攻撃)
- 645年4月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・仁平12年3月|新羅・皇龍寺の9層の木塔が完成
- 645年4月2日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高句麗・宝蔵王4年;唐・貞観19年3月|高句麗が安市城の戦いで唐に勝利
- 645年5月5日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年4月5日|營州都督の張儉、高句麗の建安城を陥落させる
- 645年5月26日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年4月26日|唐、高句麗の蓋牟城を抜く/また、平壤道行軍大總管の張亮、海路から卑沙城を攻める
- 645年6月1日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年5月2日|平壤道行軍総管の程名振が沙卑城を落とした
- 645年6月16日-09:00|朝鮮/中国/韓国| ||唐・貞観19年5月17日|李世勣・太宗、高句麗の遼東城を抜き、この地を遼州とする/新羅、唐を助けて5万の兵を率い、高句麗の水口城を攻める/百済、隙に乗じて新羅の7城を奪回
- 645年6月27日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年5月28日|李世勣等は白巖城へ進軍し高麗軍を破った
- 645年6月29日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年6月1日|李世勣、進軍して高句麗の白巖城を攻め、白巖城、降伏
- 645年7月10日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|皇極4年6月12日|乙巳の変/蘇我入鹿が、中大兄皇子、中臣鎌足らにより宮中で暗殺される(大化の改新の始り)
- 645年7月11日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|皇極4年6月13日|<死去>大臣蘇我蝦夷、甘檀岡の自邸で自害/蘇我本宗家滅びる
- 645年7月12日-09:00|日本| ||皇極4年6月14日|<譲位>第35代「皇極天皇」
- 645年7月12日-09:00|日本| ||皇極4年6月14日|<即位>第36代「孝徳天皇」(〜06541010)
- 645年7月12日-09:00|日本| ||皇極4年6月14日|中臣鎌足、内臣就任
- 645年7月17日-09:00|日本| ||大化1年6月19日以降|常陸国(常州)我姫国から分立/現在の茨城県の大部分(西南部を除く)と、福島県から宮城県南部にまで至る辺境
- 645年7月17日-09:00|日本| ||大化1年6月19日|初めて「大化」と元号をたてる
- 645年7月19日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年6月21日|安市城救援のため、高句麗の別將、高延壽・高惠真、援軍15万を率いて、唐軍に抵抗するも、これを大いに敗る
- 645年8月7日-09:00|韓国/朝鮮/中国| ||高句麗・宝蔵王4年;百済・義慈王5年;新羅・仁平12年7月10日|高句麗・百済・新羅使ともに朝貢

0700迄 (2145件)

645年8月31日-09:00|日本| ||大化1年8月5日|鐘匱の制/朝廷が、国民の直訴を受附ける投書箱を設置
645年8月31日-09:00|日本| ||大化1年8月5日|良民と奴婢の子の別を定めた
645年9月-08:00|モンゴル| ||<死去>薛延陀可汗「真珠可汗」
645年9月-08:00|モンゴル| ||<即位>薛延陀可汗「多弥可汗」(~646年死去)
645年9月28日-09:00|日本| ||大化1年9月3日|古人皇子が謀反を企んだ
645年10月7日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|大化1年9月12日|中大兄が吉野で出家した古人大兄王を謀反の罪で討つ
645年10月13日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年;高句麗・宝蔵王4年9月18日|唐軍、安市城を攻め克たず、寒さと兵糧不足のため退却
645年10月14日-09:00|日本| ||大化1年9月19日|土地の貸借を禁止
645年10月26日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞観19年;高句麗・宝蔵王4年10月1日|唐軍、渤海水を渡る際、風雪のために死ぬ者が続出
646年-08:00|モンゴル| ||<死去>薛延陀可汗「多弥可汗」
646年-08:00|モンゴル| ||<即位>薛延陀可汗「伊特勿失可汗」(~同年7月死去滅亡)
646年-05:30|インド| ||<即位>チャルキア朝国王「Chandraditya」(~649年)
646年-04:00|アルメニア| ||<死去>アルメニアのマルパン「ウァラス・ティロツ2世バグ・ラトゥーニ」
646年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ベネチア公「アイト・ネ1世」
646年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネチア公「ロドアルド」(~647年)
646年1月1日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|大化1年12月9日|孝徳天皇:都を難波長柄豊碕に移す
646年1月17日-08:00|中国| ||唐・貞観19年12月25日|薛延陀が夏州を寇すると、左領軍大將軍の執失思力がこれを破った
646年1月22日-09:00|日本|京都府宇治市|大化2年|道登、宇治川に架橋
646年1月22日-08:00|中国| ||唐・貞観20年|<死去>吐蕃ツェンポ「グンツン・グンツェン(共日共贊)」落馬死
646年1月22日-08:00|中国| ||唐・貞観20年|<復位>吐蕃ツェンポ「ソツェン・ガンポ(松贊干布)」(~649年死去)
646年1月22日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・宝蔵王5年1月|高句麗、朝貢
646年1月22日-09:00|日本| ||大化2年1月1日|賀正の儀式終了時に孝徳天皇により国政大改革の詔勅が宣布される(大化の改新発詔)
646年1月29日-08:00|中国| ||唐・貞観20年1月8日|夏州都督喬師望と右領軍大將軍執失思力等が薛延陀を撃ち、大勝利/多彌可汗は逃げた/回乞の酋長吐迷度が僕骨、同羅と共に多彌可汗を攻撃し多彌は大敗
646年3月7日-09:00|朝鮮/韓国/中国| ||高句麗・宝蔵王5年;百濟・義慈王6年;新羅・仁平13年2月15日|高句麗・百濟・任那・新羅使来朝し、調賦を献ずる
646年4月12日-09:00|日本| ||大化2年3月22日|「薄葬令」発布/大規模な墓の建設や家来等を殉死させることを禁止
646年4月17日-08:00|中国| ||唐・貞観20年3月27日|張亮が反乱を計画し、処刑された
646年4月21日-08:00|中国| ||唐・貞観20年閏3月1日|朔、日食があった
646年7月-08:00|モンゴル| ||<死去>薛延陀可汗「伊特勿失可汗」滅亡
646年8月1日-08:00|中国| ||唐・貞観20年6月15日|校尉の宇文文法が薛延陀の東境で薛延陀を撃破/多彌は阿史徳時健の部落へ逃げたが回乞はこれを攻めて多彌を殺した/薛延陀の余衆は真珠可汗の兄の子の咄摩支を立てて伊特勿失可汗としその故地へ帰った
646年9月6日-08:00|中国| ||唐・貞観20年7月21日|江夏王道宗の兵が薛延陀の阿波の達官数万を撃破
646年9月28日-09:00|日本| ||大化2年8月14日|品部を廃止し、旧職を廃して百官を設け、官位を叙する方針を詔した
646年10月15日-09:00|日本/韓国| ||大化2年9月|小徳高向黒麻呂(玄理)を新羅に派遣し、人質を貢進させ、任那調の貢進を廃止
646年10月15日-08:00|中国| ||唐・貞観20年9月|薛延陀を滅ぼした
647年-05:30|インド| ||<死去>ウァルダナ朝君主「ハルシャ・ウァルダナ」王国瓦解する
647年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネチア公「クリアルド1世」(~662年)
647年-01:00|チュニジア/トルコ| ||カルタゴが東ローマ帝国に反乱
647年2月10日-09:00|韓国| ||新羅・仁平14年|この年、新羅が瞻星台を築造
647年2月10日-09:00|日本| ||大化3年|有位の人の出仕の礼法を定めた
647年2月10日-09:00|日本|新潟県新潟市|大化3年|越後国に淳足柵造営
647年2月17日-09:00|韓国| ||新羅・仁平14年1月8日|<死去>新羅王「善徳女王」上大等の毘曇らの反乱で陣中に没
647年2月17日-09:00|韓国| ||新羅・仁平14年1月8日|<即位>新羅王「真徳女王」(~654. 3死去)
647年2月18日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞観21年1月9日|回乞部を瀚海府、僕骨を金微府、多監葛を燕然府、抜野古を幽陵府、同羅を亀林賦、思結を盧山府、渾を皋蘭州、解薛を高闕州、奚結を鷄鹿州、阿跌を鷄田州、契必を榆溪州、思結別部を々林州、白習をシ顔州とした
647年2月24日-09:00|日本/朝鮮/韓国| ||大化3年;高句麗・宝蔵王6年;新羅・仁平14年1月15日|高句麗・新羅使来朝して調賦を貢する
647年2月26日-09:00|韓国| ||新羅・仁平14年1月17日|新羅で乱を鎮圧して毘曇ら20余名を誅殺
647年3月20日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞観21年2月9日|鉄勤諸部が唐に降服、唐は燕然都護府(のちに安北都護府)を置きモンゴリアを支配

0700迄 (2145件)

- 647年4月10日-09:00|日本| ||大化3年3月|七色十三階の冠位を制定
647年4月11日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・貞觀21年3月2日|唐がみたび高句麗を攻撃(第3次高句麗遠征)
647年6月4日-09:00|日本| ||大化3年4月26日|公地公民とする
647年7月2日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・貞觀21年5月25日|李世勣が南蘇・木底城を落とした
647年8月6日-09:00|韓国| ||新羅・太和1年7月|新羅・第28代真徳女王が太和(-650年)と改元
647年8月16日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞觀21年7月11日|牛進達が高句麗の石城・積利城を陥落する
647年10月4日-08:00|中国| ||唐・貞觀21年9月|西域クチャ王伐暈が卒し、弟の訶黎布失畢が立った
647年11月3日-09:00|韓国| ||新羅・太和1年;百濟・義慈王7年10月|百濟、將軍の義直に命じて新羅の3城を攻めさせる。新羅の將軍金1信、これを破る/この時、1信の部下丕寧子とその子、拳真が戦死
647年11月29日-08:00|中国| ||唐・貞觀21年10月27日|奴刺の噉匄俟友が、その部落万余人を率いて帰順
647年12月2日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞觀21年11月|突厥の車鼻可汗が使者を派遣して入貢
648年-02:00|キプロス/サウジアラビア/シリア/アラブ| ||キプロスはアラブのかつによって占領された(シリア州属州となる)
648年-01:00|ベルギー| ||<設立>マルメイトのベネディクト会修道院
648年 00:00|イギリス| ||<復位>ケウセ王「チンワル・Cynegilses sunu」(2期目~674年死去)
648年1月26日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・貞觀21年12月26日|左驍衛大將軍の契?何力が崑丘道行軍大總管となり、三總管の兵を率いて龜茲を討伐
648年1月30日-09:00|日本|新潟県村上市|大化4年|越後国に磐舟柵造營
648年1月30日-08:00|中国/朝鮮| ||高句麗・宝蔵王7年1月1日|高句麗、使臣を唐に遣わして朝貢
648年2月23日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・貞觀22年1月25日|左武衛大將軍の薛万徹が青丘道行軍大總管となり、高麗を討伐
648年3月29日-09:00|韓国| ||新羅・太和2年;百濟・義慈王8年3月|腰車城など10余城が陥落させられたが金?信の活躍で撃退
648年3月29日-09:00|韓国| ||百濟・義慈王8年3月|百濟の將軍義直、新羅の腰車城など10城を取る
648年4月6日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年3月9日|瀚海都督俱羅勃部を二つに分け、燭龍州を設置
648年4月28日-09:00|韓国| ||百濟・義慈王8年4月|百濟兵、玉門谷へ進軍/新羅の將軍金1信、これを迎え、破る
648年4月28日-09:00|日本| ||大化4年4月1日|古い冠を廃した/左右大臣はなお古い冠をかぶった
648年5月4日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年4月7日|松州蛮が叛き、右武侯將軍梁建方がこれを破った
648年5月11日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞觀22年4月14日|烏胡の鎮將古神感が兵を率いて海路から高麗を攻撃/高麗の歩騎五千と易山にて遭遇し破る/その夜、高麗兵万余人が神感の船を襲撃したがこれも撃破
648年5月22日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞觀22年4月25日|賀魯はその余衆数千帳を率いて、唐へ帰順
648年7月22日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・貞觀22年6月27日|薛万徹が高麗と泊灼城で戦い、これを破った
648年8月24日-09:00|韓国| ||新羅・太和3年;百濟・義慈王9年8月|新羅軍に道薩城付近で大敗
648年8月24日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年8月1日|朔、日食があった
648年9月15日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年8月23日|執失思力が薛延陀の余部を金山で討伐
648年9月24日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年9月2日|崑丘道行軍大總管阿史那社爾が處月、處密を撃ち破った/多褐城でクチャ王訶利布失畢が拒戦、クチャ軍は大敗/布失畢は都城へ逃げ込んだが、阿史那社爾がその城を抜く/布失畢は西へ逃げた
648年10月16日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年9月24日|眉・?・雅三州のリョウがそむき、茂州都督の張士貴がこれを討った
648年11月12日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年10月22日|阿史那社爾が龜茲と戦い、これを破った
648年12月13日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年11月23日|契丹の地に唐によって松漠都督府が置かれる/窟哥、使持節十州諸軍事・左領軍將軍・松漠都督を拜し、無極県男に封じられ、唐・国姓李氏を賜われる
649年-02:00|キプロス/シリア/アラブ| ||シリア総督ムアウィヤがキプロスを占領
649年 00:00|イギリス| ||<死去>タルリア王「Ferchar mac Connaidh」
649年 00:00|イギリス| ||<即位>タルリア王「Dunchad mac Conain」(~654年死去)
649年1月19日-08:00|中国| ||唐・貞觀22年間12月1日|社爾は撥換城を抜き布失畢と羯獵顛を捕らえられ、孝恪は戦死/旬余日後、那利は北クチャの兵を率いて再び国都へ攻め寄せたが継叔が迎撃して大いに破る/阿史那社爾はクチャ王の弟の葉護を王に立てた
649年1月20日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<即位>西ゴート王国国王「レクスイント」(~6720901死去)
649年2月17日-09:00|日本| ||大化5年|このころ、道奥国を常陸国から分離して置く
649年2月17日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年|<死去>吐蕃ツェンポ「ツツェン・ガンポ」(松贊干布)
649年2月17日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年|<即位>吐蕃ツェンポ「マンツン・マンツェン」(芒松芒贊) (~677年死去)
649年2月17日-09:00|韓国| ||新羅・太和3年1月|新羅が唐・衣冠制採用
649年2月17日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年1月|上は、右驍衛郎將高侃へ回乞、僕骨等の兵を徵発させて、これを攻撃させ、諸部落が相継いで降伏/抜悉密の吐屯肥羅察が降伏したので、その地へ新黎州を設置
649年2月22日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年1月6日|阿史那社爾が龜茲王を捕らえて献上
649年3月19日-09:00|日本| ||大化5年2月|冠位十九階制定
649年3月19日-09:00|日本| ||大化5年2月|高向玄理と釈僧旻に命じて、八省百官を置いた
649年3月29日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年2月11日|瑶池都督府を設置し、安西都護へ隷属させた
649年4月28日-08:00|中国| ||唐・貞觀23年3月12日|豊州都督府を設置
649年5月10日-09:00|日本| ||大化5年3月24日|蘇我日向が皇太子に蘇我石川麻呂を讒言/天皇が軍兵を起こしたため、石川麻呂は逃げた

0700迄 (2145件)

- 649年5月11日-09:00|日本|奈良県桜井市|大化5年3月25日|謀叛の疑いをかけられた右大臣蘇我石川麻呂が、中大兄皇子(天智天皇)に攻められ難波から大和へ脱出、氏寺である山田寺で自害
- 649年5月14日-01:00|バチカン| ||<死去>第73代ローマ教皇「グレゴリウス1世」
- 649年6月15日-09:00|日本/韓国| ||大化5年;新羅・太和3年5月1日|小華下三輪色夫・大山上掃部角麻呂らを新羅に派遣
- 649年7月5日-01:00|バチカン| ||<就任>第74代ローマ教皇「マルティヌス1世」(~06550916死去)
- 649年7月10日-08:00|中国| ||唐・貞観23年5月26日|<死去>唐第2代皇帝「太宗李世民」
- 649年7月15日-08:00|中国| ||唐・貞観23年6月1日|<即位>唐第3代皇帝「高宗李治」(~弘道元年12月4日(683年12月27日)死去)
- 649年9月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・太和3年;百済・義慈王9年8月|百済将軍殷相、新羅の石吐など7城を取る/新羅、金吾信らを派遣し、道薩城にて百済を破る
- 649年9月12日-08:00|中国| ||唐・貞観23年8月|癸酉、夜、地震が起こった/晋州が最も激しく、五千余人が死んだ
- 649年11月10日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞観23年10月|突厥の諸部を州とする/新設された舍利等五州を雲中郡督府に隷属させ、蘇農等六州を定襄郡督府へ隷属させた
- 650年-05:30|インド| ||<即位>チャールジャ朝国王代理「Vijaya-Bhattarika」(~655年)
- 650年-04:00|ジョージア| ||<就任>イバリア公「アタルセ2世」(~684年)
- 650年-04:00|ロシア| ||トルコ系のハザール・ハン国が黒海・カスピ海北部に成立
- 650年-03:30|イラン/イラク| ||サトウキビがメソポタミアへ伝搬
- 650年 00:00|イギリス| ||<即位>クワイクワ王「Cloten ap Nowy」
- 650年1月2日-08:00|中国| ||唐・貞観23年11月24日|左翊衛郎将の高?が突厥を討伐
- 650年2月7日-09:00|韓国| ||唐・永徽1年|新羅で唐・年号である永徽を用いることとなった
- 650年2月7日-08:00|中国| ||唐・永徽1年1月1日|唐・高宗李治が永徽(-655年)と改元
- 650年3月22日-09:00|日本| ||白雉1年2月15日|白雉に改元
- 650年5月6日-09:00|韓国/日本| ||新羅・永徽1年4月|新羅、貢調
- 650年7月4日-08:00|中国| ||唐・永徽1年6月|高侃が突厥を攻撃して阿息山へ至った/車鼻可汗は捕らえられその民は全て降伏
- 650年9月16日-08:00|中国| ||唐・永徽1年8月16日|高宗は布失畢をクチャ王に復位させる
- 650年10月4日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽1年9月4日|高侃が車鼻可汗を捕らえた/その余衆は鬱督軍山へ住ませ、狼山郡督府を設置して、これを統治させ突厥は全て唐の領土となった/单于、瀚海の二都護府を分置
- 651年-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ササン朝第44代シャーンシャー「ヤズデギルト3世」逃亡先ホラサンで暗殺される
- 651年-03:30|イラン/イラク| ||<即位>ササン朝シャーンシャー「ハローズ3世」(~679年唐に亡命ササン朝滅亡)
- 651年-03:30|イラン| ||<即位>パハント朝太守「Farrukhzad」(~665年死去)
- 651年-03:30|イラン/サウジアラビア| ||ホラサンとカスタンをアラブ・イスラム教が支配(イスラム教カフ制の一部)
- 651年-01:00|イタリア| ||<就任>フウウリ領主「アゴ」(~663年)
- 651年-01:00|ベルギー-| ||<設立>スタウ修道院
- 651年 00:00|イギリス| ||イーストアングリアをマリアが統治(~653年)
- 651年1月2日-08:00|中国| ||唐・永徽1年12月5日|エン州のリョウが辺境を寇し、梓州都督の謝万歳がここに死んだ
- 651年1月27日-09:00|韓国| ||新羅・真徳女王5年|新羅が執事部の設置と官制を整備し、中央集権化を図る
- 651年1月27日-09:00|日本|茨城県笠間市|白雉2年|笠間稲荷神社創建
- 651年1月27日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢羅1年|<即位>西突厥第13代可汗「沙鉢羅可汗(阿史那賀魯、イシュバラカ)」曳歩利設射匱特勤の子(~657年)
- 651年1月27日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢羅1年|<廢位>西突厥第12代可汗「乙毘射匱可汗」
- 651年1月27日-08:00|中国/サウジアラビア| ||唐・永徽2年|ウマイヤ朝から唐へ通商使節が派遣
- 651年2月16日-08:00|中国| ||唐・永徽2年1月21日|瑤池都督の阿史那賀魯が叛いた
- 651年2月26日-09:00|韓国/中国| ||白雉2年2月|新羅、波珍の金仁問を唐に遣わし朝貢
- 651年6月24日-09:00|韓国/日本| ||百済・義慈王11年;新羅・永徽2年6月|百済・新羅使が調を貢ぎ、物を献上
- 651年8月7日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽2年;西突厥・沙鉢羅1年7月16日|沙鉢羅可汗が庭州へ来寇し、金嶺城と蒲類県を攻め落とし、数千人を殺略
- 651年8月20日 00:00|イギリス| ||<死去>デワ王「Oswine Osrices sunu(反乱側)」殺害される
- 651年8月20日 00:00|イギリス| ||<即位>デワ王「Athelwald Oswaldes sunu」共同統治者(~655. 11死去)
- 651年9月8日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽2年8月18日|白水蛮が辺境を寇し、左領軍将軍の趙孝祖が郎州道行軍総管となってこれを討伐
- 651年10月30日-08:00|中国| ||唐・永徽2年閏9月11日|唐で、永徽律令格式が制定される
- 651年12月18日-09:00|韓国/中国| ||百済・義慈王11年11月|百済、使臣を唐に遣わし、朝貢
- 651年12月18日-08:00|中国| ||唐・永徽2年11月|この月、竇州・義州の蛮が辺境を寇し、桂州都督の劉伯英がこれを破った/趙孝祖が白水蛮と羅候山で戦い、これを破った
- 652年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Kassapa2世」Aggabodhi3世の兄弟(~661年)
- 652年-05:00|ササニヤン| ||裏コーカス諸国にアラブ(サレン)帝国支配確立する
- 652年-03:00|サウジアラビア| ||3代目カリフのウスマンによって「コーラン」が成立
- 652年-02:00|エジプト/スーダン| ||エジプトのイスラム勢力とメシアのマリア国が停戦協定
- 652年-01:00|イタリア| ||<死去>イタリア王・ランゴバルド王「ロトリ」
- 652年-01:00|イタリア| ||<死去>スペレート公「テオドラフ」

0700迄 (2145件)

- 652年-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ロトアルド」ローリの子(～653年、愛人の夫により僅か即位半年で暗殺される)
- 652年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽2年12月24日| 處月の朱邪孤注が招慰使の単道恵を殺し、突厥の沙鉢羅と結託
- 652年2月14日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|白雉2年12月30日|孝徳天皇:難波長柄豊碕宮に移る
- 652年2月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真徳女王6年|理方府(立法)を新設
- 652年2月15日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・永徽3年1月1日|朔、吐谷渾、新羅、高麗、百済が使者を派遣して唐へ入貢
- 652年2月19日-08:00|中国| ||唐・永徽3年1月5日|梁建方、契必何力等が牢山にて處月の朱邪孤注を大いに破り、孤注を生け捕った
- 652年5月14日-09:00|日本| ||白雉3年4月|戸籍をつくり50戸を里とする
- 652年5月14日-09:00|韓国/日本| ||新羅・永徽3年;百済・義慈王12年4月|新羅・百済、遣使して調を貢ぎ、物を献じる
- 652年5月16日-08:00|中国| ||唐・永徽3年4月3日|趙孝祖が白水蛮と戦い、これを破った
- 652年6月2日-09:00|日本| ||白雉3年4月20日|<白雉3年難波の大洪水>(～28日)9日間にわたって連日雨が降り、(洪水によって)宅屋は損壊し、(休の)田や苗は傷つけられた/人や牛馬の溺死多い
- 652年10月8日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|白雉3年9月|難波長柄豊碕宮完成
- 653年-07:00|ペトナム| |||<即位>チャンパ王「ウイランガアルマン1世」(～686年死去)
- 653年-04:00|ロシア/イラク| |||アラブ軍のハザール国第一回遠征(～654)。サセン軍、撃破される
- 653年-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「ロトアルド」愛人の夫により僅か即位半年で暗殺される
- 653年-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「アリベルト1世」テテリダの甥、ローリ暗殺後にパリエル人の支援でハガリア朝を復古(～661年)
- 653年-01:00|イタリヤ| |||<即位>スレート公「アット」(～663年死去)
- 653年-01:00|ナジエリア| |||この頃、ハサの初期国家形成
- 653年 00:00|イギリス| |||<死去>エックス王「シゲベルト1世(シゲベルト小王)」
- 653年 00:00|イギリス| |||<死去>ヒト外王「Talorcán mac Foith(Talorcán3世)」
- 653年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Anna Enan sunu」(2期目～同年)⇒「Aethelhere Enan sunu」(～0655115死去)、「Aethelwald Enan sunu」(～664年死去)
- 653年 00:00|イギリス| |||<即位>エックス王「シゲベルト2世(シゲベルト良王)」(～06600829死去)
- 653年 00:00|イギリス| |||<即位>ヒト外王「Talorcán mac Ainfrith(Talorgan1世)」(～657年死去)
- 653年 00:00|イギリス| |||<即位>マシア王「ヘンダ・Pendan sunu」共同統治(～06560417死去)
- 653年2月3日-09:00|日本|茨城県|白雉4年|朝廷が東国前線基地となる石城評を設置
- 653年2月3日-08:00|中国| ||西突厥・沙鉢羅3年|<死去>西突厥可汗「乙毘咄陸可汗(欲谷設、化ルトルカガソ)」
- 653年2月3日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽4年|眞珠葉護が沙鉢羅可汗と仲が悪くなり、五弩失畢と共に沙鉢羅を攻撃して、これを破る
- 653年3月6日-08:00|中国| ||唐・永徽4年2月2日|7馬都尉の房遺愛と薛万徹・柴令武・高陽公主および巴陵公主が反乱を計画し、処刑された
- 653年6月12日-09:00|日本/中国| ||白雉4年5月12日|第2回遣唐使を送った/一船の大使は吉士長丹、副使は吉士駒/別の船の大使は高田根麻呂、副使は掃守小麻呂
- 653年7月1日-09:00|韓国/日本| ||新羅・永徽4年;百済・義慈王13年6月|百済、新羅の使い、調を貢し、物を献じる
- 653年7月30日-09:00|日本|鹿児島県|白雉4年7月|遣唐使高田根麻呂ら乗船の船が薩摩の曲・竹島間で遭難、5人のみ助かる
- 653年8月29日-09:00|韓国/日本| ||百済・義慈王13年8月|百済王、倭国と通好する
- 653年9月17日-01:00|バチカン/トルコ| |||<廃位>第74代ローマ教皇「マルティヌス1世」コンスタンティノブルへ連行され追放(～06550916死去)
- 653年9月17日-08:00|中国| ||唐・永徽4年8月20日|馮翊に十八個の隕石があった
- 653年9月30日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<死去>西ゴート王国国王「キンダスaint」→レクサントの単独統治となる(～672年)
- 653年10月12日-08:00|中国| ||唐・永徽4年9月15日|夜、造反した章叔胤が衆を率いて桐廬を攻め陥した/造反した碩眞は睦州及び於潜を攻め落とした
- 653年11月25日-08:00|中国| ||唐・永徽4年10月30日|睦州の女子の陳碩眞がそむき、7州刺史の崔義玄がこれを討った
- 653年11月26日-09:00|韓国/中国| ||新羅・永徽4年11月|新羅、唐に使臣を遣わし、金総布を献上
- 653年11月27日-08:00|中国| ||唐・永徽4年11月2日|庚戌、義玄は房仁裕軍と合流し碩眞と叔胤を捕らえ斬った
- 654年-05:00|ウズベキスタン/イラク| |||アラブ軍、サグディアナ地方を略奪
- 654年-02:00|ギリシャ/サウジアラビア| |||アラブによるロドス占領(～654年)
- 654年-02:00|キプロス/サウジアラビア| |||キプロスはアラブ人(661年からウマイヤ朝)が占領される(～680年)
- 654年-01:00|スペイン| |||西ゴート王国ハレ法典が発布され、同時に属人法の廃止、すなわち人種によって法令の使い分けがなされなくなった
- 654年 00:00|イギリス| |||<死去>ダリア王「Dunchad mac Conaing」
- 654年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Aethelhere」Annaの兄弟(～6551115死去)、「Aethelwold」Annaの兄弟(～664年死去)

0700迄 (2145件)

- 654年 00:00|イギリス| |||<即位>グウェント王「Anthres ap Morcant」(~663年)
654年 00:00|イギリス| |||<即位>ダールリア王「Conall mac Echdhaigh」(~660年死去)
654年 00:00|イギリス| |||<即位>ノザンブリア王「Oswiu」(~06700215)
654年1月24日-09:00|日本|埼玉県飯能市|白雉5年|高山不動尊(高貴山常楽院)開山
654年2月22日-09:00|日本/中国| ||白雉5年2月|遣唐使を送った/押使は高向玄理、大使に河辺麻呂、副使に薬師惠日
654年3月24日-09:00|韓国| ||新羅・永徽5年3月|<死去>新羅王「真徳女王」
654年3月24日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王1年3月|<即位>新羅王「武烈王」真骨の金春秋が推戴されて(~661. 6陣中で病死)
654年5月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・武烈王1年5月|理法府格60余条を制定
654年8月10日-01:00|パキスタン| |||<就任>第75代ローマ教皇「エウゲニウス1世」(~06570602死去)
654年9月10日-09:00|日本/韓国| ||白雉5年7月24日|第2回遣唐大使吉士長丹ら百済・新羅・送使とともに筑紫に帰着
654年11月15日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・永徽5年;高句麗・宝蔵王13年10月|高麗がその将安固へ高麗、靺鞨の兵を率いて契丹を攻撃させた/松漠都督李窟哥が防ぎ、新城にて高麗軍を大いに敗った
654年11月24日-09:00|日本| ||白雉5年10月10日|<死去>第36代孝徳天皇/59歳(誕生(推古)4(596))これ以降元号の使用を中断
655年-05:30|インド| |||<即位>チャルキア朝国王「ウイクラマデーヤ1世」(~680年)
655年-04:00|ロシア/トルコ| |||クリミアの1部、ハザール軍に占領される
655年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパン朝君主「Paduspan1世」(~694年)
655年-03:00|サウジアラビア/トルコ| |||東ローマ帝国が小アジア南岸のリュキア沖の海戦でイスラム帝国に敗れる
655年-01:00|フランス| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)ネストリア・ブルグンディア王クワイス2世→<即位>クロタール3世(~673年春)
655年 00:00|イギリス| |||<死去>グワイネド王「Cadafael Cadomedd ap Cynfeddw」
655年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス王「Manwgan ap Selyf」
655年 00:00|イギリス| |||<即位>グワイネド王「Cadwaladr Fendigaid ap Cadwallon」(~682年死去)
655年 00:00|イギリス| |||<即位>ホイス王「Beli ab Eiludd」(~656年死去)
655年2月12日-09:00|日本| ||齊明1年|蝦夷と隼人が衆を率いて内属し、朝献
655年2月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・宝蔵王14年;百済・義慈王15年;新羅・武烈王2年1月|高句麗と百済、靺鞨が連合して新羅・北境を侵略し、三十三城を取った
655年2月14日-09:00|日本| ||齊明1年1月3日|<再位>第37代「齊明天皇」(皇極天皇)板蓋宮で(~06610724)
655年2月14日-09:00|日本| ||齊明1年1月3日|<就任>摂政:葛城皇子(~齊明天皇7年7月24日)齊明天皇の皇太子
655年4月6日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・永徽6年2月25日|營州都督の程名振と左衛中郎将の蘇定方が高麗を討った
655年6月22日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・永徽6年5月13日|營州都督程名振、左衛中郎将蘇定方が遼水で高麗軍を破り千余人を殺獲
655年6月23日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永徽6年5月14日|右屯衛大將軍程知節を葱山道行軍大総管として、沙鉢羅可汗を討伐させた
655年9月6日-09:00|日本| ||齊明1年8月1日|第3回遣唐大使河辺臣麻呂唐より帰る
655年9月16日-01:00|パキスタン| |||74代ローマ教皇聖マルティヌス1世死去
655年10月6日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王2年9月|新羅の金尤信、百済の刀比川城を攻め、これを破る
655年11月 00:00|イギリス| |||<死去>アゼル王「Athelwald Oswaldes sunu」
655年11月 00:00|イギリス| |||<即位>ノザンブリア王「Osweo Athelfrithes sunu」(~06700215死去)、「Ealhfrith Osweowes sunu」(~664年死去)
655年11月 00:00|イギリス| |||パニアとデイルの統一(ノザンブリア王国)
655年11月15日 00:00|イギリス| |||<死去>アゼル王「Athelhere Enan sunu」
655年11月15日 00:00|イギリス| |||<死去>マーシア王「ヘンタ・Pybban sunu」戦死
656年-03:00|イラク| |||アラーが第四代カリフ(在位~661)となる
656年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス王「Beli ab Eiludd」
656年 00:00|イギリス| |||<即位>マーシア王「オスワ」(~658年)
656年 00:00|イギリス| |||ホイスをマーシアが占領(~717年)
656年1月2日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|齊明1年12月|飛鳥板蓋宮が火災にあったため、飛鳥川原宮に遷った
656年2月1日-09:00|日本| ||齊明2年|飛鳥の岡本に宮を造りそこに遷って後飛鳥岡本宮と名付けた
656年2月1日-09:00|日本|京都府京都市東山区|齊明2年|八坂郷に牛頭天王が祀られ祇園社(八坂神社)創建
656年2月1日-01:00|ベルギー-フランス/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)オーストリア王「ジギベルト3世」
656年2月1日-01:00|ベルギー-フランス/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)オーストリア王「ヒルベルト」(~661年)
656年2月7日-08:00|中国| ||唐・顯慶1年1月7日|唐・高宗李治が顯慶(-661年)と改元
656年4月 00:00|イギリス| |||マーシアはノザンブリアに占領される(~658年)
656年4月17日 00:00|イギリス| |||<死去>マーシア王「ヘンタ・Pendan sunu」

0700迄 (2145件)

- 656年6月17日-03:00|サウジアラビア |||<死去>イスラム教第3代正統カリフ「ウスマン」メイケの自宅で刺殺される/82歳(誕生574年)
- 656年6月20日-03:00|サウジアラビア |||<就任>イスラム教第4代正統カリフ「アリー」(~06610127死去)
- 656年7月27日-09:00|韓国/中国 ||新羅・武烈王3年7月|新羅、文王を唐に派遣し、朝貢
- 656年9月2日-09:00|朝鮮/日本 ||高句麗・宝蔵王15年8月8日|高麗国より使者来朝(大使:達沙以下81名)
- 656年9月3日-08:00|中国/モンゴル ||唐・顯慶1年8月9日|程知節が榆慕谷にて西突厥の沙鉢羅可汗の部の歌邏祿・處月と戦いこれを破った/副総管周智度が咽城にて突騎施、處木昆等を攻めて、これを抜き、三万の首級を挙げる
- 656年9月24日-09:00|日本/朝鮮 ||齊明2年;高句麗・榮留王39年9月|遣高麗大使膳臣葉積ら出発
- 656年10月15日-08:00|中国/モンゴル ||唐・顯慶1年9月22日|程知節が西突厥の沙鉢羅可汗と怛篤城で戦い、これを破った
- 656年12月-03:00|イラク |||ウカダの戦い、アリーがア-イヤらのハス軍を破る
- 656年12月22日-09:00|朝鮮/中国 ||齊明2年;高句麗・榮留王39年9月;高句麗・宝蔵王15年12月|高句麗、唐に使臣を遣わし、皇太子の冊立を祝賀する
- 656年12月22日-08:00|中国 ||唐・顯慶1年12月|程知節は鷹婆川で西突厥を攻撃、西突厥は大敗
- 657年-07:00|カンボジア |||<即位>チェンラ王「ジヤウアルマン1世」(~681年)
- 657年 00:00|イギリス |||<死去>ピクト王「Talorcan mac Ainfrith(Talorgan1世)」
- 657年 00:00|イギリス |||<即位>ピクト王「Gartnaidh mac Domhnaill(Gartnait4世)」(~663年死去)
- 657年3月11日-08:00|中国/モンゴル ||唐・顯慶2年閏1月21日|蘇定方は、金山の北にて、まず處木昆部を撃ち、大いにこれを破る/定方は唐兵と回乞万余人を率いて沙鉢羅を攻撃/沙鉢羅は大敗
- 657年6月2日-01:00|パキスタン |||<死去>第75代ローマ教皇「イウゲノス1世」
- 657年7月26日-03:00|イラク/シリア・アラブ ||旧暦6/11|第4代カリフのアリーが、シリア総督ムアウィヤとシッフィーンで戦う
- 657年7月30日-01:00|パキスタン |||<就任>第76代ローマ教皇「ウイタリウス」(~06720127死去)
- 657年9月22日-08:00|中国/モンゴル ||唐・顯慶2年8月9日|西突厥の土地を二分して濠池と崑陵の二都護府を設置
- 658年-02:00|エジプト |||<就任>ウマイヤ朝エジプト初代アミール:アミル・ヒベン・アルアス(~664死去)
- 658年-01:00|スロバキア |||サモ王国崩壊
- 658年 00:00|イギリス |||<死去>ストラスカイト王「Guret」
- 658年 00:00|アイルランド |||<即位>アイルランド 上王「ダーマット・マック・アイト・スレイン」(~665年)、「フラスマック・マック・アイト・スレイン」(~665年)
- 658年 00:00|イギリス |||<即位>ストラスカイト王「Alpin」(~693年死去)
- 658年 00:00|イギリス |||<即位>マシア王「ウルハレ・Pendan sunu」(~675年死去)
- 658年 00:00|イギリス |||マシアがノーザンブリタの属国として復元(~679年)
- 658年1月12日-08:00|中国 ||唐・顯慶2年12月3日|<廃位>西突厥第13代可汗「沙鉢羅可汗(阿史那賀魯、イシュバラカフン)」蘇定方に金山牙で破れ捕らえられた/西突厥、滅亡
- 658年2月8日-09:00|日本|新潟県|齊明4年|越後国に都岐沙羅柵造営
- 658年3月4日-08:00|中国 ||唐・顯慶3年1月25日|布失畢の子息素稽を立ててクハ王とし、総督を兼任させた
- 658年3月4日-08:00|中国 ||唐・顯慶3年1月25日|楊冑が龜茲の羯獵顛と泥師城で戦い、これを破った
- 658年5月8日-09:00|日本 ||齊明4年4月|阿倍比羅夫が蝦夷に遠征/降伏した蝦夷の恩荷を淳代、津軽二郡の郡領に定めた
- 658年6月6日-09:00|日本 ||齊明4年5月|<死去>建皇子(8歳)天智天皇の皇子
- 658年7月6日-09:00|朝鮮/中国 ||唐・顯慶3年;高句麗・宝蔵王17年6月1日|營州都督兼東夷都護程名振、右領軍忠郎将薛仁貴が高麗の赤烽鎮を攻撃し抜く/高麗の大將豆方婁を派遣し拒戦、名振は契丹を以て迎撃し大いに破る
- 658年12月10日-09:00|日本|愛知県|齊明4年11月10日|有馬皇子の変に連座して、坂合部葉が尾張国に流された
- 658年12月11日-09:00|日本|和歌山県海南市|齊明4年11月11日|<死去>有間皇子(19歳)孝徳天皇の皇子、謀反を企てたとして紀伊・藤白坂で絞首刑/有間皇子の舎人の塩屋小戈(不明)、新田部米麻呂(不明)も斬首刑
- 659年3月29日-09:00|日本 ||齊明5年3月|阿倍比羅夫が蝦夷を討つ
- 659年4月2日-08:00|中国 ||唐・顯慶4年3月5日|西突厥の興昔亡可汗が真珠葉護(顔必達度設)と雙河にて戦い、真珠葉護を斬った
- 659年4月27日-09:00|韓国 ||百濟・義慈王19年4月|百濟、新羅の独山・桐岑の2城を攻める
- 659年7月27日-09:00|日本 ||齊明5年7月3日|坂合部石布、津守吉祥を第4回遣唐使として派遣
- 659年12月19日-08:00|中国/朝鮮 ||唐・顯慶4年;高句麗・宝蔵王18年11月|高句麗、唐の薛仁貴と横山で戦い、敗れる
- 660年-03:30|イラン |||<死去>ダブイ朝「Gil Gavbara」
- 660年-03:30|イラン |||<即位>ダブイ朝「Dabuya」(~712年死去)
- 660年-02:00|ブルガリア |||アスパル汗、部民を引き連れトナクに移動する(ブルガール族)
- 660年-01:00|フランス |||<即位>アキテーヌ公「フェリックス」(~670年)
- 660年 00:00|イギリス |||<死去>ダリア王「Conall mac Echdhaigh」
- 660年 00:00|イギリス |||<即位>ダリア王「Domangart mac Domhnaill brecc」(~673年死去)
- 660年1月8日-08:00|中国 ||唐・顯慶4年11月21日|阿史那賀魯の部の悉結闕俟斤都曼が辺境を寇したので、左驍衛大將軍の蘇定方が安撫大使となり、これを討伐
- 660年1月18日-08:00|中国/朝鮮 ||唐・顯慶4年;高句麗・宝蔵王18年12月|右領軍中郎将節仁貴等が横山にて高

0700迄 (2145件)

麗の將軍温沙門と戦い破った

660年4月16日-09:00|日本| ||齊明6年3月|阿倍比羅夫比羅夫は渡島の蝦夷に助けを求められ肅慎を幣賄弁島まで追って彼らと戦い、破った

660年4月25日-08:00|中国/韓国| ||唐・顯慶5年;百濟・義慈王20年3月10日|唐と新羅・連合軍が水陸13万の兵で百濟を攻撃開始

660年6月14日-09:00|日本| ||齊明6年5月|中大兄皇子が漏刻(水時計)をつくる

660年7月11日-08:00|中国| ||唐・顯慶5年5月28日|定襄都督阿史那德樞賓、左武侯將軍延陀梯眞、居延州都督李合珠に叛奚を討伐させ、奚は降伏/樞賓等を沙磧道行軍總管とし、契丹を討伐、契丹の松漠都督阿ト固を捕らえて東都へ送る

660年7月13日-09:00|韓国/中国| ||百濟・義慈王20年6月1日|百濟義慈王は熊津城に逃亡、太子隆が降伏

660年7月13日-08:00|中国| ||唐・顯慶5年6月1日|朔、日食があった

660年8月29日 00:00|イギリス| ||<死去>エッセクス王「シグバルト2世(シグバルト良王)」

660年8月29日 00:00|イギリス| ||<即位>エッセクス王「Swithhelm Seaxbaldes sunu」(~664年死去)

660年8月29日-09:00|韓国/中国| ||百濟・義慈王20年7月18日|唐・新羅軍が百濟の王城に迫り、百濟の義慈王、太子以下を率いて城を出て唐軍に降伏、百濟滅亡

660年9月23日-08:00|中国| ||唐・顯慶5年8月14日|左武衛大將軍の鄭仁泰が悉結・拔也固・僕骨・同羅と戦い、これを破った

660年10月5日-09:00|韓国| ||百濟殘党が新羅軍から任存(現在の忠南礼山郡大興面)を防衛

660年11月1日-09:00|韓国/中国| ||唐・顯慶5年9月23日|高宗、百濟に五都督府を設置

660年11月1日-09:00|韓国/中国| ||唐・顯慶5年9月23日|百濟の殘兵、泗水城で反乱/これに呼応し、叛いたものは20余城に達する

660年11月25日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王7年;百濟・義慈王20年10月18日|新羅軍金法敏らの軍が尔礼城を陥落させて残りの20余城の百濟殘党軍もすべて降伏し百濟旧地はいったん平定

660年12月7日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王7年10月30日|新羅軍が泗水の南の山の百濟駐屯軍を殲滅し、1500人を斬首

660年12月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・宝蔵王19年11月1日|高句麗、新羅の七重城を攻める/新羅の軍主、匹夫戦死する

660年12月8日-08:00|中国/韓国| ||唐・顯慶5年11月1日|百濟の義慈王、唐に到着後、数日で病死

660年12月14日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王7年11月7日|新羅王、王興寺岑城に攻め勝って700人を斬首

661年-07:00|タイ| ||タイでハラフンツェヤ王朝が創始

661年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Dappula 1世」Silimeghavannaの義理の息子(~664年)

661年-04:00|オマーン/シリア・アラブ| ||オマーンはウマイヤ朝の一部(~749年)

661年-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルト王(ハヴァリア朝)「アリバルト1世」

661年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)アウストラシア王ヒルデバルト→ネストリア・ブルグンディア王クタル3世が領土継承

661年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルト王「バルトリート」「ゴテバルト」アリバルト1世の子(~662年王位を巡る兄弟争いの末にゴテバルトは暗殺され、バルトリートも追放された)

661年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ナポリ公「ハシル」(~666年)

661年1月21日-08:00|中国| ||唐・顯慶5年12月16日|阿史德樞賓が奚・契丹と戦い、これを破った

661年1月21日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・顯慶5年12月16日|左驍衛大將軍の契苾何力がハイ江道行軍大總管となり、蘇定方が遼東道行軍大總管となり、左驍衛將軍の劉伯英が平壤道行軍大總管となり、高麗を討伐

661年1月27日-03:00|イラク/サウジアラビア| ||<死去>イスラム教第4代正統カリフ「アリー」ケファでハワリジュ派に殺される

661年2月5日-09:00|韓国| ||唐・龍朔1年|<即位>百濟王「扶余豊璋」(~6631013高句麗に逃亡)

661年2月26日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・顯慶6年1月22日|鴻臚卿の蕭嗣業が扶余道行軍總管となり、高麗を討伐

661年3月6日-09:00|韓国/中国| ||百濟の殘賊(鬼室福信・僧道ヲ)、反乱し、泗水城を攻め、倭国に質として滞っていた余豊璋を王となす/新羅王、救援のため、諸將を派遣/唐の高宗、劉仁軌を救將として派遣

661年4月5日-09:00|韓国/中国| ||唐・龍朔1年3月|百濟の鬼室福信ら、2つの柵を熊津江に立て、唐・新羅連合軍と戦うも、敗れる。このため、泗水城の包囲を解き、任存城に退いて守備を固める

661年4月5日-08:00|中国| ||唐・龍朔1年3月1日|唐・高宗李治が龍朔(-663年)と改元

661年4月9日-09:00|韓国/中国| ||唐・龍朔1年3月5日|泗水城救援の將軍品日、麾下の軍を先発させ、豆良尹(伊城の南で當地を調べさせる。百濟人これを攻め、破る

661年4月16日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王8年3月12日|新羅軍、豆良尹城を攻めるも、1ヶ月6日経っても勝てず

661年5月19日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・龍朔1年;高句麗・宝蔵王20年4月16日|任雅相、契苾何力、蘇定方、蕭嗣業、程名振、杻孝泰が高麗を討伐

661年5月22日-09:00|韓国| ||新羅・武烈王8年4月19日|新羅軍、食糧が尽きたため、百濟より引き返す。還る途中、下州軍は寶骨壤で百濟軍と遭遇し敗退/上州軍は角山において百濟軍と遭遇し、これを破る

661年6月2日-08:00|中国| ||唐・龍朔1年4月30日|晦、日食があった

661年6月3日-09:00|日本/韓国| ||齊明7年5月|耽羅が王子の阿波伎らを派遣して日本に対して初めて朝貢

661年6月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||高句麗・宝蔵王20年5月9日|高句麗・靺鞨連合軍、新羅の述川城、次いで北漢山城を攻めるも勝てず

661年6月11日-09:00|日本|福岡県朝倉市|齊明7年5月9日|朝倉橘広庭宮に遷った

661年7月2日-09:00|韓国| ||新羅・文武王1年6月|<死去>新羅王「武烈王」陣中で病死

0700迄 (2145件)

- 661年7月2日-09:00|韓国| ||新羅・文武王1年6月|<即位>新羅王「文武王」(~6810701死去)
- 661年8月9日-09:00|韓国| ||新羅・文武王1年7月9日|新羅の將軍金₁信、黄山の原に至り、百濟軍を破る/新羅將軍官昌・百濟の將軍階伯ら、戦死/蘇定方は金仁問と共に伎伐浦にて百濟軍を大破
- 661年8月24日-09:00|日本| ||齊明7年7月24日|<死去>第37代「齊明天皇」(第35代皇極天皇)が朝倉宮で/68歳(誕生(推古)2(594))
- 661年8月24日-09:00|日本| ||齊明7年7月24日|<称制>第38代「天智天皇」(中大兄皇子)(⇒天智7年1月3日即位)
- 661年8月31日-09:00|韓国/日本| ||齊明7年8月|百濟に救援として、前將軍として大華下阿曇比羅夫・小華下河辺百枝ら、後將軍に大華下阿倍比羅夫・大山上物部熊・大山上守大石らを任命して派遣。また武器・食料なども送る
- 661年9月-02:00|シリア・アラブ| ||<就任>ウマイヤ朝カリフ「ムアウィヤ(1世)」シリア總督(~06800418死去)
- 661年9月10日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・龍朔1年8月11日|唐の將軍蘇定方、高句麗軍をハ江で破り、馬邑山を奪って平壤城を包圍
- 661年9月29日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・龍朔1年9月|蓋蘇文の子男生、唐の將軍契₁何力軍に潰走/唐軍、撤退の詔により、還る
- 661年10月25日-09:00|朝鮮/韓国| ||新羅・文武王1年9月27日|新羅王、金仁問・金₁信らを率いて高句麗討伐のために進軍するも、百濟の殘賊が路を塞ぎ、前進できなかったがこれを破り降伏させる
- 661年11月8日-08:00|中国| ||唐・龍朔1年10月11日|鄭仁泰、蕭嗣業、左驍衛大將軍の阿史那忠が鉄勒を討伐
- 662年-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド₁王「ゴ₁テ₁ベルト」王位を巡る兄弟争いの末に暗殺される
- 662年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド₁王「ケ₁リ₁アルト」諸公爵の一人、南部イタリヤを支配する「ベ₁ネ₁ント公国」を率いてベル₁タ₁ルトとゴ₁テ₁ベルトの内乱に介入、最終的に王位を篡奪(~671年死去)
- 662年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベ₁ネ₁ント公「ロ₁ム₁アルト₁」1世(~687年)
- 662年-01:00|イタリヤ| ||<追放>イタリヤ王・ランゴバルド₁王「ベル₁タ₁ルト」
- 662年-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルゼンブルグ/オランダ| |||フランク王国(メ₁ロ₁ウ₁イ₁ク朝)ク₁オ₁タル₁3世がオーストラリアを分割→<即位>オーストラリア王「リ₁カ₁2世」[フランク王ク₁オ₁タル₁3世の弟](~675年)
- 662年1月25日-08:00|中国| ||唐・龍朔2年|この年、右衛門將軍の蘇海政が龜茲を討伐
- 662年1月25日-09:00|日本| ||天智1年1月1日|朝廷が「(天智)」と改元
- 662年2月24日-09:00|韓国| ||新羅・文武王2年2月|耽羅が新羅・文武王に降し以後は新羅・属国となった
- 662年3月13日-09:00|朝鮮/中国| ||高句麗・宝蔵王21年;唐・龍朔2年2月18日|左驍衛將軍白州刺史沃沮道総管龍孝泰が蛇水の上で高麗と戦い、敗北
- 662年3月25日-08:00|中国/日本/韓国/朝鮮| ||天智1年;唐・龍朔2年;高句麗・宝蔵王21年3月|唐・新羅、高麗を討つ/軍將を派遣しこれを防がせる
- 662年3月25日-08:00|中国| ||唐・龍朔2年3月1日|鄭仁泰が鉄勒と天山で戦い、これを破り平定
- 662年5月23日-09:00|日本/韓国| ||天智1年;百濟・豊璋1年5月|倭が朝鮮出兵の本隊を派遣し、豊璋帰国、豊璋は百濟王に推戴された
- 662年7月19日-09:00|日本/韓国| ||天智1年;百濟・豊璋1年6月28日|百濟、達率万智らを遣わし、調を進め物を献じる
- 662年8月19日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・龍朔2年;百濟・豊璋1年7月30日|熊津都督劉仁願、帶方州刺史劉仁軌が熊津にて百濟を大破し眞見城を抜く
- 663年-05:30|インド/中国| |||ラ₁グ₁ク国はチ₁ベ₁ットの一部分(~842年頃)
- 663年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ス₁レ₁ト公「ア₁ット」
- 663年-01:00|イタリヤ| ||<就任>フリウ₁リ領主「ル₁ア₁ス」(~666年)
- 663年-01:00|ドイツ| ||<即位>ス₁レ₁ト公「ト₁ラ₁ス₁メント₁」1世(~703年)
- 663年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒ₁ク₁外王「Gartnaidh mac Domhnail」(Gartnait4世)
- 663年 00:00|イギリス| ||<即位>イ₁ス₁ト₁ア₁ク₁リア王「Ealdwulf」Annaの甥(~713年死去)
- 663年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒ₁ク₁外王「Drest mac Domhnail」(Drest6世)(~672年)
- 663年2月13日-08:00|中国| ||唐・龍朔3年1月|左武衛大將軍鄭仁泰が造反した鐵勒の余種を討ち悉く平定
- 663年3月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・文武王3年2月2日|新羅人が、百濟南部の4州を焼き討ちし、徳安(ト₁ク₁ア₁)等の要地を奪取したが、避城と接近していたため、州柔に退去
- 663年4月13日-09:00|韓国/日本| ||天智2年;新羅・文武王3年3月|上毛野稚子ら兵2万7千を率いて新羅を討つ
- 663年7月10日-08:00|中国| ||唐・龍朔3年5月30日|柳州蛮が叛き、冀州都督長史の劉伯英が嶺南の兵をもってこれを討伐
- 663年7月11日-09:00|韓国/日本| ||天智2年;新羅・文武王3年6月|上毛野稚子、新羅の沙鼻・岐奴江の2城を奪取
- 663年7月11日-08:00|中国| ||唐・龍朔3年6月|吐蕃は兵を發して吐谷渾を撃ち、大いにこれを破る
- 663年9月29日-08:00|中国| ||唐・龍朔3年8月22日|彗星が左攝提に出現
- 663年10月5日-09:00|韓国/中国/日本/朝鮮| ||唐・龍朔3年;天智2年8月28日|百濟と日本水軍の連合軍が、唐・新羅・連合軍に白村江で大敗する(白村江の戦い)
- 663年10月13日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・龍朔3年9月7日|百濟州柔城唐に降る/百濟王「扶余豊璋」は高麗へ逃げ、百濟は悉く平定
- 663年11月26日-09:00|韓国/中国/朝鮮| ||唐・龍朔3年10月21日|新羅と唐、仁存城を攻めるも勝てず/11月4日、兵を返す
- 664年-05:30|スリランカ| ||<即位>ア₁ヌ₁ラ₁ダ₁プ₁ラ王国国王「Dathopa Tissa2世」Dathopa Tissa1世の甥(~673年)
- 664年-05:00|パキスタン/サウジアラビア| |||アラブ・イスラム軍がインドス川流域のム₁ル₁タ₁ンに侵攻

0700迄 (2145件)

- 664年-03:30|イラン| ||<即位>ハダスニト 朝君主「Khur-zad」(~723年)
664年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第2代アミール:ウタバ・イブン・アビ・サヤン(~665死去)
664年 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「Athelwald Enan sunu」
664年 00:00|イギリス| ||<死去>エッセクス王「Swithhelm Seaxbaldes sunu」
664年 00:00|イギリス| ||<死去>ノーザンブリア王「Ealhfrith Osweowes sunu」
664年 00:00|イギリス| ||<即位>イーストアングリア王「Ealdwulf Athelrices sunu」(~713年死去)
664年 00:00|イギリス| ||<即位>エッセクス王「Sigehere Sigebeorhtes sunu」(~683年死去)、「Saebbi Sigebeorhtes sunu」(~694年譲位)
664年 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリア王「Ecgfrith Osweowes sunu」共同統治者(~06700215)
664年1月26日-08:00|中国/日本/韓国/朝鮮| ||唐・龍朔3年12月23日|安西都護の高賢が行軍総管となり、弓月を討伐
664年2月2日-09:00|日本| ||天智3年|対馬, 豊岐, 筑紫に防人狼煙を置き, 太宰府防衛のための水城を築く
664年2月2日-08:00|中国| ||唐・麟徳1年1月1日|唐・高宗李治が麟徳(-665年)と改元
664年3月7日-08:00|中国| ||唐・麟徳1年2月5日|<死去>玄奘/63歳(誕生:0602) 西遊記の三蔵法師の行で中国に膨大な仏典をもたらした
664年3月11日-09:00|日本| ||天智3年2月9日|26階の新しい冠位を制定(甲子の改革令)
664年4月2日-09:00|日本| ||天智3年3月|京北に星隕あり
664年4月2日-09:00|韓国/中国| ||唐・麟徳1年3月|百済の残兵、泗水山城に拠って叛乱. 熊津都督、兵を発しこれを破る
664年6月29日-09:00|日本| ||天智3年6月|<死去>糠手姫皇女(不明)敏達天皇の皇女、押坂彦人大兄皇子の妃
664年7月14日 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Eorcenberht Eadbaldes sunu」
664年7月14日 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Ecgerht Eorcenberhtes sunu(Ecgerht1世)」(~06730704死去)、摂政「Seaxburh」(~699年死去)
664年7月29日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・麟徳1年7月|新羅、(熊津)府城の兵とともに高句麗の突沙城を攻略
664年10月25日-08:00|中国/日本| ||天智3年10月1日|中臣鎌足、沙門智祥物を遣わし郭務弼に賜物す
665年-03:30|イラン| ||<死去>ハバント 朝太守「Farrukhzad」
665年-03:30|イラン| ||<即位>ハバント 朝太守「Valash」(~673年殺される)
665年-02:00|ブルガリア| ||<死去>大ブルガリア・ハン「クワラト」
665年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第3代アミール:ウタバ・イブン・アミール(~667廃任)
665年-02:00|ブルガリア| ||<即位>大ブルガリア・ハン「ハトハヤン」(~668年)
665年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「セクナハ・マック・ブラスマイク」(~671年)
665年1月22日-08:00|中国| ||唐・麟徳2年|<即位>ホータン王「伏闡雄」(~690年)
665年1月22日-08:00|中国| ||唐・麟徳2年春|疏勒・弓月・吐蕃が干叻を攻め、西州都督の崔智弁と左武衛將軍の曹継叔がこれを救援
665年2月20日-09:00|日本|滋賀県|天智4年2月|百済・男女4百余人を近江国神前郡に置く
665年3月16日-09:00|日本| ||天智4年2月25日|<死去>間人皇女(不明)孝徳天皇の皇后. 齐明天皇陵に合葬
665年4月21日-08:00|中国| ||唐・麟徳2年閏3月2日|日食があった
665年6月18日-09:00|日本/中国| ||天智4年5月|坂合部連石積らを第5回遣唐使として派遣
665年6月19日-08:00|中国| ||唐・麟徳2年5月|皇極暦を増損して麟徳暦を選定施行
665年9月15日-09:00|日本/韓国| ||天智4年8月|耽羅が王子の始如らを日本に派遣して朝貢
665年11月3日-08:00|中国/日本| ||天智4年9月20日|唐使の劉徳高らが来日し、日中国交が回復
665年11月13日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・麟徳2年10月|高句麗に唐・新羅両軍が侵攻を開始
666年-01:00|イタリヤ| ||<就任>フウケリ領主「アルネリト」ルプスの子(~同年)⇒「ウエクター」(~678年)
666年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ネリ公「テオフィラタス1世」(~670年)
666年1月11日-08:00|中国/日本| ||天智4年12月|唐からの使いが帰国するにあたり、守君大石らが唐に遣わされた(第5次遣唐使)
666年2月10日-08:00|中国| ||吐谷渾・勒豆31年|<退位>吐谷渾第21代可汗「烏地也拔勒豆可汗(諾曷ハツ)」唐へ亡命
666年2月14日-08:00|中国| ||唐・乾封1年1月5日|唐・高宗李治が乾封(-668年3月)と改元
666年2月20日-09:00|朝鮮/日本| ||高句麗・宝蔵王25年1月11日|高句麗、前部能婁らを遣使して進調
666年7月2日-08:00|中国| ||唐・乾封1年5月25日|乾封泉寶錢を鑄造
666年10月4日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・乾封1年|高句麗・宝蔵王25年9月|龍同善が高麗軍を大いに破った
666年11月3日-09:00|日本| ||天智5年冬|百済・男女2千人を東國に置く
666年11月28日-09:00|朝鮮/日本| ||高句麗・宝蔵王25年10月26日|高句麗、大使乙相奄鄒・副使達相遁・二位玄武若光らを遣使して進調
667年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第4代アミール:マスタマ・イブン・マハラト・アルアンリ(~6820409死去)
667年1月17日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・乾封1年12月17日|唐が高句麗・内訌について高句麗遠征軍をおこす
667年1月18日-08:00|中国/朝鮮/韓国| ||唐・乾封1年12月18日|唐、李勣を遼東行軍大総管として高句麗征討軍を派遣/高句麗の淵浄土、12城の民を率いて新羅に投降
667年1月30日-08:00|中国| ||唐・乾封2年|この年、嶺南洞のリョウが瓊州を陥落させた
667年2月20日-08:00|中国| ||唐・乾封2年1月22日|乾封泉寶錢を廃止
667年3月1日-09:00|日本| ||天智6年2月|<死去>大田皇女(不明)天武天皇の妃、天智天皇の皇女

0700迄 (2145件)

667年4月17日-09:00|日本|滋賀県大津市|天智6年3月19日|中大兄皇子(後の天智天皇)が近江・大津京に遷都
667年7月27日-09:00|韓国/中国| ||新羅・文武王7年7月|新羅、唐に汁恒世を派遣し、朝貢
667年8月6日-09:00|日本/韓国| ||天智6年7月11日|耽羅が佐平の椽磨らを日本に派遣して朝貢
667年8月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・乾封2年8月1日|朔、日食があった
667年10月6日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・乾封2年9月14日|李勣が高麗の新城を抜き、契必何力へ守らせた
667年11月21日-09:00|日本| ||天智6年11月|大倭高安城・讃岐国屋嶋城・対馬国金田城を築く
667年11月21日-09:00|日本| ||天智6年;唐・乾封2年11月|第5回遣唐使帰国
668年-05:30|インド| ||<即位>ハ・ラガ朝君主「Mahendravarman2世」(~672年)
668年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「アスパル」(~694年5月)
668年2月18日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・乾封3年1月|薛仁貴は高麗と戦ってこれを大いに破った
668年3月5日-09:00|日本|滋賀県大津市|天智7年1月17日|近江に崇福寺を建てる
668年4月14日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・乾封3年2月28日|李勣等は遂に扶餘城を抜いた/泉男建が扶餘城救援のため派兵したが、薛賀水にて李勣等と合戦して大敗/李勣は大行城へ進軍し抜き鴨緑柵まで進軍し大勝利、辱夷城を抜く
668年4月22日-08:00|中国| ||唐・總章1年3月6日|唐・高宗李治が總章(-670年)と改元
668年5月22日-09:00|日本/韓国| ||天智7年4月6日|百済が、マツジ(末都師父)等を派遣し、調を献上(16日、帰国)
668年8月13日-09:00|日本/朝鮮| ||天智7年7月|高句麗、越の路より遣使して進調/風浪高く帰国できず
668年8月28日-09:00|朝鮮/韓国| ||新羅の文穎ら高句麗兵と蛇川之原で遭遇、対戦して大いに破った
668年9月15日-02:00|トルコ| ||<死去>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレス朝)「コンスタン2世」重臣によって刺殺される
668年9月15日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレス朝)「コンスタンティヌス4世」コンスタン2世の長男(~06850914死去)
668年10月22日-09:00|日本/韓国| ||天智7年9月12日|新羅が、沙喙級伐キウ(新羅の官位17等の六頭品・9位)の金山東巖等を派遣し、調を献上
668年10月31日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・總章1年;新羅・文武王8年;高句麗・宝蔵王27年9月21日|唐・新羅軍が高麗王高蔵を破り、これを捕らえ遂に高句麗が滅んだ
668年12月13日-09:00|日本/韓国| ||天智7年11月5日|天智天皇が、新羅のトウゲン等が帰国する際に、小山下の道守の臣麻呂・吉士の小鮪を、新羅に派遣
669年-08:00|インドネシア| ||<即位>スタ王国マハラジャ「Tarusbawa」(~723年)
669年-03:00|サングアラビヤ/トルコ| ||アラブ軍がコンスタンティノブルを包囲
669年2月6日-09:00|日本/中国| ||天智8年;唐・總章2年|第6回遣唐使(河内鯨)派遣
669年2月6日-09:00|日本|京都府京都市山科区|天智8年|藤原鎌足夫人の鏡王女、山階寺創建(→藤原京に移転・厩坂寺→平城京に移転・興福寺)
669年2月6日-09:00|日本|滋賀県|天智8年|この年百済・男女7百余人を近江蒲生郡に置く
669年3月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・文武王9年2月|高句麗王の庶子安勝、四千余戸を率いて新羅に投ずる
669年4月16日-09:00|日本/韓国| ||天智8年3月11日|耽羅が王子の久麻伎らを送って日本に朝貢
669年6月4日-09:00|韓国/中国| ||新羅・文武王9年5月|新羅、唐に祇珍山を派遣し、磁石を献上
669年7月4日-08:00|中国| ||唐・總章2年6月1日|朔、日食があった
669年10月11日-09:00|韓国/日本| ||新羅・文武王9年9月11日|新羅が、沙ヤ(六頭品・8位)のトクヅ(督儒)等を派遣し、調を献上
669年11月13日-09:00|日本| ||天智8年10月15日|中臣鎌足に大織冠と大臣の位を授け、藤原の姓を与える
669年11月14日-09:00|日本| ||天智8年10月16日|<死去>藤原鎌足/56歳(誕生:(推古)22(614))
669年11月29日-09:00|日本/中国| ||天智8年11月|河内鯨が唐に派遣されている
669年11月29日-09:00|日本| ||天智8年11月1日|日蝕
670年-05:30|インド| ||<即位>ハ・ラガ朝君主「Paramesvaravarman1世」(~695年)
670年-05:30|インド| ||<即位>ハ・ンテヤ朝君主「アリケツヤリ・Maravarman Nindraser Nedumaaran」(~710年)
670年-01:00|フランス| ||<即位>アキテヌ公「ルー1世」ウァスコア公(~676年)
670年-01:00|イタリア| ||<即位>ハ・リ公「コスマス」(~673年)
670年-01:00|チュニジア| ||イスラム勢力がチュニジアに軍営都市カイワーンを建設
670年 00:00|イギリス| ||<即位>タ・イフト王「Gaten ap Cloten」
670年 00:00|イギリス| ||<即位>テ・イア王「Alfwine」兄弟のノ・ザンフリア王Ecgrifithの副王(~679年戦死)
670年1月27日-08:00|中国| ||唐・總章3年|<即位>報徳国王「安勝」(~683年)
670年1月27日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年|チベット系の吐蕃王朝が侵入し、ホ・タを含む唐の安西四鎮を征服/ホ・タは吐蕃王朝の属国となる(-673年)
670年2月15日 00:00|イギリス| ||<死去>ノ・ザンフリア王「ア・ウイ・Athelfrithes sunu」
670年2月15日 00:00|イギリス| ||<即位>ノ・ザンフリア王「Ecgrifith Osweowes sunu」(~06850520戦死)、「Alfwine Osweowes sunu」(~679年死去)
670年2月25日-09:00|日本| ||天智9年2月|全国的に戸籍(庚午年籍)を作る
670年3月27日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年3月1日|唐・高宗李治が咸亨(-674年)と改元
670年4月25日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年4月|帝は安楽州を設置して、曷鉢を刺史とした
670年4月25日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年4月1日|安西四鎮を廃した
670年4月25日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年4月1日|吐蕃が龜茲の撥換城を陥落させた
670年4月28日-08:00|中国/朝鮮/韓国| ||新羅・文武王10年4月4日|新羅の薛烏儒と高句麗の高延武とで、各兵1

0700迄 (2145件)

- 万を率い鴨緑江を渡り靺鞨兵に対戦勝利/唐兵が続いて到ったため、軍を保白城に退く
- 670年5月3日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年4月9日|右威衛大將軍薛仁貴を遼婆道行軍大総管とし、左衛員外大將軍阿史那道真、左衛將軍郭待封を副官として、吐蕃を討伐させたが、唐軍は大敗/吐谷渾の故地は全て吐蕃に併呑された
- 670年5月22日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・咸亨1年4月28日|高句麗の酋長鉗牟岑が謀叛、高蔵の外孫安舜を主とし、辺境を寇すが、左監門大將軍高侃が東州道行軍総管となり、右領軍衛大將軍李謹行が燕山道行軍総管となり、これを討伐/安舜は鉗牟岑を殺し新羅に投降
- 670年5月24日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|天智9年4月30日|法隆寺が落雷により全焼
- 670年6月23日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年6月1日|朔、日食があった
- 670年7月23日-09:00|韓国| ||新羅・文武王10年7月|新羅、百済の残党と戦いこれを破る
- 670年8月8日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年7月17日|薛仁貴が吐蕃と大非川で戦い、敗れた
- 670年9月20日-09:00|日本/韓国| ||天智9年9月1日|天智天皇が、阿曇の連類垂を新羅に派遣
- 670年11月2日-08:00|中国| ||唐・咸亨1年閏9月14日|姜恪が涼州道行軍大総管となり、吐蕃を討伐
- 671年-08:00|インドネシア| ||7世紀後半、スマタラ東部にシュリウイジャ王国が興る
- 671年-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「ガリバルド」1世
- 671年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ガリバルド」ガリバルドの子(同年、フランク王国に逃れていたベルトリートが帰還すると失脚)⇒<復位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ベルトリート」(~688年暗殺される)
- 671年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「セン・ファエラド・マック・ブラスマイク」(~675年)
- 671年1月16日-09:00|日本| ||天智9年12月|国号を倭国から更新し日本とした/「日の出る所に近いので、国名にした」
- 671年2月15日-09:00|韓国/中国| ||新羅・文武王11年1月|新羅軍、熊津で唐軍と戦う。靺鞨兵が舌口城を囲むが、新羅軍300余人を斬殺/唐による百済救援を聞き、真功らを派遣し養浦を守らせる
- 671年2月19日-09:00|日本| ||天智10年1月5日|大友皇子を太政大臣とする
- 671年2月20日-09:00|日本| ||天智10年1月6日|冠位・法度のこと(近江令)を施行
- 671年2月23日-09:00|朝鮮/日本| ||天智10年1月9日|高句麗、上部大相可婁を遣使して調を進める
- 671年4月7日-09:00|日本/韓国| ||天智10年2月23日|百済が、ダイヨウヘン(台久用善)等を派遣し、調を献上
- 671年6月7日-09:00|日本| ||天智10年4月25日|漏刻を新台に置き、初めて時を知らせる
- 671年6月13日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・咸亨2年5月|新羅軍が石城で唐・軍と戦って5300を斬首し、2人の百済將軍と6人の唐・部隊長を捕虜に
- 671年7月12日-09:00|日本/韓国| ||新羅・文武王11年6月|新羅が、使者を派遣し、調を献上
- 671年7月12日-09:00|韓国/中国| ||新羅・文武王11年6月|新羅、將軍竹旨らを派遣し百済の加林城を攻め、唐兵と石城で戦い斬首五千三百級。百済將軍2人、唐果毅6人を捕える
- 671年7月26日-09:00|日本/韓国| ||天智10年6月15日|百済が、ゲイツツ(ゲイ真子)等を派遣し、調を献上/7・11帰国
- 671年8月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・文武王11年7月|新羅、泗水城を占領し、所夫里州を置く
- 671年8月11日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・咸亨2年7月|左監門大將軍高侃が安市城にて高麗の残党を破った
- 671年9月4日-09:00|韓国/中国/日本| ||新羅・文武王11年7月26日|岫管孫仁師、兵を領し、来りて府城を救う/新羅の兵馬、周留城下に至る/この時、倭国の船兵、来りて百済を助く/倭船1000艘が、停泊して白沙にいた。百済の精鋭の騎兵は、岸上で船を守護。新羅の勇猛な騎兵は、唐軍の先鋒となり、まず岸の陣地を撃破。周留城の兵士は、氣力喪失し、ついに降伏
- 671年11月12日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・文武王11年10月6日|新羅、唐の漕船70余艘を撃つ。郎將鉗耳大侯と士卒百余人とを捕える
- 671年11月13日-09:00|日本/韓国| ||新羅・文武王11年10月7日|新羅が、沙キウのコンマンモツ(金万物)等を派遣し、調を献上/12月17日、帰国
- 671年12月7日-08:00|中国| ||唐・咸亨2年11月1日|朔、日食があった
- 672年 00:00|イタリヤ| ||<即位>ヒト外王「Bruides mac Bili(Bridei3世)」(~693年死去)
- 672年1月6日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・咸亨2年;新羅・文武王11年12月|高侃が白水山にて高麗の残党と戦い破る/新羅が派兵して高麗を救援したが、侃はこれを迎撃して破った
- 672年1月7日-09:00|日本| ||天智10年12月3日|<死去>第38代「天智天皇」/46歳(誕生:(推古)34(626))
- 672年1月9日-09:00|日本| ||天智10年12月5日|<即位>第39代「弘文天皇」(大友皇子~06720723)
- 672年1月27日-01:00|バチカン| ||<死去>第76代ローマ教皇「ウイタリウス」
- 672年2月4日-09:00|韓国| ||新羅・文武王12年1月|新羅、百済の古省城を攻め勝利
- 672年2月12日-08:00|中国| ||唐・咸亨3年1月9日|姚州蛮が辺境を寇し、太子右衛副率の梁積寿が姚州道行軍総管となって、これを討伐
- 672年3月5日-09:00|韓国| ||新羅・文武王12年2月|新羅、百済の加林城を攻めるも勝てず
- 672年4月11日-01:00|バチカン| ||<就任>第77代ローマ教皇「アデオタトウス2世」(~06760617死去)
- 672年6月28日-09:00|朝鮮/日本| ||弘文1年5月28日|高句麗、前部富加拵らを遣使して進調
- 672年7月24日-09:00|日本| ||弘文1年6月24日|大海人皇子、吉野を發して東国に向かう(壬申の乱)
- 672年7月27日-09:00|日本| ||弘文1年6月27日|尾張国守小子部さひちが二万の軍を率いて、大海人の側に加わった
- 672年7月29日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|弘文1年6月29日|壬申の乱で大海人皇子側が飛鳥を制圧
- 672年7月30日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・咸亨3年7月1日|東州道総管の高侃、高麗余衆を安市城に破る
- 672年7月31日-09:00|日本| ||弘文1年7月2日|<死去>山部王(不明)皇族。壬申の乱の際、蘇我果安・巨瀬人に殺害

された

- 672年8月2日-09:00|日本| ||弘文1年7月4日|<壬申の乱>衛我河での戦い:大海人皇子軍(坂本財)は高安城を大阪方面に下り、難波から攻めてきた壹伎史韓国を大将とする朝廷軍と衛我河で戦ったが味方の兵が少なく敗れ飛鳥に撤退;乃楽山の戦い:大海人皇子軍(大伴吹負)は奈良市の北にある乃楽山で大野君果安を将とする朝廷軍と戦ったが破れ、飛鳥から宇陀へ向かって敗走
- 672年8月3日-09:00|日本| ||弘文1年7月5日|<壬申の乱>当麻の戦い:体勢を立て直した大海人皇子軍(大伴吹負)は壹伎史韓国を大将とする朝廷軍と当麻で戦って勝利し韓国は軍を離れて逃亡
- 672年8月4日-09:00|日本| ||弘文1年7月6日|<壬申の乱>箸墓の戦い:箸墓の北で大海人皇子軍(大伴吹負、置始菟ら)が朝廷軍と戦って勝利し大和での戦いはこれで大海人皇子軍の勝利が決まった
- 672年8月20日-09:00|日本| ||弘文1年7月22日|<壬申の乱>瀬田の合戦:瀬田で大海人皇子軍が近江朝廷軍に大勝;難波へ入った大海人皇子軍(大伴吹負)は朝廷軍と戦いここを制圧
- 672年8月21日-09:00|日本| ||弘文1年7月23日|<死去>第39代「弘文天皇」壬申の乱で破れ自殺/25歳(誕生:大化4(648))
- 672年8月28日-09:00|朝鮮/中国/韓国| ||唐・咸亨3年8月|高侃ら、韓始城・馬邑城を攻め勝利。白水城付近に陣営を作る。新羅軍、高句麗軍と共に反撃して斬首数千級。高侃ら退却。追って石門で戦い、新羅軍敗北
- 672年8月29日-09:00|日本| ||弘文1年8月|左大臣蘇我赤兄、流罪となる
- 672年9月1日-01:00|ス・イン/ホ・ルガ・ル/アントラ| |||<死去>西ゴート王国国王「ルクスイント」
- 672年9月1日-01:00|ス・イン/ホ・ルガ・ル/アントラ| |||<即位>西ゴート王国国王「ワムバ」(~6801014退位)
- 672年10月8日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|弘文1年9月12日|大海人皇子、大津京から飛鳥古京へ還都/浄御原宮を造営
- 672年11月25日-08:00|中国| ||唐・咸亨3年11月1日|朔、日食があった
- 672年12月25日-09:00|朝鮮/中国/韓国| ||唐・咸亨3年12月|東州道行軍総管左監門大將軍高侃、高句麗餘衆と白水山にて戦い、これを大破。新羅の救軍も横水にて破る
- 673年-05:30|インド| |||<即位>東チャールヤ朝君主「Indra Bhattarakaj」(~7日間)⇒「Vishnuvardhana2世」(~682年)
- 673年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi4世」Dathopa Tissaの弟(~689年)
- 673年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Valash」殺される
- 673年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Surkhab1世」(~717年死去)
- 673年-02:00|ギリシヤ/サジアラビア| |||アラブによるロートス占領(~679年)
- 673年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ホリ公「アントリュ1世」(~677年)
- 673年 00:00|イギリス| |||<死去>ダムリア王「Domangart mac Domhnail brecc」
- 673年 00:00|イギリス| |||<即位>ダムリア王「Mael Duin mac Conail」(~689年死去)
- 673年3月-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルク/オランダ| |||春<死去>ネストリア・ブルグンデヤ王クワール3世→アウストラシア王キルク2世が領土継承
- 673年3月20日-09:00|日本| ||天武2年2月27日|<即位>第40代「天武天皇」(大海人皇子)飛鳥浄御原宮で(~06860909)
- 673年5月21日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||天武2年5月1日|天武天皇が官吏登用の法を制定
- 673年6月20日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||天武2年6月|耽羅が王子の久麻藝や都羅宇麻らを送って日本に朝貢
- 673年7月2日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・咸亨4年閏5月13日|燕山道総管、右領軍大將軍李謹行が瓠江の西にて、高麗の造反者を大いに破る
- 673年7月4日 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Ecgerht Eorcenberhtes sunu(Ecgerht1世)」
- 673年7月4日 00:00|イギリス| |||ケントをマーシアが統治(~674年)
- 673年7月27日-09:00|韓国/日本| ||新羅・文武王13年閏6月8日|耽羅、王子久麻芸・都羅・宇麻らを遣使して来朝、朝貢
- 673年8月18日-09:00|日本|岐阜県不破郡関ヶ原町|天武2年7月|不破関を置く
- 673年8月18日-08:00|中国| ||唐・咸亨4年7月|務州で大水が起こり、五千人が溺死
- 673年10月6日-09:00|韓国/日本/朝鮮| ||新羅・文武王13年8月20日|高句麗使上部位頭大兄邯子・前部大兄碩干ら、新羅使韓奈末金利益に送られて筑紫に至り、朝貢
- 673年10月16日-09:00|韓国/日本| ||新羅・文武王13年9月|唐兵と靺鞨・契丹兵、新羅北辺を侵攻。九戦して新羅勝利。斬首二千余級
- 674年-08:00|インドネシア| |||<即位>シャイレンドラ朝国王「シマ女王」(~703年)
- 674年-05:30|インド| |||インドの東チャールヤ朝がパルヴァ朝の首都を陥す
- 674年-02:00|トルコ/サジアラビア| |||イスラム軍がコンスタンチノールを包囲し、攻撃を開始
- 674年 00:00|イギリス| |||<死去>ウエセックス王「カスワルフ」
- 674年 00:00|イギリス| |||<死去>ケウイセ王「チェンワフ・Cynegilses sunu」
- 674年 00:00|イギリス| |||<即位>ウエセックス王「エシュウイネ」(~676年)
- 674年 00:00|イギリス| |||<即位>ウエセックス王「カスワルフ」チェンワフの妻、夫の死後王位に(~674年死去)
- 674年 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Hlothhere Eorcenberhtes sunu」(~06850206死去)
- 674年 00:00|イギリス| |||<即位>ケウイセ王「エシュウイネ・Cenfusing sunu」(~676年死去)
- 674年2月12日-08:00|中国| ||唐・咸亨5年|ホータン王Fudu Xiongと一族がチベットに反旗を翻すが失敗、中国に亡命
- 674年2月12日-08:00|中国/韓国| ||唐・咸亨5年1月|新羅、唐・新曆法採用
- 674年3月13日-08:00|中国/韓国| ||唐・咸亨5年2月|新羅が唐と対立し唐が出兵、武力抗争へ
- 674年4月12日-08:00|中国| ||唐・咸亨5年3月1日|朔、日食があった

0700迄 (2145件)

- 674年4月17日-09:00|日本| ||天武3年3月7日|対馬の国司が銀を献上する(国内産の銀の初め)
- 674年9月20日-08:00|中国| ||唐・上元1年8月15日|中国唐・肅宗が上元(-676年11月)と改元/皇帝を天皇、皇后を天后と改称
- 675年-01:00|フランス/ベルギー-ドイッ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)キルク2世→<即位>ネストリア・ブルガントニア王テテリク3世(~691年), アウストラシア王クワイス3世(~676年)
- 675年-01:00|アルジェリア| |||アブ・アルムハジルがトレムセンを占領
- 675年 00:00|イギリス| |||<死去>マシア王「ウルフレ・Pendan sunu」
- 675年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「フィンクセト・フレタッハ・マック・ド・ウンチャダ」(~695年)
- 675年 00:00|イギリス| |||<即位>マシア王「エレルット・Pendan sunu(エレルット1世)」(~704年死去)
- 675年2月1日-09:00|日本|石川県輪島市|天武4年|行基, 諸嶽寺創建(→1321年總持寺)
- 675年2月5日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武4年1月5日|天武天皇が、天文を観察し、吉凶を占うために日本初の占星台を建設
- 675年2月22日-08:00|中国| ||唐・上元2年1月22日|納州のリョウが辺境を寇した
- 675年3月2日-09:00|日本/韓国| ||新羅・文武王15年2月|新羅王子金忠元ら、送使金風那らと共に来朝し調を進める/8月25日帰国
- 675年3月2日-09:00|韓国/中国| ||唐・上元2年2月|劉仁軌、新羅の民を七重城で大破。李謹行、安東鎮撫大使となり、新羅の買肖城を破る。前後三戦して、新羅はいずれも敗北。新羅は遣使入朝して伏罪し、方物を献ずる
- 675年3月16日-09:00|日本| ||天武4年2月15日|諸氏に与えた部曲を廃止し王臣・諸寺に与えた山・島浦・林・池を収公
- 675年4月1日-09:00|日本/朝鮮| ||天武4年3月|高句麗使大兄富干ら、来朝し朝貢
- 675年4月1日-09:00|日本/韓国| ||新羅・文武王15年3月|新羅が、級伐キウ(級キウ、六頭品・9位)のホクゴソヅ(朴勤修)・大奈末(五頭品・10位)のツミカ(金美賀)を派遣し、調を献上
- 675年5月8日-09:00|日本| ||天武4年4月9日|諸国出挙・借貸の法を定める
- 675年8月3日-09:00|日本/韓国| ||天武4年7月7日|天武天皇が、大使の小錦上の大伴の連国麻呂・副使の小錦下の三宅の吉士(渡来人の称号)入石を、新羅に派遣
- 675年9月25日-09:00|韓国/中国| ||唐・上元2年9月|安北河沿いに関城を設け、また鉄関城を築く。靺鞨が阿達城を劫掠し、城主素那戦死。唐軍と契丹・靺鞨軍来攻して七重城を囲み勝てず。小守の儒冬戦死。靺鞨はまた赤木城を囲み滅ぼす。県令脱起戦死。唐兵はまた石城を囲みこれを抜く。県令仙伯・悉毛等、戦死。また新羅軍、唐軍と大小十八戦してみな勝つ
- 675年9月25日-09:00|韓国/中国| ||唐・上元2年9月|唐将の薛仁貴、泉城に侵攻。新羅の將軍文訓等迎え撃ってこれに勝つ
- 675年10月23日-09:00|韓国/中国| ||唐将の李謹行兵二十万を率いて買肖城に駐屯。新羅軍、これを破る
- 676年-01:00|フランス/ベルギー-ドイッ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>アウストラシア王クワイス3世→<即位>ガゴベルト2世(~0679 1223)
- 676年 00:00|イギリス| |||<死去>ゲウイセ王「エンウイネ・Genfusing sunu」
- 676年 00:00|イギリス| |||<即位>ゲウイセ王「チェントウネ」(~685年)
- 676年2月14日-09:00|日本| ||天武5年1月25日|国司任命制度を制定
- 676年2月19日-09:00|韓国/中国/朝鮮| ||唐・上元3年2月|新羅は百済人と高句麗人の協力を得て唐軍を撃破し、朝鮮半島のほぼ全域を統一/唐・勢力が朝鮮から撤退
- 676年2月24日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・上元3年2月|高句麗余民の叛乱により、安東都護府を遼東故城に移す
- 676年4月19日-08:00|中国| ||唐・上元3年閏3月1日|吐蕃がゼン・廓・河・芳の四州を寇したので、左監門衛中郎将の令狐智通がこれを討伐
- 676年5月5日-08:00|中国| ||唐・上元3年閏3月17日|周王李顕が河内道行軍元帥となり、左衛大將軍の劉審礼ら十二総管を領して、相王李輪が涼州道行軍元帥となり、契比何力らの軍を領して、吐蕃を討伐
- 676年6月3日-09:00|日本| ||天武5年4月17日|鳥獸保護の最古の法律
- 676年6月17日-01:00|バチカン| |||<死去>第77代ローマ教皇「アデクウス2世」
- 676年7月16日-09:00|日本| ||天武5年6月|<死去>栗隈王(不明)皇族(敏達天皇の孫)
- 676年8月15日-09:00|朝鮮/中国| ||唐・上元3年7月|唐軍、道臨城に来攻して之を抜き、県令の居尸知戦死
- 676年9月12日-08:00|中国| ||唐・上元3年7月29日|吐蕃が豊州を寇した
- 676年10月13日-09:00|日本/韓国| ||新羅・文武王16年9月|新羅王金法敏、遣使して方物を献ずる
- 676年11月2日-01:00|バチカン| |||<就任>第78代ローマ教皇「ドヌ」(~06780411死去)
- 676年11月13日-09:00|日本| ||天武5年10月3日|神に新穀を捧げる相嘗祭を初めて挙行
- 676年11月20日-09:00|日本/韓国| ||天武5年10月10日|天武天皇が、大使の大乙上の物部の連麻呂・小使の大乙中の山背の直百足を、新羅に派遣
- 676年12月11日-09:00|韓国/中国| ||新羅・文武王16年11月|新羅、所夫里(百済の旧都泗比)州の伎伐浦で唐軍と戦う/唐が、新羅に敗戦し、朝鮮半島から撤退
- 676年12月13日-09:00|韓国/日本| ||新羅・文武王16年11月3日|新羅が、沙キウ(六頭品・8位)のコンヨヒョウ(金清平)を派遣し、新羅の政治を報告、同時に、級伐キウ(汲キウ、六頭品・9位)のコンコウ(金好儒)・弟監大舎(四頭品・12位)のコンキチ(金欽吉)等も派遣し、調を献上、その際に、奈末(五頭品・11位)のヒチナ(被珍奈)・奈末のヨウク(好福)が、筑紫まで送迎
- 676年12月18日-08:00|中国| ||唐・儀鳳1年11月8日|唐・高宗李治が儀鳳(-679年)と改元
- 677年-01:00|フランス| |||<死去>ホワリエ伯「Warinus」

0700迄 (2145件)

- 677年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ナリリ公「カエリウス1世」(~684年)
- 677年1月2日-09:00|日本/朝鮮| ||天武5年11月23日|高句麗が、大使の後部(北部)主簿のアウ・副使の前部(南部)大兄のトクを、大和政権に派遣・朝貢、新羅が、大奈末のコンコゲンを派遣し、高句麗の使者を、筑紫に送迎
- 677年2月8日-09:00|韓国| ||唐・儀鳳2年<即位>百濟王「扶余隆」(~682年)
- 677年2月8日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年<死去>吐蕃ツェンポ「マンツン・マンツェン(芒松芒贊)」
- 677年2月8日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年<即位>吐蕃ツェンポ「ティ・ドゥーツン(器弩悉弄)」(~704年死去)
- 677年2月8日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年|この年、西突厥と吐蕃が安西を寇した
- 677年3月9日-09:00|日本|京都府京都市北区|天武6年2月|天武天皇が賀茂別雷神社(上賀茂神社)社殿造営<賀茂別雷神大神を祀る>
- 677年4月16日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年3月9日|儀鳳令格式、成る
- 677年6月6日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年5月|吐蕃が扶州を寇した
- 677年7月3日-09:00|日本| ||天武6年5月28日|諸社の神税の処分法を定める
- 677年9月30日-09:00|日本/韓国| ||天武6年8月28日|耽羅王子都羅、来朝し朝貢
- 677年10月8日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武6年9月7日|高市大寺を大官大寺と改める
- 678年-03:00|サウジアラビア/トルコ| ||ヒザンティン帝国軍が「ギリシアの炎」を対イスラム戦で使用
- 678年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ領主「ランダー」(~不詳)⇒「ロトアルト」(~694年死去)
- 678年1月25日-08:00|中国| ||唐・儀鳳2年12月27日|関内・河東の猛士を募り、吐蕃を討伐させた
- 678年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・文武王18年|新羅・四天王寺が創建される
- 678年2月15日-08:00|中国| ||唐・儀鳳3年1月19日|李敬玄が河内道行軍大総管となり、吐蕃を討伐
- 678年2月22日-08:00|中国| ||唐・儀鳳3年1月26日|使者を派遣して河南・河北の猛士を募り、吐蕃を討伐させた
- 678年4月11日-01:00|パチン| |||<死去>第78代ローマ教皇「ドヌス」
- 678年5月3日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武7年4月7日|<死去>十市皇女(26歳)弘文天皇の妃、天武天皇の皇女
- 678年6月27日-01:00|パチン| |||<就任>第79代ローマ教皇「アガト」(~06810110死去)
- 678年9月22日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武7年9月|<死去>稚狭王(不明)皇族
- 678年10月3日-08:00|中国| ||唐・儀鳳3年9月12日|李敬玄・劉審礼が吐蕃と青海で戦い、敗れ、劉審礼がここに死んだ
- 678年10月21日-09:00|日本| ||天武7年10月|筑紫大地震、幅2丈、長3000余丈の亀裂生じ、家屋多数倒壊
- 678年11月15日-09:00|日本| ||天武7年10月26日|文武官の位階が成績に従って上がる進階の制度が定められる
- 679年-05:45|ネパール| |||<即位>ネーラー王国リッチャグィ王朝「シヴァ・デーヴァ2世」
- 679年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ササン朝シャーンシャー「ナルシフ」
- 679年-03:30|イラン/イラク| |||<退位>ササン朝シャーンシャー「ハローース3世」唐に亡命ササン朝滅亡
- 679年-02:00|ブルガリア/ロシア| |||ハザール族がブルガール族を大破し、発展しはじめる。ブルガール族は逃散し、ホルガ・ブルガールとトナウ・ブルガールとなる
- 679年-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「クニハート」共同支配(~700年)
- 679年 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリア王「Alfwine Oswewes sunu」
- 679年 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Eadric Ecgberhtes sunu」(~06860831死去)
- 679年 00:00|イギリス| |||マーシアが独立回復
- 679年1月18日-09:00|日本| ||天武7年12月|<筑紫地震>筑紫国に大地震が起きて大地に幅6m、長さ10kmに及ぶ地割れが走った/村々の農家の多くが倒壊
- 679年1月21日-09:00|日本|奈良県桜井市|天武7年12月4日|山田寺の本尊・金銅丈六仏を鑄造(天武14(685)年3月25日に仏眼を点じた)
- 679年2月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・文武王19年|新羅、東宮を創設
- 679年2月16日-08:00|中国/ベトナム| ||唐・儀鳳4年|唐が宗平(ハノイ)に安南都護府を設置
- 679年3月18日-09:00|韓国/朝鮮/日本| ||天武8年2月1日|高句麗が、上部大相のカフ(桓父)・下部大相のシムル(師需婁)等を派遣し、調を献上、その際に、新羅が、奈末のカモツ(甘勿那)を派遣し、高句麗の使者を筑紫まで送迎
- 679年4月24日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武8年3月9日|<死去>石川王(不明)皇族、吉備大宰
- 679年7月15日-08:00|中国| ||唐・調露1年6月3日|唐・高宗李治が調露(-680年)と改元
- 679年7月15日-08:00|中国| ||唐・調露1年6月3日|吏部侍郎の裴行儉が西突厥を討伐
- 679年8月28日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武8年7月17日|<死去>葛城王(不明)皇族
- 679年10月5日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武8年8月25日|<死去>大宅王(不明)皇族
- 679年10月14日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・調露1年9月5日|吏部侍郎の裴行儉が西突厥を破り、その可汗の都支を捕らえた
- 679年11月9日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・調露1年10月|突厥の温傅・奉職の二部が辺境を寇し、単于大都護府長史の蕭嗣業がこれを討伐
- 679年11月21日-09:00|日本| ||天武8年10月13日|僧尼らの威儀・法服などを定める
- 679年11月25日-09:00|韓国/日本| ||新羅・文武王19年10月17日|新羅が、阿キウ(六頭品・6位)のコンコウ(金項那)・沙キウ(六頭品・8位)のサルシヨウ(薩利生)を派遣・朝貢、貢物多数
- 679年12月8日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|天武8年11月|難波宮に羅城を築く
- 679年12月8日-09:00|日本|奈良県生駒郡三郷町|天武8年11月|竜田山に関を置く
- 679年12月8日-09:00|日本|奈良県香芝市|天武8年11月|大坂山に関を置く
- 679年12月8日-09:00|日本| ||天武8年11月1日|日蝕あり

0700迄 (2145件)

- 679年12月23日-01:00|ベルギー-/フランス/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ | ||<死去>オーストラリア王ダゴベルト2世→ネーデルラント・フランク王国王テリク3世が領土継承(全フランク人の王~06910412)
- 679年12月31日-09:00|日本/韓国 | ||天武8年11月23日|大乙下倭馬飼部連を大使に、小乙下上光父を小使に任じ、多禰島に遣わす
- 680年-08:00|中国 | ||<即位>吐蕃国王ティエン・ツグツェン(~743年)
- 680年-05:30|インド | ||<即位>チャールキア朝国王「ウイヤーティヤ」(~696年)
- 680年-02:00|ブルガリア/トルコ | ||<オングロスの戦い>ブルガリア帝国ハン「アスパル」が東ローマ帝国コンスタンティヌス4世と闘い勝利
- 680年-02:00|トルコ | ||第三コンスタンティノール公会議、単意論弾劾
- 680年-02:00|キプロス/トルコ | ||キプロスはビザンチン支配に戻る
- 680年-01:00|ドイツ/オーストリア | ||<即位>ハイルン公「テト」(~07161211死去テトの息子間で公国は分割)
- 680年1月1日-01:00|アルバニア | ||<死去>ミラニ朝(アルバニア)大公「Javanshir」
- 680年1月1日-01:00|アルバニア | ||<即位>ミラニ朝(アルバニア)大公「Varaz-Tiridates1世」(~705年)
- 680年1月4日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・調露1年11月27日|礼部尚書の裴行儉が定襄道行軍大総管となり、突厥を討伐
- 680年4月5日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・調露2年3月|裴行儉が突厥と黒山で戦い、これを破った
- 680年4月18日-02:00|シリア・アラブ | ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ムアウィヤ(1世)」
- 680年4月18日-02:00|シリア・アラブ | ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィード1世」(~06831111. 36歳没)
- 680年5月14日-02:00|トルコ | ||天武9年4月11日|橘寺焼ける
- 680年6月14日-09:00|朝鮮/日本 | ||天武9年5月13日|高句麗が、南部大使のモモン(卯間)・西部大兄のシュトク(俊徳)等を派遣・朝貢、その際に、新羅が、大奈末(五頭品・10位)のヨナ(考那)を派遣し、高句麗の使者を筑紫まで送迎
- 680年8月1日-09:00|日本 | ||天武9年7月|駿河国から伊豆国(豆州)(現在の静岡県の一部と、東京都の伊豆諸島)分立
- 680年8月1日-09:00|日本|三重県|天武9年7月|伊勢国から分かれて伊賀国(伊州)成立/現在の三重県西部の上野盆地一帯
- 680年8月6日-08:00|中国 | ||唐・調露2年7月7日|吐蕃が河源を寇した
- 680年8月8日-08:00|中国 | ||唐・調露2年7月9日|李敬玄が吐蕃と湟川で戦い、敗れた
- 680年8月23日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・調露2年7月24日|突厥の残党が雲州を包囲/代州都督竇懐折と右領軍中郎将程務挺が兵を率いてこれを撃破
- 680年8月25日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武9年7月26日|<死去>舎人王(不明)皇族
- 680年9月21日-08:00|中国 | ||唐・永隆1年8月23日|唐・高宗李治が永隆(-681年)と改元
- 680年10月10日-03:00|ササニヤ/シリア・アラブ | ||マホメットの孫アインが、イラク中部のカバラーの戦いでウマイヤ朝の軍に包囲され敗死。54歳(誕生:062601)
- 680年10月14日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ | ||<退位>西ゴート王国国王「ワム」
- 680年10月15日-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ | ||<即位>西ゴート王国国王「エルウィグ」(~6871115死去)
- 680年10月24日-09:00|日本|奈良県高市郡明日香村|天武9年9月27日|<死去>桑内王(不明)皇族
- 680年11月27日-08:00|中国 | ||唐・永隆1年11月1日|朔、日食があった
- 680年12月8日-09:00|日本|奈良県橿原市|天武9年11月12日|天武天皇、薬師寺創建(飛鳥→平城京に移転)<法相宗大本山>
- 680年12月20日-09:00|日本/韓国 | ||新羅・文武王20年11月24日|新羅使沙訶金若弼ら、来朝し調を進める
- 681年-07:00|カホゾア | ||<即位>チェンラ王「ジャヤテガイ女王」(~713年)
- 681年-02:00|ルーマニア/ブルガリア | ||ドブルジャはブルガリアの一部(~968年)
- 681年-02:00|ブルガリア/トルコ | ||ブルガリア帝国ハン「アスパル」は東ローマ帝国のコンスタンティヌス4世と講和を結び、自治と植民を認められる
- 681年-02:00|ルーマニア/ブルガリア | ||ワキアはブルガリアの一部(~900年以降)
- 681年1月10日-01:00|バチカン | ||<死去>第79代ローマ教皇「アガト」
- 681年1月29日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・永隆2年1月5日|突厥が原・慶の二州を寇した
- 681年2月16日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・永隆2年1月23日|裴行儉が定襄道行軍大総管となり、突厥を討伐
- 681年3月19日-09:00|日本 | ||斉明1年1月3日|<就任>摂政:草壁皇子(~朱鳥元年9月9日)天武天皇の皇太子
- 681年3月23日-09:00|日本 | ||天武10年2月29日|<死去>阿倍橘娘(阿倍夫人)(不明)阿倍内麻呂の娘、天智天皇の夫人
- 681年4月24日-09:00|日本 | ||天武10年4月2日|禁式九十二条を立て親王より庶民に至るまでの服色を定める
- 681年5月9日-09:00|朝鮮/日本 | ||天武10年4月17日|高句麗から外交使節が来朝/卯間が筑紫に来朝/5月26日、帰国
- 681年6月2日-09:00|日本 | ||天武10年5月11日|詔勅が出され、朝廷の女官に対する賄賂が禁止される
- 681年6月8日-08:00|中国 | ||唐・永隆2年5月17日|常州の人の劉龍子が反乱を計画し、処刑された大敗
- 681年6月9日-08:00|中国/モンゴル | ||唐・永隆2年5月18日|曹懐舜と裨将竇義昭は前軍を率いて突厥を攻撃/唐軍は大敗
- 681年6月12日-08:00|中国 | ||唐・永隆2年5月21日|黒齒常之が吐蕃と良非川で戦い、これを破った
- 681年6月26日-09:00|韓国/日本 | ||新羅・文武王21年6月5日|新羅から外交使節が来朝/若弼が筑紫に来朝/9月20日、帰国
- 681年7月21日-09:00|韓国 | ||新羅・文武王21年7月1日|<死去>新羅王「文武王」
- 681年7月24日-09:00|日本/韓国/朝鮮 | ||天武10年7月4日|外交使節団を派遣/遣新羅使として、大使に采女竹羅

- 、小使に当麻公楯を起用/遣高麗使(遣高句麗使)には、大使に佐伯広足、小使に小墾田麻呂が、それぞれ起用された/9月3日に帰朝
- 681年7月27日-09:00|韓国| ||新羅・文武王21年7月7日|<即位>新羅王「神文王」(~692. 7死去)
- 681年9月11日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・永隆2年閏7月23日|裴行儉が突厥と戦い、これを破った
- 681年10月18日-09:00|日本| ||天武10年9月|彗星現れる
- 681年11月15日-08:00|中国| ||唐・開耀1年9月29日|唐・高宗李治が開耀(-682年)と改元
- 681年11月16日-08:00|中国| ||唐・開耀1年9月29日|朔、日食があった
- 681年12月5日-09:00|日本/韓国| ||天武10年;新羅・神文王1年10月20日|新羅から外交使節が来朝/金忠平と金壹世が来朝。金・銀・銅・鉄・錦などが献上され、天武天皇・菟野皇后・草壁皇太子にも、別に金・銀・霞錦などが献上される/翌天武天皇11(682)年2月12日帰国
- 682年-08:00|中国| ||<即位>突厥第二可汗国第1代可汗「阿史那骨咄祿(クトルク、イルティシカフ)」(~690年頃)頡利可汗の疏属、唐から独立して東突厥を再興させる
- 682年-08:00|インドネシア| ||シュリヴィジャヤ王国(スマタラ島のパレンバンを中心に栄えた通商国家)周辺各地に遠征軍を派遣
- 682年-05:30|インド| ||<即位>東チャールヤ朝君主「Mangi Yuvaraja」(~706年)
- 682年 00:00|イギリス| ||<死去>ゲウイット王「Cadwaladr Fendigaid ap Cadwallon」
- 682年 00:00|イギリス| ||<即位>ゲウイット王「Idwal Iwrch ap Cadwaladr」(~720年)
- 682年 06:00|ガアメラ| ||<即位>ティール王「ハサ・チャン・カウール1世」(~734年)
- 682年2月13日-09:00|韓国| ||新羅・神文王2年|新羅神文王、父文武王の遺志をつぎ、倭兵を鎮めるため東海の辺に感恩寺を創立し、文武王の遺骨を東海口の大石(大王岩)に納める
- 682年2月13日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・開耀2年|東突厥・アジ・クトルクがイルティシカフとして即位(~694年)
- 682年3月2日-09:00|日本| ||天武11年1月18日|<死去>氷上大刀自(不明)天武天皇の夫人、藤原鎌足の娘
- 682年3月9日-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第5代アミール:サイト・ビッ・ヤズド・ビッ・アルカマ・アルアディ(~684年 廃任)
- 682年4月2日-08:00|中国| ||唐・永淳1年2月19日|唐・高宗李治が永淳(-683年)と改元
- 682年4月13日-09:00|日本| ||天武11年3月|天武朝が「新字」44巻を作成
- 682年5月10日-09:00|日本| ||天武11年3月28日|諸王臣の位冠を服するのをやめ、親王以下の封を収公
- 682年5月13日-08:00|中国| ||唐・永淳1年4月1日|朔、日食があった
- 682年5月20日-08:00|中国| ||唐・永淳1年4月8日|裴行儉が金牙道行軍大総管となり、三総管の兵を率いて突厥を討伐/安西副都護の王方翼が車薄・咽?と熱海で戦い、これを破った
- 682年6月3日-09:00|日本| ||天武11年4月23日|男女結髪・乗馬の制を定める
- 682年7月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||唐・永淳1年6月|新羅・神文王が官僚を育成する機関として礼部の配下に国学をつくり感恩寺を創建
- 682年7月21日-09:00|日本| ||天武11年6月12日|<死去>殖粟王(不明)皇族
- 682年8月17日-01:00|バチカン| ||<就任>第80代ローマ教皇「レオ2世」(~06830703死去)
- 682年9月29日-09:00|日本| ||天武11年8月22日|礼儀言語の制を定める
- 682年10月6日-08:00|中国| ||唐・永淳1年9月|吐蕃が柘州を寇し、驍衛郎將の李孝逸がこれを討伐した
- 682年10月8日-09:00|日本| ||天武11年9月2日|宮中での跪礼・匍匐礼を禁止、唐風の起立礼を用いる詔(宮廷礼儀規定)
- 683年-01:00|チュニジア| ||チュニジアのイスラム勢力がマグレブに遠征開始
- 683年 00:00|イギリス| ||<死去>エックス王「Sigehehere Sigebeorhtes sunu」
- 683年3月15日-08:00|中国| ||唐・永淳2年2月12日|突厥が定州へ来降/刺史の霍王元軌がこれを撃退
- 683年4月3日-09:00|日本| ||天武12年3月2日|僧正・僧都・律師を任命し僧尼を統領させる
- 683年4月4日-08:00|中国| ||唐・永淳2年3月2日|突厥が単于都護府を寇し、司馬の張行師がここに死んだ
- 683年5月16日-09:00|日本| ||天武12年4月15日|銅銭を用いることとし銀銭を禁じた
- 683年5月28日-08:00|中国| ||唐・永淳2年4月27日|綏州の部落の稽の白鉄余が辺境を寇し、右武衛將軍の程務挺がこれを破った
- 683年6月18日-08:00|中国| ||唐・永淳2年5月18日|突厥の阿史那骨篤祿等が蔚州へ来寇/豊州都督崔智弁が朝那山にてこれと戦ったが敗れた
- 683年6月30日-08:00|中国| ||唐・永淳2年6月|突厥が嵐州を寇掠したが偏將の楊玄基がこれを撃退
- 683年7月3日-01:00|バチカン| ||<死去>第80代ローマ教皇「レオ2世」
- 683年7月5日-09:00|日本| ||天武12年6月6日|<死去>高坂王(不明)皇族
- 683年8月26日-03:00|サウジアラビア/シリア・アラブ| ||ハムラの戦いでアブドゥラー軍がウマイヤ朝シリア軍に撃破される
- 683年9月10日-08:00|中国| ||唐・永淳2年8月14日|黄河が氾濫し、河陽城が破壊された
- 683年11月-03:00|サウジアラビア| ||メッカでアッババイルがカリフを称して反乱(第2次イスラム内乱)
- 683年11月11日-02:00|シリア・アラブ/サウジアラビア| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィド1世」36歳
- 683年11月11日-02:00|シリア・アラブ/サウジアラビア| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ムアウィヤ2世」(~即位から約20日ほどで急死)
- 683年12月-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「マルワーン1世」(~06850507. 62歳没)年
- 683年12月6日-09:00|韓国/日本| ||新羅・神文王3年11月13日|新羅使沙訶金主山ら、来朝し調を進める
- 683年12月24日-08:00|中国| ||唐・弘道1年12月|唐第3代皇帝「高宗李治」が弘道に改元(~683年)
- 683年12月27日-08:00|中国| ||<死去>唐第3代皇帝「高宗李治」病死/56歳(誕生628年)
- 684年-05:30|インド| ||カンチーのカラサタ寺、ママツラムの海岸寺院の建立

0700迄 (2145件)

- 684年-05:00|カフスタン/ロシア| |||ハザール軍、裏コーカサスに襲来する
684年-04:00|ジョージア| |||<就任>イベリア公「ケアラム2世」(~693年)
684年-02:00|エジプト| |||<就任>ウマイヤ朝エジプト第6代アミール:アブド・アルマン・イブン・ウトバ・アルフィリ(~684年)
684年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ナポリ公「ステファン1世」(~687年)
684年1月3日-08:00|中国| ||唐・弘道1年12月11日|<即位>唐第4代皇帝「中宗李顕」(~2月26日)
684年1月5日-09:00|日本| ||天武12年12月13日|諸国の境界を定める
684年1月9日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|天武12年12月17日|複都制の詔を下し、難波宮再興
684年1月22日-08:00|中国| ||唐・嗣聖1年1月1日|癸未、唐・中宗李顕が嗣聖と改元
684年2月26日-08:00|中国| ||唐・文明1年2月6日|<廃位>唐第4代皇帝「中宗李顕」皇太后が百官を乾元殿に集め
 廢位を宣言
684年2月27日-08:00|中国| ||唐・文明1年2月7日|<即位>唐第5代皇帝「睿宗李旦」(~690年10月16日)、文明と改元
684年5月9日-09:00|日本/韓国| ||天武13年4月20日|天武天皇が、大使の小錦下の高向の臣麻呂・小使の小山下
 の都努の臣牛甘を、新羅に派遣
684年5月24日-09:00|日本| ||天武13年閏4月5日|男女の衣服・結髪の制度を定める
684年6月26日-01:00|パチン| |||<就任>第81代ローマ教皇「ベネディクトゥス2世」(~06850508死去)
684年7月15日-09:00|日本/朝鮮| ||天武13年5月28日|三輪引田難波麻呂を大使に、桑原人足を小使に任じ、高句
 麗に遣わす
684年8月31日-08:00|中国| ||唐・文明1年7月16日|突厥が朔州を寇し、左武衛大將軍の程務挺がこれを破った
684年9月6日-08:00|中国| ||唐・文明1年7月22日|彗星が西方に出現
684年9月7日-09:00|日本| ||天武13年7月23日|ハル彗星出現・西北の空に長さ一丈余
684年10月19日-08:00|中国| ||唐・光宅1年9月6日|唐・睿宗李旦が光宅(-12月)と改元
684年11月11日-08:00|中国| ||唐・光宅1年9月29日|李敬業は一州の兵で起兵し年号を嗣聖元年に戻した
684年11月13日-09:00|日本| ||天武13年10月1日|諸氏の族姓を改め八色の姓(真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・
 連・稻置)を定める
684年11月15日-09:00|日本/韓国| ||天武13年10月3日|県犬養手纏を大使に、川原加尼を小使に任じ、耽羅に遣
 わす
684年11月15日-09:00|日本| ||天武13年10月3日|諸国の境界を定める
684年11月26日-09:00|日本| ||天武13年10月14日|白鳳南海地震/土佐その他南海・東海・西海地方で地震/山崩
 れ、河湧き、家屋社寺の倒潰、人畜の死傷多く、津波来襲して土佐の舟多数沈没
684年11月26日-08:00|中国| ||唐・光宅1年10月14日|李敬業が潤州を落とした
684年12月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王4年11月|報徳国の置かれた金馬渚で安勝の一族の將軍が反乱
 を起こしたため神文王は報徳国を滅ぼし新羅による半島の統一支配が完成
684年12月12日-09:00|日本| ||天武13年11月1日|朝臣姓を大三輪君ら52氏に与える
684年12月24日-08:00|中国| ||唐・光宅1年11月13日|右監門衛將軍の蘇孝祥が徐敬業と阿谿で戦い、ここに死ん
 だ
684年12月29日-08:00|中国| ||唐・光宅1年11月18日|孝逸の攻撃で敬業は大敗/王那相が敬業、敬献及び駱賓王
 の首を斬り降伏/揚、潤、楚の三州は平定
685年-02:00|エジプト| |||<就任>ウマイヤ朝エジプト第7代アミール:アブド・アルアジズ・イブン・マワン・イブン・アルハム(~705年死去)
685年 00:00|イギリス| |||<死去>セックス王「Athelwealh」ウエックス王「カトワ」に殺される
685年 00:00|イギリス| |||<即位>サクソ王「カトワ」Cenberhting sunu|全サクソの王権を宣言(~688年)
685年 00:00|イギリス| |||<即位>セックス王代理「Beorhthun」公爵(~686年死去)、「Andhun」公爵(~686年)
685年1月1日-09:00|日本| ||天武13年11月21日|流星が雨のように降った
685年1月3日-09:00|日本| ||天武13年11月23日|再び流星が降った
685年1月12日-09:00|日本| ||天武14年12月2日|宿禰姓を大伴連ら50氏に与える
685年2月6日 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Hlothhere Eorcenberhtes sunu」
685年2月9日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王5年|この年、新羅・六停軍団が完成
685年2月9日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年1月1日|唐・睿宗李旦が垂拱(-688年)と改元
685年3月1日-09:00|日本| ||天武14年1月21日|爵位号を改め諸王以下12階諸臣48階を定める
685年3月14日-09:00|日本| ||天武14年2月4日|唐・百濟・高麗人147人に爵位号を与える
685年4月8日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年2月29日|突厥が辺境を寇し、左玉鈐衛中郎將の淳于処平が陽曲道行軍
 総管となってこれを攻撃
685年4月9日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年3月|垂拱律令格式、公布
685年5月7日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>ウマイヤ朝カリフ「マルワン1世」62歳
685年5月7日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>ウマイヤ朝カリフ「アブド・ウルマリク」(~7051008死去)
685年5月8日-01:00|パチン| |||<死去>第81代ローマ教皇「ベネディクトゥス2世」
685年5月16日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年4月8日|淳于処平が兵を率いた唐軍が忻州にて突厥に敗北し、五千余
 人が戦死
685年5月20日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリア王「Ecgfrith Osweowes sunu」戦死
685年5月20日 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリア王「Ealdfrith Osweowes sunu」(~07041214死去)
685年7月7日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年6月|同羅部、僕固部等の諸部が造反/左豹韜衛將軍・劉敬同を派遣し、河
 西の騎士を徵発して居延海からこれを討伐に出た/同羅部と僕固部等は皆、敗北して散った/同城へ安北都護府
 を設置

0700迄 (2145件)

- 685年7月23日-01:00|パチカン| |||<就任>第82代ローマ教皇「ヨハネス5世」(~06860802死去)
- 685年8月31日-09:00|日本| ||天武14年7月26日|朝服の制を定める
- 685年9月14日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレイオス朝)「コンスタンティノス4世」
- 685年9月14日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国共同皇帝(ヘラクレイオス朝)「ユスティニアノス2世リトメトス」コンスタンティノス4世の長男(~695年)
- 685年10月-03:00|イラク| |||シーア派のムフタルがウマヤド朝に対して反乱(~687)
- 685年10月13日-09:00|日本|三重県伊勢市|天武14年9月10日|伊勢神宮式年遷宮制を定める
- 685年12月2日-08:00|中国| ||唐・垂拱1年11月1日|韋待價が燕然道行軍大総管となり、突厥を攻撃
- 685年12月28日-09:00|日本/韓国| ||新羅・神文王5年11月27日|新羅使、波珍訥(真骨・ジノル=父母とも王族・4位)のコンチヨウ(金智祥)・大阿訥(真骨・5位)のコンコクン(金健勳)ら、来朝、国政を請願・調を献上/翌年5. 29. 帰国
- 686年-08:00|インドネシア| |||シュリーヴンジャヤ王国(スマタラ島のパレンバンを中心に栄えた通商国家)ジャバ島に遠征
- 686年-07:00|ベトナム| |||<死去>チャンパ王「ウイランタヴァルマン1世」
- 686年-07:00|ベトナム| |||<即位>チャンパ王「ウイランタヴァルマン2世」(~731年死去)
- 686年 00:00|イギリス| |||<死去>サセックス王代理「Beorhthun」公爵
- 686年 00:00|イギリス| |||サセックスをウェセックスが統治(~688年)
- 686年1月30日-09:00|朝鮮| ||唐・垂拱2年|<即位>小高句麗王「高宝元」建国(~699年)
- 686年1月30日-09:00|日本|滋賀県大津市|天武15年|大友与多王、園城寺(三井寺)創建<天台寺門宗総本山>
- 686年2月12日 09:00|日本|大阪府大阪府中央区|天武15年1月14日|<難波京(難波長柄豊碕宮)大火>大酉の時(18時ごろ)難波の宮の大蔵省の失火で宮室(宮城:天皇の住居や官庁の建物)がごとごとく焼けた
- 686年2月28日-09:00|韓国/中国| ||新羅・神文王6年2月|新羅、唐に遣使
- 686年2月28日-08:00|中国| ||唐・垂拱2年2月1日|朔、日食があった
- 686年8月2日-01:00|パチカン| |||<死去>第82代ローマ教皇「ヨハネス5世」
- 686年8月14日-09:00|日本| ||朱鳥1年7月20日|「朱鳥」と元号をたてる
- 686年8月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Eadric Ecgeberhtes sunu」
- 686年8月31日 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Mul Genbehtes sunu」(~687年殺害される)
- 686年8月31日 00:00|イギリス| |||ケントをウェストサクソン(ウェセックス)が統治(~687年)
- 686年9月23日-08:00|中国| ||唐・垂拱2年9月|突厥軍が入寇/左鷹揚衛大將軍・黒齒常之がこれと拒戦、突厥軍は夜逃げし
- 686年10月1日-09:00|日本| ||朱鳥1年9月9日|<死去>第40代「天武天皇」/56歳(誕生:(舒明)3(631))皇后野讃良皇女即位せずに政務を執る
- 686年10月21日-01:00|パチカン| |||<就任>第83代ローマ教皇「コロン」(~06870921死去)
- 686年10月24日-09:00|日本| ||朱鳥1年10月2日|大津皇子が謀叛の疑いで皇太子・草壁皇子に捕えられる
- 686年10月25日-09:00|日本| ||朱鳥1年10月3日|<死去>山辺皇女(24歳)大津皇子の妃、大津皇子処刑後に殉死
- 686年10月25日-09:00|日本| ||朱鳥1年10月3日|<死去>大津皇子(24歳)天武天皇の皇子、謀反を企てたとして処刑
- 687年-07:00|ベトナム| |||リ・トク・ティエン(李嗣先)、ティン・キン(丁建)の農民反乱
- 687年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネヴェント公「ロムアルド1世」
- 687年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリンゲン公「ゴズベルト1世」(~689年)
- 687年-01:00|イタリヤ| |||<即位>パトリカ公「ホネラス」(~696年)
- 687年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネヴェント公「ケリマルド2世」(~689年)
- 687年-01:00|フランス| |||アウストラシアのピピン2世(中ピピン)メルトリの戦いでオストリアの宮宰を破り全王国の宮宰となりフランス王国を統一
- 687年 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Mul Genbehtes sunu」殺害される
- 687年 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Swaefheard Saebban sun」(~692年)
- 687年 00:00|イギリス| |||ケントをイーストサクソン(エセックス)が統治(~688年)
- 687年2月18日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王7年|この年、新羅・九誓幢軍団が完成
- 687年3月8日-09:00|日本/韓国| ||持統1年1月19日|皇后が、直広肆(諸臣48階の16位)の田中の朝臣法麻呂・追大式(諸臣48階の35位)の守の君刈田等を、新羅に派遣し、天皇の死去を報告/翌年1月8日、帰国
- 687年3月28日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年2月10日|突厥の阿史那骨篤禄らが昌平へ来寇し、黒齒常之がこれを攻撃
- 687年4月18日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王7年3月|新羅・郡県制が成立、文武官僚に田を給付
- 687年6月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王7年5月|新羅、文武官僚田を給す
- 687年9月12日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年8月|骨篤禄、元珍が朔州へ来寇/燕然道大総管黒齒常之を派遣し黄花堆にて突厥を大いに破る
- 687年9月21日-01:00|パチカン| |||<死去>第83代ローマ教皇「コロン」
- 687年9月21日-01:00|パチカン| |||<就任>対立ローマ教皇「テオドル」(~06871215退位)「ハスカリス」(~06871215退位)
- 687年10月2日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年8月21日|嶺南の俚戸の党類・李思慎らが造反し安南府城を攻め破り、劉延祐を殺した/桂州司馬の曹玄静が大唐兵を率いて李思慎らを討ち、これを斬って平定
- 687年10月29日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年9月18日|楊初成が郎将を自称し、州人を募って廬陵王を房州で迎えようとしたが、果たせず、殺された
- 687年11月3日-09:00|日本/韓国| ||新羅・神文王7年9月23日|新羅が、王子のコンソリク(金霜林)・級伐キウ(級キウ、新羅の官位17等の六頭品・9位)のコンサモ(金薩慕)・級キウのコンソツ(金仁述)・大舎(四頭品・12位)のヨウソウ(蘇陽信)

- 等を派遣し、国政を報告、調を献上、学問僧の智隆も同行して帰国/翌年2月29日、新羅のコンソウリ等が、帰国
- 687年11月15日-01:00|スェ・インボルトガル/アントラ| ||<死去>西ゴート王国国王「エルヴィグ」
- 687年11月15日-01:00|スェ・インボルトガル/アントラ| ||<即位>西ゴート王国国王「エキカ」(~702. 11死去)
- 687年11月19日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年10月9日|右監門衛中郎将の曇宝壁が突厥と戦い、敗れた
- 687年12月15日-01:00|バチカン| ||<就任>第84代ローマ教皇「セルギウス1世」(~07010908死去)
- 687年12月15日-01:00|バチカン| ||<退位>対立ローマ教皇「テオドルス」「パスカス」
- 688年-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「ヘルトリート」暗殺される
- 688年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド 対立王「アラリス(アラギシル)」諸公爵の一人/ハヴァリア朝に反乱(~689年1月、短期間で征伐される)
- 688年 00:00|イギリス| ||<即位>ウェセックス王「イネ・Genraeding sunu」建国(~726年)
- 688年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Oswyn」(~691. 7死去)
- 688年 00:00|イギリス| ||<即位>サセックス王「Nothhelm (Nunna)」王国回復
- 688年 00:00|モロッコ/シリア・アラブ| ||モロッコはウマイヤ朝の一部(~750年)
- 688年1月10日-08:00|中国| ||唐・垂拱3年12月2日|韋待價が安息道行軍大総管となり、安西大都護の閻温古が副総管となって、吐蕃を攻撃
- 688年7月3日-08:00|中国| ||唐・垂拱4年6月1日|朔、日食があった
- 688年9月20日-08:00|中国| ||唐・垂拱4年8月21日|博州刺史の琅邪郡王李冲が乱を討つ名目で挙兵したので、左金吾衛大將軍の丘神勳を派遣してこれをばばませた
- 688年9月22日-08:00|中国| ||唐・垂拱4年8月23日|李冲が敗北し死んだ
- 688年9月24日-08:00|中国| ||唐・垂拱4年8月25日|越王李貞が乱を討つ名目で豫州で挙兵、兵を派遣して上蔡を陥した
- 688年9月30日-08:00|中国| ||唐・垂拱4年9月1日|越王李貞が死んだ
- 689年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ベネチエンテ公「カリアルト2世」
- 689年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ケニベルト」ヘルトリートの子。アラリスを討伐して王位を奪還(~700年死去)
- 689年-01:00|ドイツ| ||<即位>テューリンゲン公「ヘテン2世」(~719年ヘテン2世の死で断絶)
- 689年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネチエンテ公「ギサルフィ1世」カリアルト2世の弟(~706年死去)
- 689年-01:00|フランス| ||フランス王国の宮宰ピピン2世が西フリスラントを併合
- 689年 00:00|イギリス| ||<死去>ダリアマ王「Mael Duin mac Conaill」
- 689年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリアマ王「Domhnall donn mac Conaill」反乱側(~696年死去)
- 689年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリアマ王「Ferchar fota mac Feradhaigh」(~697年死去)
- 689年1月-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド 対立王「アラリス」ハヴァリア朝に反乱を起こすが征伐される
- 689年1月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・神文王9年1月|新羅が内外官の祿邑を廃止し租を給する
- 689年1月26日-08:00|中国| ||唐・永昌1年1月1日|唐・睿宗李旦が永昌と改元
- 689年5月7日-09:00|日本| ||持統3年4月13日|<死去>草壁皇子(28歳)天武天皇の皇子
- 689年5月14日-09:00|日本/韓国| ||新羅・神文王9年4月20日|新羅使級勿金道耶ら、来朝/学問僧明聡・観智、同行して帰国/7月1日、帰国
- 689年5月28日-08:00|中国| ||唐・永昌1年5月4日|韋待價が吐蕃と寅識迦河で戦い、敗れた
- 689年6月10日-08:00|中国| ||唐・永昌1年5月17日|白馬寺の僧の薛懐義が新平道行軍大総管となり、突厥を攻撃
- 689年7月21日-09:00|日本| ||持統3年6月29日|草壁皇子の遺志、飛鳥浄御原令が完成/律令国家の基礎が固まる
- 689年7月22日-08:00|中国| ||唐・永昌1年7月|韋待價は寅識迦河まで進軍して吐蕃と戦い、大敗
- 689年8月23日-08:00|中国| ||唐・永昌1年8月3日|薛懐義を新平道行軍大総管とし、二十万の兵を与えて突厥の阿史那骨篤祿を討たせた
- 689年9月29日-09:00|日本| ||持統3年閏8月10日|諸国司に命じ戸籍を造らせる
- 689年12月18日-08:00|中国| ||唐・載初1年正月1日|唐・睿宗李旦が載初(-690年)と改元/周の正朔を用い、永昌1年11月を載初1年正月とする/12月を臘月とし、夏正月を一月とする
- 690年-01:00|フランス| ||「ガイヤロド」がフリーズ人にキリスト教の布教を開始
- 690年 00:00|イギリス| ||<即位>ダフイット王「Gadwgan Tredyilig ap Caten」
- 690年-08:00|中国| ||<死去>突厥第二可汗国第1代可汗「阿史那骨咄祿(クトゥルク、イルティシユカフン)」
- 690年-08:00|中国| ||<即位>突厥第二可汗国第2代可汗「阿史那默啜(カフガフンカフン)」(~716年殺)骨咄祿の弟
- 690年1月24日-09:00|日本| ||持統3年12月8日|賭博のすごろく禁止令
- 690年2月14日-09:00|日本| ||持統4年|伊勢神宮で「式年遷宮の制」がはじまる
- 690年2月14日-09:00|日本| ||持統4年1月1日|<即位>第41代「持統天皇」天武天皇皇后野讃良皇女(~06970822)
- 690年5月27日-09:00|日本| ||持統4年4月14日|百官考仕の制・朝服の制を定める
- 690年8月15日-09:00|日本| ||持統4年7月5日|高市皇子を太政大臣に任命
- 690年8月15日-09:00|日本| ||持統4年7月5日|浄御原令の官制を実施
- 690年8月19日-09:00|日本| ||持統4年7月9日|朝堂の礼を定める
- 690年10月9日-09:00|日本| ||持統4年9月1日|浄御原令の戸令により、戸籍つくる(庚寅年籍)
- 690年10月16日-08:00|中国| ||武周・天授1年9月9日|<即位>武周皇帝「則天大聖皇帝武ゾウ」(~705年2月22日)天授(~692年)と改元
- 690年10月16日-08:00|中国| ||武周・天授1年9月9日|<廃位>唐第5代皇帝「睿宗李旦」
- 690年12月17日-09:00|日本| ||持統4年11月11日|元嘉暦と儀鳳暦とを用いる

0700迄 (2145件)

- 691年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Unhanagara Hatthadatha」⇒「Manavanna」Kassapa1世の息子 (~726年)
- 691年-04:00|ジョージア| |||<即位>ラジカ王「セルゲイ」 (~697年)
- 691年-02:00|パレスチナ| |||エルサレムに「岩のドーム」が完成
- 691年4月12日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)国王「テウデリク3世」
- 691年4月12日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>フランク王国(メロヴィング朝)国王「クワイス4世」テウデリク3世の息子 (~695年)
- 691年5月3日-09:00|日本| |||持統5年4月1日|奴婢の制を定める
- 691年5月4日-08:00|中国| |||武周・天授2年4月1日|朔、日食があった
- 691年6月18日-08:00|中国| |||武周・天授2年4月1日|岑長倩が武威道行軍大総管となり、吐蕃を攻撃
- 691年7月 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Oswyn」
- 691年7月 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Wihtraed Ecgberhtes sunu」 (~07250423死去)
- 691年8月19日-09:00|日本| |||持統5年9月9日|<死去>川島皇子(35歳)天智天皇の皇子
- 691年11月3日-09:00|日本| |||持統5年10月8日|陵戸の制を定める
- 691年11月26日-08:00|中国| |||武周・天授3年|中国皇帝武則天が吐蕃王朝からホータンを奪還し、中国の保護領とする
- 692年-05:30|インド| |||アラブの交易商人がインドのマハラ地方に定着しだす
- 692年-08:00|中国| |||<即位>ホータン王「尉遲敬」 (~728年)
- 692年1月24日-09:00|韓国/朝鮮| |||新羅・神文王12年|この年、新羅が医学を置き学生に本草学などを教授
- 692年4月22日-08:00|中国| |||武周・如意1年4月1日|朔、日食
- 692年4月22日-08:00|中国| |||武周・如意1年4月1日|武周・則武天が如意と改元
- 692年7月19日-09:00|韓国| |||新羅・神文王12年7月|<死去>新羅王「神文王」
- 692年7月19日-09:00|韓国| |||新羅・神文王12年7月|<即位>新羅王「孝昭王」 (~702. 7)
- 692年7月19日-08:00|中国| |||武周・如意1年7月|天下における屠殺及び魚や甲殻類(ヒヤカ等)の捕獲を禁止
- 692年10月-03:00|サウジアラビア/シリア-アラブ| |||ウマイヤ朝軍がメッカを包囲し、カーバ決戦で第2次内乱を平定
- 692年10月23日-08:00|中国| |||武周・長壽1年9月9日|武周・武則天が長壽(-694年)と改元
- 692年12月8日-08:00|中国| |||武周・長壽1年10月25日|大周軍は吐蕃を大いに破り、四鎮を回復/クチャに安西都護府を設置
- 692年12月21日-09:00|日本/韓国| |||新羅・孝昭王1年11月8日|新羅使級サ朴億徳・金深薩ら、来朝し調を進める
- 693年-04:00|ジョージア| |||<就任>イベリア公「クアラム3世」 (~748年)
- 693年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラスカイト王「Alpin」
- 693年 00:00|イギリス| |||<死去>ヒョウト王「Bruide mac Bili (Bridei3世)」
- 693年 00:00|イギリス| |||<即位>ストラスカイト王「Dumnagual (Dyfnwal ap Owain)」 (~694年死去)
- 693年 00:00|イギリス| |||<即位>ヒョウト王「Taran mac Ainfidaigh」 (~697年)
- 693年2月12日-09:00|日本| |||持統7年1月2日|農民に黄衣を、奴婢に黒衣を着させる
- 693年3月14日-09:00|日本/韓国| |||新羅・孝昭王2年2月3日|新羅使沙サ金江南・韓奈麻金陽言ら、来朝/国王の喪を告げる
- 693年10月5日-08:00|中国| |||武周・長壽2年9月1日|朔、日食があった
- 693年11月4日-09:00|日本| |||持統7年10月|朝廷が皇親・有位者に武具を供えさせる
- 693年12月3日-08:00|中国| |||武周・長壽3年|マニ教が中国へ伝搬する
- 693年12月3日-08:00|中国| |||武周・長壽3年正月|東突厥・骨篤禄可汗が卒し、弟の默啜が自ら立って可汗となった (~716年)
- 694年-05:45|ネパール| |||<即位>リッチャビ朝国王「Shivadeva2世」 (~705年)
- 694年-01:00|イタリア| |||<死去>フリウリ領主「ロドアルド」
- 694年-01:00|イタリア| |||<就任>フリウリ領主「アンスフリド」 (~同年) ⇒「アド」 (~705年死去)
- 694年-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| |||<即位>西哥ート王国国王「ウイティサ」 (~710年死去)
- 694年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラスカイト王「Dumnagual (Dyfnwal ap Owain)」
- 694年 00:00|イギリス| |||<譲位>エックス王「Saebbi Sigebeorhtes sunu」
- 694年 00:00|イギリス| |||<即位>エックス王「Sigeheard Saebban sunu」 (~709年死去)、「Swæfraed Saebban sunu」 (~704年死去)
- 694年1月20日-08:00|中国| |||武周・長壽3年臘月19日|突厥の默啜が靈州を寇した/右鷹揚衛大將軍の李多祚がこれを破った
- 694年3月17日-08:00|中国| |||武周・長壽3年2月16日|薛懐義が伐逆道行軍大総管となり、十八將軍を領して默啜を攻撃
- 694年3月26日-08:00|中国| |||武周・長壽3年2月25日|武威道大総管の王孝傑が吐蕃と冷泉で戦い、これを破った
- 694年3月31日-08:00|中国| |||武周・長壽3年3月1日|薛懐義が朔方道行軍大総管となり、默啜を攻撃
- 694年4月17日-09:00|日本| |||持統8年3月18日|百濟王の一族鵜大寺の徳聡ら、父母の恩に報いるため観世音菩薩像を造る
- 694年5月-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハ「テルゲル」 (~715年)
- 694年6月9日-08:00|中国| |||武周・延載1年5月11日|武周・武則天が延載と改元
- 694年9月25日-08:00|中国| |||武周・延載1年9月1日|朔、日食があった
- 694年11月23日-09:00|韓国/朝鮮| |||武周・延載2年正月|新羅・孝昭王が子の月(陰暦11月)を正月とする

0700迄 (2145件)

- 694年12月-03:00|イラク| ||ハッジヤーンがイラク総督に任じられ、ペルシアの版図を統制
694年12月18日-08:00|中国| ||武周・延載2年正月26日|王孝傑が朔方行軍総管となり、突厥を攻撃
694年12月27日-09:00|日本|奈良県橿原市|持統8年12月6日|持統天皇が藤原宮に遷都
695年-05:30|インド| ||<即位>ハルハ朝君主「ナシハヴァルマン2世」(~722年)
695年-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国皇帝「レオンティオス」(~698年)
695年-02:00|トルコ| ||<廃位>東ローマ帝国皇帝「ユスティニアヌス2世」リトメトス|クーデターによりクレミア半島のケルソに追放
695年-02:00|シリア・アラブ| ||ウマイヤ朝が言語をアラビア語に統一
695年-02:00|シリア・アラブ| ||ウマイヤ朝がテイナー金貨を鑄造
695年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<死去>フランク王国(メロヴィンギ朝)国王「クワティス4世」
695年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>フランク王国(メロヴィンギ朝)国王「キルデベルト3世」(~07110423)
695年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「ロイング・セク・マック・エンガツ」(~703年)
695年 06:00|ホッソユラス| ||<即位>コパン王「ワツァック・ラン・ウハク・カウール」(~07380503、キリガア王カック・テイリウ・チャン・ヨアト(「カウク空」)によって捕らえられ斬首される)最盛期をむかえる
695年 06:00|グアテマラ| ||マヤのティカル王朝が周辺都市と戦争を頻発におこす
695年1月21日-09:00|日本|熊本県|持統9年|肥後国が筑紫国から分離成立
695年1月22日-08:00|中国| ||武周・証聖1年1月2日|武周・武則天が証聖と改元
695年2月19日-08:00|中国| ||武周・証聖1年2月1日|朔、日食があった
695年4月20日-09:00|日本/韓国| ||新羅・孝昭王4年;持統9年3月2日|新羅・王が日本に使節として王子を遣す
695年8月30日-08:00|中国| ||武周・証聖1年7月16日|吐蕃が臨洮を寇し、王孝傑が肅辺道行軍大総管となってこれを攻撃
695年10月18日-09:00|日本/韓国| ||持統9年;新羅・孝昭王4年9月6日|遣新羅使小野毛野ら出発
695年10月21日-08:00|中国| ||武周・天冊萬歳1年9月9日|武周・武則天が天冊萬歳と改元
695年11月11日-08:00|中国/モンゴル| ||武周・天冊萬歳1年10月|突厥の默啜が使者を派遣して降伏
696年-05:30|インド| ||<即位>チャールキア朝国王「ウヰンヤテ・イイヤ」(~733年)
696年-03:00|イラク| ||ウマイヤ朝のイラク総督ハッジヤーンがテイルム銀貨を鑄造
696年-01:00|イタリア| ||<即位>ホルリ公「テオドシアス」(~706年)
696年-01:00|オランダ| ||エトレヒト司教区が創設
696年 00:00|イギリス| ||<死去>ダリア女王「Domhnall donn mac Conaill」反乱側
696年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリア女王「Eochaidh mac Domangairt」反乱側(~697年死去)
696年1月10日-08:00|中国/モンゴル| ||武周・万歳登封1年|契丹人の李尽忠が唐・営州都督の悪政に抗議して反乱
696年1月10日-08:00|中国| ||武周・万歳登封1年臘月|武周・武則天が万歳登封(-696年)と改元
696年4月7日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年3月1日|素羅汗山にて、王孝傑と婁師徳が、吐蕃と戦い大敗
696年4月22日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年3月16日|武周・武則天が万歳通天(-697年)と改元
696年6月16日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年5月12日|営州契丹松漠都督李盡忠と帰誠州刺史孫萬栄が拳兵し営州を攻撃して、都督の趙文サイを殺す
696年8月4日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年7月|李尽忠は無上可汗と自称して営州を占拠、進軍して檀州を包囲したが、清辺前軍副総管・張九節がこれを撃退/尽忠、病死
696年8月13日-09:00|日本| ||持統10年7月10日|<死去>高市皇子(43歳)天武天皇の皇子
696年9月2日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年8月|硤石谷にて、曹仁師、張玄邁、麻仁節が契丹と戦い、契丹が大勝、唐軍全軍潰滅
696年10月19日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年9月18日|突厥軍が涼州へ来寇し、都督の許欽明を捕らえた
696年11月22日-08:00|中国| ||武周・万歳通天1年10月22日|契丹の李盡忠が卒し、孫萬栄が代わって部下を統率
696年11月30日-08:00|中国| ||武周・万歳通天2年正月|默啜が靈州へ入寇
696年12月24日-08:00|中国| ||武周・万歳通天2年正月25日|默啜が勝州へ来寇したが、平狄軍副使安道買が撃破
697年-05:30|インド| ||<建国>カール国(⇒後にヒラプル国)
697年-04:00|アルメニア/サウジアラビア| ||アルメニアはイスラム支配下(~700年)
697年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国初代ドージェ(元首)「パオロ・ルチオ・アナフェスト」(~717年)
697年-01:00|イタリア| ||<独立>ヴェネツィア共和国を樹立
697年-01:00|チュニジア| ||北アフリカのムスリム軍がカヒナ率いるベルベル軍をガハスで撃破
697年 00:00|イギリス| ||<死去>ダリア女王「Eochaidh mac Domangairt」反乱側
697年 00:00|イギリス| ||<死去>ダリア女王「Ferchar fota mac Feradhaigh」
697年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリア女王「Ainbhchellach mac Ferchair fota」(~698年廃位)
697年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒクト王「Bruide mac Der Ilei (Bridei4世)」(~706年死去)
697年4月8日-08:00|中国| ||武周・万歳通天2年3月12日|東夾谷にて、清辺道総管王孝傑と蘇宏暉等が孫萬栄と遭遇し、戦った/契丹軍に唐軍は大敗/契丹は勝ちに乗じて幽州へ来寇し城邑を攻め落とした
697年5月13日-08:00|中国| ||武周・万歳通天2年4月18日|右金吾衛大將軍武懿宗を神兵道行軍大総管として、右豹々衛將軍何迦密と共に兵を与えて契丹を攻撃させた
697年5月22日-08:00|中国| ||武周・神功1年4月27日|武周・武則天が神功と改元
697年6月2日-08:00|中国| ||武周・神功1年5月8日|婁師徳を清辺道副大総管、右武威衛將軍沙々忠義を前軍総管として、二十万の兵を与えて契丹を攻撃させた
697年7月23日-08:00|中国| ||武周・神功1年6月30日|默啜は契丹の孫萬栄を背後から攻撃しこれを滅ぼす

0700迄 (2145件)

- 697年7月26日-08:00|中国| ||武周・神功1年7月3日|昆明が帰順したので賓州を設置
697年8月22日-09:00|日本| ||文武1年8月1日|<讓位>第41代「持統天皇」、孫の軽皇子踐祚/持統天皇は太上皇となり政務を執る
697年9月7日-09:00|日本| ||文武1年8月17日|<即位>第42代「文武天皇」第41代持統天皇の孫の軽皇子(~07070615)
697年11月17日-09:00|日本/韓国| ||新羅・孝昭王6年10月28日|新羅使の一吉キウ(新羅の官位17等の六頭品・7位)のキヒツク(金弼徳)・副使の奈麻(五頭品・11位)のキニソク(金仁想)等が、朝廷に来訪/翌年2月3日、帰国
697年12月20日-08:00|中国/朝鮮| ||武周・聖暦1年|高句麗・遺民とみられる大祚栄が、中国東北部に建国し、国号を「震国」とする(後の渤海)
697年12月20日-08:00|中国| ||武周・聖暦1年正月1日|朔、冬至、武周・武則天が聖暦(-700年)と改元
698年-08:00|中国| ||武周・聖暦元年|<即位>渤海国王「高王大祚栄」(~開元7年3月8日(719年4月2日)死去)
698年-02:00|トルコ| ||<廢位>東ローマ帝国皇帝「レオンティオス」反乱により
698年-01:00|チュニジア/トルコ| ||北アフリカのムスリム軍がビザンティン軍を破り、カタゴを再占領
698年 00:00|イギリス| ||<即位>ダールリア王「Fiannamail ua Dunchada」(~700年死去)
698年 00:00|イギリス| ||<廢位>ダールリア王「Ainbhchellach mac Ferchair fota」
698年2月15日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国皇帝「テイレリオス3世」(~7050821)
698年4月16日-09:00|韓国/日本| ||文武2年3月|日本国使、新羅に来朝/王、崇礼殿において引見
698年9月10日-08:00|中国| ||武周・聖暦1年8月|司属卿武重規を天兵中道大総管、右武衛將軍沙夕忠義を天兵西道総管、幽州都督の張仁愿を天兵東道総管とし、三十万の兵を与えて突厥の默啜を討伐させた
698年9月28日-09:00|日本| ||文武2年8月19日|藤原姓を不比等に限ることとし、他は中臣姓に戻す
698年10月5日-08:00|中国| ||武周・聖暦1年8月26日|默啜は飛狐へ入寇
698年10月7日-08:00|中国| ||武周・聖暦1年8月28日|默啜が定州を落とし刺史の孫彦高及び吏民数千人が殺された
698年11月11日-09:00|日本|奈良県奈良市|文武2年10月4日|藤原京に天武天皇の発願による薬師寺が建立
698年12月8日-08:00|中国| ||武周・聖暦2年|默啜は拓西可汗と号した
698年12月15日-08:00|中国| ||武周・聖暦2年正月8日|控鶴監丞、主簿等の官を設置
699年-03:30|イラン/オマーン| ||アスラ派が討伐軍により全滅
699年-01:00|アルバニア| ||<即位>ミラネー朝(アルバニア)大公「Shiruye」(~704年)
699年2月6日-09:00|日本|山梨県南都留郡富士河口湖町|文武3年|藤原義忠によって富士御室浅間神社創建
699年3月7日-09:00|韓国/中国| ||新羅・孝昭王8年2月|新羅・孝昭王が唐への朝貢を再開
699年6月26日-09:00|日本|静岡県|文武3年5月24日|修験道の開祖・役行者(役小角)が弟子の讒言により伊豆に流罪
699年8月21日-09:00|日本| ||文武3年7月21日|<死去>弓削皇子(27歳)天武天皇の王子
699年10月23日-09:00|日本| ||文武3年9月25日|<死去>新田部皇女(不明)天武天皇の妃、天智天皇の皇女
699年11月27日-09:00|朝鮮| ||武周・聖暦3年|<即位>小高句麗王「高德武」(~755年)
699年11月27日-09:00|朝鮮/中国| ||武周・聖暦3年|安東都護府を改めて安東都督府となし、高句麗王の子高德武を都督とする
699年12月29日-09:00|日本| ||文武3年12月3日|<死去>大江皇女(不明)天武天皇の妃、天智天皇の皇女
700年-05:30|インド| ||<建国>ドルブル国
700年-04:00|アルメニア/トルコ| ||アルメニアはビザンチンの支配が復活(~711年)
700年-02:00|ジンバブエ| ||このころ、ジンバブエ高原のマクル集落跡が形成
700年-01:00|ナイジェリア| ||8世紀、イフェに初期王国誕生
700年-01:00|イタリア| ||<死去>イタリア王・ランゴバルト王「クニベルト」
700年-01:00|イタリア| ||<就任>イタリア・ランゴバルト王「アンスブラント」(~701年)
700年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「ウード」(大公) (~735年死去)
700年-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア王・ランゴバルト王「リウトバルト」クニベルトの子(~701年廢位)
700年-01:00|ノルウェー| ||<即位>ヘストフォルト王「Oystein Halvdansson "Fret"」(~730年)
700年-01:00|ノルウェー| ||<即位>ホルダラン王「Hjor Halvsson」(~720年)
700年-01:00|ノルウェー| ||ソルガヘストフォルトに併合
700年-01:00|チュニジア| ||マグレブのイフリキヤがカイワーンを首都に独立州となる
700年 00:00|イギリス| ||<死去>ダールリア王「Fiannamail ua Dunchada」
700年 00:00|イギリス| ||<即位>ダールリア王「Becc ua Dunchada」(~707年死去)
700年 00:00|イギリス| ||<即位>ダールリア王「Selbach mac Ferchair」(~723年退位)
700年 00:00|マリ| ||このころまでに、ソニケ族の王によるガナ帝国の建設
700年 05:00|ペルー| ||ワリ文化が広がる
700年 07:00|メキシコ| ||7世紀後半、テオティワカン滅亡、トルカの時代始まる
700年1月15日-09:00|日本| ||文武3年12月20日|鑄銭司設置(中臣意美麻呂)
700年1月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・孝昭王9年1月1日|新羅・孝昭王が寅の月(夏王朝代に正月とされた陰暦の正月)を正月とする
700年4月3日-09:00|日本| ||文武4年3月10日|法相宗の僧・道昭が火葬される/記録上日本初の火葬
700年4月14日-09:00|日本| ||文武4年3月21日|<大宝律令>「大宝令」(行政法つまり国家の体制や官職(役人:官僚の役職)について定めた法律)完成し公布、天皇中心の中央集権国家体制が法的に整備される

0700迄 (2145件)

700年4月27日-09:00|日本| ||文武4年4月4日|<死去>明日香皇女(不明)天智天皇の皇女

700年5月27日-08:00|中国| ||武周・久視1年5月5日|武周・武則天が久視(-701年)と改元

700年6月4日-09:00|日本/韓国| ||文武4年5月13日|文武天皇が、直広肆(諸臣48階の16位)の佐伯の宿禰麻呂を遣新羅大使、勤大肆(諸臣48階の23位)の佐味の朝臣賀佐麻呂を小使に任命し、大少位各1人・大少史各1人も任命/10月19日帰国

700年6月21日-08:00|中国| ||武周・久視1年6月|則天皇帝は李楷固を左玉今衛將軍、駱務整を右武威衛將軍に任命/彼等へ契丹の殘党を攻撃させ、ことごとく平定

700年8月19日-08:00|中国| ||武周・久視1年閏7月|阿悉吉薄露が造反/左金吾將軍・田揚名、殿中侍御史・封思業を派遣して、討伐させた/封思業は敗北/田揚名は西突厥の斛瑟羅の衆を率いて敵の城を攻撃したが、十日余り攻めても落とせなかった

700年9月8日-08:00|中国| ||武周・久視1年閏7月21日|吐蕃の將、麴奔布支が涼州へ来寇し、昌松を包圍し洪源谷にて、隴右諸軍大使の唐休璟と戦い、吐蕃軍は大いに逃げた

700年10月17日-08:00|中国| ||武周・久視1年9月|阿悉吉薄露が偽って降伏したところ、封思業はこれを誘い込んで斬り、遂にその衆を捕らえた

700年12月16日-08:00|中国| ||武周・久視1年11月|甲寅、武周・武則天が正月を十一月へ、一月を正月へ戻す

700年12月22日-09:00|日本/韓国| ||新羅・孝昭王9年11月8日|新羅使の沙訶ウ(薩訶ウ、六頭品・8位)のコソモウ(金所毛)が、来訪